9章 講義要綱

- 各科目の講義要綱は、授業日数（各期６日間）を前提に執筆されています。
- 講義要綱には、**絶版**もしくは**品切れ**となった参考書も記載してあります。これは、「その参考書が学習上有益である。」と担当者が判断したものです。可能な範囲で図書館などで探して学習することを勧めます。
- 講義要綱記載の指定テキストは、変更になる場合があります。『ニューズレター慶應通信』６月号の配布を受けてから購入してください。
- 開講科目の中には、授業時間外にパソコンの使用を想定しているものがあります。その場合は、担当教員より授業時に指示があります。

1 総合教育科目

３分野科目／人文科学分野

科目 哲学　２単位

担当 文学部教授 柏端達也 ／ 講師 横路佳幸

本講義では、哲学の最重要分野の一つである「認識論」に関連する現代的なトピックを考えることで、哲学そのものを深く理解することを目指す。

認識論（または知識論、知識の哲学）は、世界や実在についての知識の成立やあり様を明らかにする分野である。「この世界には何が存在するのか」といった形而上学的な問いとの対比で言えば、認識論では、たとえば「何かが存在することを私はいかにして知るのか」といったことが問題となる。またもちろん「知るとはそもそもどういうことか」といったこともそこで問われることになる。

柏端のパート（第１回〜第３回）では、個々のトピックへの導入として、「知る」ということが問題になる大きな哲学的背景について説明し、知識の概念一般に関わる基本概念を整理・紹介し、「知識」と呼びうるものの広がりを確認する。

横路のパート（第４回〜第11回）では、現代の認識論上の諸問題をとりあげ、回ごとに異なるトピックを掲げる。具体的には、懐疑論と正当化された真なる信念をはじめとする「基礎」から、知識文にかんする言語哲学と道徳的知識にかんする倫理学をはじめとする「応用」まで幅広く考察する。

最後の第12回は総括と試験を行う。

〔第１回〕 イントロダクション

授業全体のプランを説明した後に、哲学的な認識論がどのようなテーマをどのような方法で研究する学問かを概説する。

〔第２回〕 精神と世界、知識と信念

精神と世界の関係や、「表象」という考えについて述べる。それらは知識をめぐる議論の背景を構成する。また「信念」や「行為」といった関連諸概念についても触れる。

〔第３回〕 Knowing Howと動物の知識

知識と技能、あるいは環境への適応という観点から、「知識」概念の多様性と境界を探る。少し広い文脈でこの講義が何について論じているのかを確認する。

〔第４回〕 懐疑論の問題と応答

我々の知識を根底から揺るがす懐疑論に焦点を当て、どのような解決が可能であるかを考察する。

〔第５回〕 正当化とはなにか（１）

知識を構成する「正当化」がどのようなものであるかを検討する。特に、信念を正当化する理由・証拠が認識主体にとって認知的にアクセス可能であるべきかを考察する。

〔第６回〕 正当化とはなにか（２）

知識を構成する「正当化」がどのようなものであるかを検討する。特に、信念体系との整合性や認識的徳の観点から、正当化がどのようにしてもたらされるかを考察する。

〔第７回〕 知識分析（１）

知識を「正当化された真なる信念」とみなす伝統的な認識論へのさまざまな反例や認知実験例をとりあげ、ゲッティエ以降から1970年代までの主要な知識分析を検討する。

〔第８回〕 知識分析（２）

知識を「正当化された真なる信念」とみなす伝統的な認識論へのさまざまな反例や認知実験例をとりあげ、1980年代から現在に至るまでの主要な知識分析を検

討する。
〔第９回〕 知識文と現代認識論（１）
　知識文（「知る」という語）の言語的な特徴について考え、認識論における近年の「新しい言語論的転回」を確認する。
〔第10回〕 知識文と現代認識論（２）
　知識文（「知る」という語）の言語的な特徴について考え、言語哲学上の新しい理論が現代認識論上のトピック・問題とどのように関わるかを検討する。
〔第11回〕 道徳的知識・社会的知識と現代認識論
　善悪についての道徳的知識や集団による社会的知識に焦点を当て、現代認識論の応用と発展可能性を考える。
〔第12回〕 試験および総括

◆テキスト
　プリントを適宜配布する。

◆参考文献
・プラトン（著）、渡辺邦夫（訳）『テアイテトス』（光文社、2019年）
・ギルバート・ライル（著）、坂本百大、井上治子、服部裕幸（訳）『心の概念』（みすず書房、1987年）
・納富信留、檜垣立哉、柏端達也（編）『よくわかる哲学・思想』（ミネルヴァ書房、2019年）
・戸田山和久（著）『知識の哲学』（産業図書、2002年）
・伊勢田哲治（著）『認識論を社会化する』（名古屋大学出版会、2004年）
・スティーヴン・スティッチ（著）、薄井尚樹（訳）『断片化する理性――認識論的プラグマティズム』（第１章のみ）（勁草書房、2006年）
・野村康（著）『社会科学の考え方――認識論、リサーチ・デザイン、手法』（第１章のみ）（名古屋大学出版会、2017年）
・植原亮（著）『自然主義入門――知識・道徳・人間本性をめぐる現代哲学ツアー』（第８章のみ）（勁草書房、2017年）

◆成績評価方法
　最終日の試験による。ただし、出席点も加味する。

科目 論理学　２単位

担当 講師 佐藤有理 ／ 講師 佐々木昭則

　この講義は、現代論理学の入門コースです。現代論理学は、しばしば記号論理学とも呼ばれ、形式言語・人工言語を導入した上で、推論（inference）あるいは論証（argument）について分析を行います。特にこの講義では、古典論理（Classical Logic）のうち命題論理（Propositional Logic）と呼ばれる論理学の中で最も基礎となるシステムにおいて、意味論（真理表）と証明論（自然演繹）それぞれの観点から、正しい推論を誤った推論から区別する原理的な方法を学びます。
　ただし、現代論理学を学ぶ上で、論理を形式理論と１総合教育科目としてだけみなす必要はありません。われわれの日常的な場面と結びつけ、具体例を交えながら理解を深めていくことも可能です。講義では、そのためのサポートも行いたいと思っています。
　現代論理学を学ぶということは、なにかを暗記する作業ではなく、これまで出会ったことのない未知の問題にも適用できるようなある種の一般的な考え方や手続きを身につけることです。そのためには、わからないところがあれば、どこがわからないのかをはっきりさせ、そのつど疑問点を解消していく必要があります。論理学の授業は、そのような学習のスキルを身につける格好の機会になります。
〔第１回〕 インフォーマルな推論の分析
〔第２回〕 日本語文の記号化／命題論理の形式言語
〔第３～５回〕 命題論理の意味論（真理表）
〔第６～10回〕 命題論理の証明論（自然演繹）
〔第11回〕 述語論理入門
〔第12回〕 試験および総括

◆テキスト
　プリントを適宜配布します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件
　講義中に問題演習を行うので、ノートを用意することをお薦めします。受講上の前提条件はありません。特別な事前知識は仮定していません。

◆成績評価方法
　最終日に実施される非論述式の記述試験（論理の問題を解くことが求められます）の得点を基に評価します。

科目 倫理学　２単位

担当 講師 圓増 文

　この授業では、おもに「幸福とはどのような状態か」、「道徳的であることと幸福であることはいかに関係するのか」、「何をもって平等とみなすのか」、「自由とは何か」、「道徳的であるとはどのようなことか」といった問題をめぐる近現代の倫理学の代表的な学説や議論を紹介していきます。また、現代社会における倫理的な課題を可能な限り取り上げていきます。時間・受講者数に応じて授業中にディスカッションを行います。
〔第１回〕 イントロダクション、幸福をめぐる思想・議論
〔第２回〕 幸福をめぐる思想・議論
〔第３回〕 社会と正義、平等をめぐる思想・議論
〔第４回〕 社会と正義、平等をめぐる思想・議論
〔第５回〕 社会と正義、平等をめぐる思想・議論
〔第６回〕 善悪、道徳をめぐる思想・議論
〔第７回〕 善悪、道徳をめぐる思想・議論
〔第８回〕 善悪、道徳をめぐる思想・議論
〔第９回〕 自由をめぐる思想・議論
〔第10回〕 自由をめぐる思想・議論
〔第11回〕 自由をめぐる思想・議論
〔第12回〕 自由をめぐる思想・議論
〔その他〕 グループ・ディスカッション

◆テキスト
・柘植尚則編著『入門・倫理学の歴史―24人の思想家』（梓出版社、2016年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
　授業中実施するディスカッションに積極的に参加してください。

◆成績評価方法
　最終日の試験を基に評価します。

科目 芸術（美術） 2単位

担当 講師 國本学史

◆講義概要

本講義は、通史的に日本美術史を概観する。特に古代から近世に至る時代における日本美術を中心に歴史を辿る。この時代、日本は諸外国の影響を受けつつも、独自の文化・芸術を発展させて行った。歴史的な流れとともに様々な芸術作品を見ることで、日本独特の美意識や文化の深層を探る端緒としたい。

◆講義方法

講義では画像を多く用いて、視覚的に分かりやすく解説する。対象は、絵画・彫刻・工芸・建築等、幅広い領域にわたり、多くの作品を歴史の流れに沿って考察する。

◆到達目標・目的

美術における表現・デザインを学ぶことで芸術が生成された背景を探り、履修者が知識・教養を会得して、即物的利益性や金銭を基準とした価値観とは異なる、「歴史・文化・芸術」的な価値とは何であるのか、という個々の見識を得られるような内容としたい。

◆講義計画

〔第１回〕 はじめに、日本美術のあけぼの
〔第２回〕 祭祀と美術
〔第３回〕 仏教伝来と美術
〔第４回〕 国の形成と美術
〔第５回〕 国家事業と美術
〔第６回〕 海外交流と美術
〔第７回〕 密教と美術
〔第８回〕 王朝文学と美術
〔第９回〕 極楽浄土と美術
〔第10回〕 武家社会と美術
〔第11回〕 文化の多様性と美術
〔第12回〕 様々な担い手と美術、まとめ

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・辻惟雄監修『カラー版日本美術史〔増補新装版〕』（美術出版社、2003年）
・『日本美術全集』全24巻+別巻２巻（講談社、1990～94年）他

上記の参考文献、全集等の参考文献は購入の必要はない。

大学のメディアセンター等を活用し、各自で必要な文献を参照されたい。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

高等学校で履修する日本史の基礎知識があると、理解の手助けになる。ただし、知識がなくとも、講義内容を理解できるような解説を行う。受講のための制限は設けない。パワーポイントスライドの映写時には教室を暗くするため、必要に応じて受講者は手元ライト等を準備されたい。

◆成績評価方法

平常点、及び講義の際に課す小テスト（合計３回程を予定）の成績等をもって評価する。当該の小テストは、講義時間内に実施する。

講義初日に、小テストの日程等を通知予定。

科目 芸術（音楽） 2単位

担当 講師 池上健一郎

西洋音楽と自然

あらゆる芸術は、それが生まれた風土や環境と分かちがたく結びついています。それは西洋音楽も例外ではありません。多くの作曲家にとって自然は創作の規範であり続けましたし、自然の価値を（再）発見することによって新しい音楽表現の可能性を見出した作曲家も少なくありません。

この講義では、西洋音楽において自然はどのように表現されてきたのか、そしてその根底にある西洋の自然観や自然のイメージはどのようなものだったのか、といった問題を考えてゆきます。主に17世紀から20世紀までの音楽史を扱います。毎回、自然にまつわる楽曲を取り上げ、録音や映像を用いて実際に鑑賞する時間を設けながら、各作曲家や時代特有の自然表現の方法、およびその移り変わりをたどります。また、西洋社会における自然観や美意識の変遷というより大きな枠組みを理解するために、音楽だけではなく同時代の文学や絵画にも適宜触れる予定です。したがって、受講者には、西洋の文化や芸術全般に対する広い関心を期待します。

〔第１回〕 イントロダクション
〔第２回〕 アルカディアと音楽 ── モンテヴェルディ《オルフェオ》
〔第３回〕 18世紀の自然観と〈描く音楽〉 ── ハイドンのオラトリオ（１）
〔第４回〕 18世紀の自然観と〈描く音楽〉 ── ハイドンのオラトリオ（２）
〔第５回〕 自然の体験と感情の表現 ── ベートーヴェン《交響曲第６番「田園」》（１）
〔第６回〕 自然の体験と感情の表現 ── ベートーヴェン《交響曲第６番「田園」》（２）
〔第７回〕 ロマン主義と失われたアルカディア ── ベルリオーズの場合
〔第８回〕 ロマン主義と失われたアルカディア ── シューベルトの場合
〔第９回〕 「自然の音のように」 ── マーラーの自然観と音楽観
〔第10回〕 「野外の音楽」 ── ドビュッシーの自然観と音楽観
〔第11回〕 ノイズ、無秩序、沈黙 ── 20世紀の音楽と自然
〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・エマニュエル・レベル／西久美子訳『ナチュール── 音楽と自然』（アルテスパブリッシング、2016年）
・岡田暁生『西洋音楽史── 「クラシック」の黄昏』（中公新書、2005年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

受講にあたって、演奏経験や楽典の知識は前提としません。参考のために楽譜を配布することもありますが、楽譜が読めなくても講義自体は理解できるよう配慮します。むしろ、主体的に音楽を聴き、感じ、考え

る姿勢を求めます。また、講義をより深く理解するために、西洋音楽史の大まかな流れをあらかじめ学んでおくと良いでしょう。

◆成績評価方法

最終日に実施する試験による（論述式､持ち込み可)。

科目 歴史（日本史） 2単位

担当 文学部助教 藤本 誠

本講義では、古代日本の仏教について、仏教伝来から平安時代前期までの時期を中心として、古代国家の仏教政策と地域社会の仏教受容の観点から考察していきたい。

〔第１回〕 序　古代仏教史をめぐる諸問題の概説と仏教伝来
〔第２回〕 七世紀前半の国家の仏教政策①
〔第３回〕 七世紀前半の国家の仏教政策②
〔第４回〕 七世紀後半の国家の仏教政策と地域社会①
〔第５回〕 七世紀後半の国家の仏教政策と地域社会②
〔第６回〕 八世紀前半の国家の仏教政策と地域社会①
〔第７回〕 八世紀前半の国家の仏教政策と地域社会②
〔第８回〕 八世紀後半の国家の仏教政策と地域社会①
〔第９回〕 八世紀後半の国家の仏教政策と地域社会②
〔第10回〕 九世紀前半の国家の仏教政策と地域社会①
〔第11回〕 九世紀前半の国家の仏教政策と地域社会②
〔第12回〕 総括
〔その他〕 小テスト

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆成績評価方法

①受講態度
②リアクションペーパー
③最終日の試験

科目 歴史（東洋史） 2単位

担当 文学部教授 岩間一弘 ／ 講師 矢久保典良

本講義では、19世紀末から20世紀前半までの中国(清朝と中華民国) に着目しながら､東アジアの「近代」について考えてきます。近代以前の東アジアは、近代西洋国家とは異なる一定の合理性に基づく制度や理念(華夷秩序や朝貢・冊封体制など）を持っていました。しかし、西洋諸国の世界進出に伴い、近代西洋の経験から生まれた国民国家とナショナリズムなどといった価値観が東アジアにももたらされました。これは中華世界の中心であった中国にも影響を与えました。これによって、中国も国家の枠組みを再構築していかなければならず、伝統的な王朝国家から近代的な国民国家への転換が試みられた。中央集権化や国民統合のプロセスを通して、白日の下に晒されたのは中国の持つ多様性と複雑性でした。そこで、統一性と多様性、統合と自立といった要素に注目しながら、19世紀末から中華人民共和国成立までの東アジアの近代がいかなる時代であったかを、ナショナリズム、エスニシティや辺疆などといったトピックを交えながら多角的な視点から講義していきます。

〔第１回〕 イントロダクション―食文化交流から見る近代東アジア（１）
〔第２回〕 イントロダクション―食文化交流から見る近代東アジア（２）
〔第３回〕 伝統的な東アジアの秩序
〔第４回〕 清末中国と近代世界（１）西洋の衝撃と国内の危機
〔第５回〕 清末中国と近代世界（２）清朝の近代化の試み
〔第６回〕 中華民国の誕生と「辺疆の危機」
〔第７回〕 ナショナリズム台頭の時代―国民の統合を目指して
〔第８回〕 国民国家建設の試みと西北の開発
〔第９回〕 日中戦争と戦時体制・社会
〔第10回〕 近代中国とその「周縁」―近代中国のなかのムスリムを例に
〔第11回〕 国民政府の「戦後」―多様な集団の政治参加の試み
〔第12回〕 総括

◆テキスト

指定しない。

◆成績評価方法

出席状況および試験による。

科目 歴史（西洋史） 2単位

担当 講師 舟橋倫子

現在ヨーロッパはテロ・移民・ポピュリズム・分断といった様々な問題に直面しています。この講義では、文化的・地理的概念としての「ヨーロッパ」が生み出され、形成されてゆく過程を古代から近代までを対象として検討してゆきます。「ヨーロッパ」とは何でしょうか。それは多様な共同体の総体であり、結合と分裂を繰り返す文化的な有機体です。歴史の授業では近現代が中心とされがちですが、ヨーロッパという世界はそれ以前の時代に形成され、成熟していったことを忘れるわけにはいきません。ヨーロッパは矛盾と分裂を抱えつつも止まることなく絶えず自らの領域モデルを抜け出して発展し、他者との対話によって新たな姿を目指して変化し続けてきました。その特有のダイナミズムこそが現代まで脈々と生き続けているヨーロッパの本質であると考えます。各人がそれぞれのヨーロッパ像を具体的に描くことが出来るようになることを学習の目的とします。

〔第一日〕 ①地中海世界：文化的重層性と寛容　②ローマ帝国とキリスト教：分裂と統合
〔第二日〕 ③ローマとゲルマン：移民・他者との共存　④中世社会の形成：キリスト教と国家
〔第三日〕 ⑤農村の世界:共同体形成　⑥都市の世界:新たな社会秩序
〔第四日〕 ⑦経済発展のダイナミズム：格差と闘争　⑧中世末期の危機：飢饉と疫病
〔第五日〕 ⑨宗教改革のエネルギー　⑩植民地：ヨーロッパの拡大と矛盾
〔第六日〕 ⑪ヨーロッパの多様性と統合：総括　⑫試験

◆テキスト

プリントを適宜配布します。

◆参考文献
・服部良久／南川高志／山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史「古代・中世」』（ミネルヴァ書房、2006年）
・小山哲／上垣豊／山田史郎／杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史「近現代」』（ミネルヴァ書房、2011年）
・J･ル＝ゴフ著、池田健二･菅沼潤訳『中世とは何か』（藤原書店、2005年）
・J-L.フランドラン／M.モンタナーリ編、宮原信・北代美和子監訳『食の歴史』（藤原書店、2006年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
高等学校で履修する程度の世界史の知識があることを前提として講義を進めます。

◆成績評価方法
成績評価方法　最終日に試験を行います。配布プリントと自筆ノートは持ち込み可とします。

科目 文学A　2単位

担当 文学部准教授 栗本賀世子

古代において、占いは神意を読み取るための重要な技術と見なされていた。その中の一つに、見た夢で吉凶を判断する夢合（夢解）というものがある。古代の物語の中では、夢合が多く描かれ、物語の展開上大きな役割を果たすことが多い。本授業では、平安時代の夢が当時の人々にどのように考えられていたかをまずおさえた上で、『源氏物語』を中心とする物語作品の夢合の場面を読んでいき、夢が描かれる意義について考えていく。

〔第１回〕　予知夢と夢合①
〔第２回〕　予知夢と夢合②
〔第３回〕　予知夢と夢合③
〔第４回〕　男性貴族の日記と夢合
〔第５回〕　蜻蛉日記と夢合
〔第６回〕　更級日記と夢合
〔第７回〕　うつほ物語と夢合
〔第８回〕　源氏物語と夢合①
〔第９回〕　源氏物語と夢合②
〔第10回〕　源氏物語と夢合③
〔第11回〕　源氏物語と夢合④
〔第12回〕　試験・総括

◆テキスト
プリントを適宜配布する。

◆参考文献
・藤本勝義『源氏物語の想像力』（笠間書院、1994年）
・藤本勝義『源氏物語の表現と史実』（笠間書院、2012年）
・倉本一宏『平安貴族の夢分析』（吉川弘文館、2008年）
・杉山弘道『便利につかわれている古典･昔話（民話）の夢』（風詠社、2012年）
・江口孝夫『日本古典文学　夢についての研究』（風間書房、1987年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
『源氏物語』『蜻蛉日記』『更級日記』『うつほ物語』などの平安文学作品を扱う予定。それぞれの大まかなあらすじを事前に頭に入れておくのが望ましい。

◆成績評価方法
平常点（出席状況及び毎回のリアクションペーパー、30％）と試験の結果（70％）による評価。試験は持ち込み可である。

科目 文学B　2単位

担当 文学部教授 斎藤太郎

ゲーテの『若きヴェルターの悩み』を読む

ドイツ文学史上最大の作家ヨーハン・ヴォルフガング・ゲーテの書簡体小説『若きヴェルターの悩み』を扱います。『ヴェルター』は我が国でも明治期に紹介されて以来、とくに青春時代の必読書として現代に至るまで読み継がれてきました。しかし、この物語はしばしば誤解されるような、たんなる悲恋物語の枠に収まる作品ではありません。1774年にこの作品が発表されたときにドイツの、さらにはヨーロッパの読者たちに与えた衝撃の大きさは、主人公を模倣して自殺する者が続出したというエピソードにも明らかですが、この講義ではこの作がなぜこれほどまで「時代の神経」を捉えたかを追体験することをめざします。そのために、若きゲーテが生きた18世紀ドイツの社会的・政治的・思想的状況を概観しながら、丁寧にこの作品を読み解いていきます。さらにはこの作品に対する様々な反応、その後の受容史にも触れたいと思います。

〔第１回〕　イントロダクション
〔第２回〕　18世紀ドイツの状況
〔第３回〕　若きゲーテとシュトルム・ウント・ドラング運動
〔第４回〕『ヴェルター』第一部を読む（１）
〔第５回〕『ヴェルター』第一部を読む（２）
〔第６回〕『ヴェルター』第一部を読む（３）
〔第７回〕『ヴェルター』第二部を読む（１）
〔第８回〕『ヴェルター』第二部を読む（２）
〔第９回〕『ヴェルター』第二部を読む（３）
〔第10回〕『ヴェルター』への反応（ニコライ『ヴェルターの喜び』、ゲヒハウゼン『ヴェルター・フィーバー』etc.）
〔第11回〕『ヴェルター』受容史（シェリー『フランケンシュタイン』、日本浪曼派etc.）
〔第12回〕　総括および試験

◆テキスト
・ゲーテ（竹山道雄訳）『若きウェルテルの悩み』岩波文庫、1978年（改版）

◆参考文献
・宮下啓三『近代ドイツ小説』（通信テキスト、1997年、文学部第Ⅲ年度②配本）

◆受講上の要望または受講上の前提条件
『若きヴェルター（ウェルテル）の悩み』は事前に一読をお願いします。

◆成績評価方法
最終日の試験によって評価します。

３分野科目／社会科学分野

科目 法学（憲法を含む） 2単位

担当 講師 神野 潔

本講義では、①一般教養としての「法学」、②リーガル・プロフェッションを育成するその導入としての「法学」という二つを重視する。①としては、裁判員制度の定着や憲法改正問題など、一般市民の法に対する理解力が問われる社会的背景を踏まえ、現在日本国憲法を取り巻いている課題に引き付けて、社会生活をおくる上で必要な法的知識を提供していきたい。②としては、今後実定法を学んでいくその前提として、法の基礎的かつ全体的な構造を理解すると同時に、法解釈学の根幹となる思考力を身に付けられるようにしていきたい。また、法学の最も初歩的な疑問であり、同時に究極的な到達点でもある「法とは何か」という問いに対して、各自が各自なりの解答を用意できるようにすることも、本講義の目標としておきたい。

〔第１回〕 近代法学史の整理①（自然法学）
〔第２回〕 近代法学史の整理②（分析法学、歴史法学）
〔第３回〕 近代法学史の整理③（概念法学、自由法学）
〔第４回〕 法の存在形式－成文法①（憲法）
〔第５回〕 法の存在形式－成文法②（法律、条例）
〔第６回〕 法の存在形式－不文法（慣習法、判例法、条理）
〔第７回〕 法の分類①（公法、私法、社会法）
〔第８回〕 法の分類②（継受法と固有法）
〔第９回〕 法の分類③（実体法と手続法）
〔第10回〕 法の解釈
〔第11回〕 法の効力
〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

『ポケット六法』(有斐閣)・『デイリー六法』(三省堂)など、小型六法を一冊持参するようにしてください。

◆成績評価方法

講義最終日に行う筆記試験（100点）で評価する。

科目 政治学 2単位

担当 講師 芝田秀幹

政治学をはじめて本格的に学ぶ者のために、政治学上の基礎概念を解説するとともに、政治の原理、政治構造、政治の作動などについて全般的に理解できるように講義する。また、現実に生じている政治的な諸問題についても随時言及し、それらを解決するための「ヒント」を学問的見地から提供したい。

〔第１回〕 開講オリエンテーション：「居酒屋政治談義」を越えて
〔第２回〕 政治
〔第３回〕 政治学
〔第４回〕 政治権力
〔第５回〕 政治体制
〔第６回〕 政治過程
〔第７回〕 選挙
〔第８回〕 政党
〔第９回〕 官僚制
〔第10回〕 マスメディア
〔第11回〕 地方自治
〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

講義の中で随時紹介する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

「政治」について議論することと、「政治学」について議論することとは必ずしも同じではない。あくまで、学問としての「政治学」の研究成果を学ぶのだ、という意識で授業に臨んでもらいたい。

科目 経済学 2単位

担当 講師 北條陽子

本講義は、経済学の基礎知識を学ぶための科目です。経済学には大きく分けてミクロ経済学とマクロ経済学とがあり、それぞれの入門的な内容を解説します。

経済学部の受講生には、今後専門的な内容や応用分野を学んでいくために不可欠となる土台作りを、他学部の受講生には、経済学的な考え方に触れて経済学に興味を持って頂くことを目標としています。

〔第１回〕 はじめに・市場について
〔第２回〕 需要と供給
〔第３回〕 需要の価格弾力性
〔第４回〕 消費者行動と生産者行動
〔第５回〕 市場メカニズムの効率性と限界
〔第６回〕 国民経済計算
〔第７回〕 物価の変動
〔第８回〕 マクロ経済における需要と供給
〔第９回〕 財市場―乗数効果
〔第10回〕 貨幣市場
〔第11回〕 財政政策と金融政策
〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・伊藤元重『入門経済学〔第４版〕』(日本評論社、2015年)
・グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅰ　ミクロ篇〔第３版〕』(東洋経済新報社、2013年)
・塩澤修平・北條陽子『基礎から学ぶミクロ経済学』(新世社、2010年)
・福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門〔第５版〕』(有斐閣、2016年)

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 社会科学概論　2単位

担当 講師 佐藤 滋

「社会科学」とは、人間の相互関係を対象とする学問を指す言葉である。もっとも、「社会科学」などという単一の学が存在しているわけではない。社会科学には、経済学、政治学、社会学、歴史学など多様な学問領域が存在しているからである。本講義ではそうした「諸」社会科学の考え方について、それぞれが立脚する人間観の相違に着目しつつ解説する。また、社会科学が政策に応用されてきた経緯を踏まえつつ、政策論としての社会科学の側面にも言及する。

〔第１回〕 概観
前提とする人間観の相違に着目しつつ、多様化する社会科学の歴史・現状を概観。

〔第２回〕 利己的行動①
「社会科学の女王」とも言われた経済学（特に新古典派ミクロ）の考え方を解説。

〔第３回〕 利己的行動②
経済学の考え方は近年、急速に問い直しが進み、多様化が進んでいる。その理由について行動経済学など近年の経済学の展開に言及しつつ解説。

〔第４回〕 権力的行動
権力的行動を対象とする考え方を、政治学に焦点を当てつつ解説。

〔第５回〕 利他的行動
利他的行動を対象とする考え方を解説。

〔第６回〕 システム論と社会的統合
人間行動を分節化して認識・把握するのではなく、トータルとしての社会を把握しようとする考え方を、パーソンズのシステム論や財政社会学に焦点を当てつつ解説。

〔第７回〕 歴史と動態
社会の変容に焦点を当てる考え方を、マルクス経済学や歴史学に焦点を当てつつ解説。

〔第８回〕 比較と多様性
社会の多様性に焦点を当てる国際比較論の考え方を、歴史的制度論に焦点を当てつつ解説。

〔第９回〕 不可知論と社会科学
社会の真の姿を客観的に「知りうる」という立場に対する批判的な考え方を、ルーマンの社会学理論に焦点を当てつつ解説。

〔第10回〕 政策論への応用①
これまでの講義内容をもとにしつつ、社会科学の政策への応用について紹介。

〔第11回〕 政策論への応用②
これまでの講義内容をもとにしつつ、社会科学の政策への応用について紹介。

〔第12回〕 授業のまとめ

〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト
プリントを適宜配布する。

◆参考文献
授業中、適宜紹介する。

◆成績評価方法
課題レポートによって評価する。

科目 社会科学特論　2単位

担当 講師 梅原秀元

本講義では、19世紀後半から20世紀前半にかけてのドイツをフィールドとして、科学と社会との関係を2018年度夏期スクーリング考える。まず、第１回目と第２回目の講義でオリエンティールングを行うとともに、対象とする時期のドイツの歴史を概観する。第３回目では、科学と社会について本講義でどのような視角から検討するのかを提示する。さらに、対象とする時期のドイツにおいて、学問研究のための場―大学と大学外研究組織―がどのように確立していったのかを検討する。第４回目から第10回目の講義では、おもにドイツの医学・衛生学を例に、科学と社会との関係を具体的に検討する。第11回目の講義では、それまでの講義の内容を振り返って、議論を総括し、第12回目に、講義の内容に即した試験を行う。

ドイツにおける科学と社会との相互関係を俯瞰するとともに、具体的な事例（医学・衛生学）を通して科学と社会の相互関係について検討することが、本講義の狙いである。

〔第１・２回〕 オリエンティールングと講義内容の概観；19世紀～20世紀のドイツ史概観

〔第３回〕 科学と社会―有用な知識・役に立つ学問―19世紀～20世紀前半のドイツにおける学問研究の場（大学と大学外研究組織）

〔第４・５回〕 19世紀後半から20世紀初頭のドイツにおける医学と公衆衛生

〔第６回〕 人口と優生学をめぐって

〔第７・８回〕 第一次世界大戦とドイツの医療・医学

〔第９・10回〕 治療と絶滅　ナチスドイツと医学

〔第11・12回〕 総括および試験

◆テキスト
とくになし。

◆参考文献
下記に挙げる文献は、購入の必要はない。しかし、もし公立図書館などでの閲覧・貸出によって手に取ることができれば、本講義の理解にプラスとなろう。

1）本講義が対象とする時期のドイツ史の基本的な外観として、
・矢野久／アンゼルム・ファウスト『ドイツ社会史』(有斐閣コンパクト、2001年）が有益である。

2）19世紀から20世紀のヨーロッパにおける医学・衛生学の展開について、
・Willian Bynum『医学の歴史』（鈴木晃仁・鈴木実佳訳）（丸善出版（サイエンス・パレットシリーズ）、2015年）がコンパクトかつ的確に示している。

3）19～20世紀における科学と社会の関係について、
・廣重徹『科学の社会史』（上下巻）（岩波現代文庫、2003年）（絶版中）

4）とくにナチス期のドイツの医学・衛生学について本講義の後半部分の理解の助けとなるが、価格が非常に高いか、絶版になっており、購入は極めて難しい。したがって、慶應義塾の図書館や公立の図書館などでの利用を強くすすめる。
・エルンスト・クレー『第三帝国と安楽死：生きるに値しない生命の抹殺』（松下正明監訳）（批評社、

1999年）
・Ch. ブロス／G. アリ編『人間の価値　1918年から1945年までのドイツの医学』（林功三訳）（風行社、1993年）
・アレキサンダー・ミッチャーリッヒ／フレート・ミールケ編『人間性なき医学：ナチスと人体実験』（金森誠也・安藤勉訳）（星雲社、2001年）
・ベンノ・ミュラー＝ヒル『ホロコーストの科学：ナチの精神科医たち』（南光進一郎監訳）（岩波書店、1993年）
・カール＝ビンディング／アルフレート＝ホッヘ『「生きるに値しない命」とは誰のことか：ナチス安楽死思想の原典を読む』（森下直貴・佐野誠訳）（窓社、2001年）
・ヒュー G. ギャラファー『ナチスドイツと障害者「安楽死」計画』（長瀬修訳）（現代書館、1996年）
・木畑和子「民族の『健康』を目指して―第三帝国の保健衛生行政」川越修・矢野久編『ナチズムのなかの20世紀』（柏書房、2002年）所収
・木畑和子「第二次世界大戦下における『安楽死』問題」井上茂子他共編著『1939　ドイツ第三帝国と第二次世界大戦』（同文舘、1989年）所収
・川越修『社会国家の生成：20世紀社会とナチズム』（岩波書店、2004年）

上記の参考文献以外にも、講義において適宜示す。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

とくに必要とされる前提条件は無い。ただし、ドイツの19世紀末から20世紀にかけての歴史を題材とするので、これについて多少なりとも知識があるとよい。受講者は、たとえば、高校の世界史の教科書などでいいので、19～20世紀のヨーロッパ史についてみておくとよい。第12回目に行われる試験は、講義内容に即したものになるので、受講する学生はまず講義に耳を傾けてほしい。また、わからない部分があれば、講義の途中で質問してほしい。

◆成績評価方法

最終日に試験を行い、それによって成績評価を行う。

科目 地理学　2単位

担当 講師 大島英幹

地理学の方法論は、個々の地理要素の法則を学ぶ「系統地理（人文地理学・自然地理学）」と、個々の地域の具体事例を学ぶ「地誌」に大別されます。本講義では「地域創生」や「東京一極集中問題」を取り上げることで、人口集積や地域経済に関する系統地理学と、東京の地誌を学びます。その上で、RESAS（地域経済分析システム）などの資料や、街歩きなどの体験をもとに、地域の問題を分析して解決策を提案できるようにします。

〔第１回〕 授業の概要説明、人文地理学の方法、人口集積のしくみ
〔第２回〕 俺ら東京さ行ぐだ
〔第３回〕 「地域消滅」論争
〔第４回〕 RESASによる地域創生
〔第５回〕 東京の都市開発
〔第６回〕 三田・麻布街歩き（六本木一丁目駅～三田キャンパス）
〔第７回〕 課題発表「地域の問題発見・解決」（地域を選び、RESASなどの資料や、街歩きなどの体験をもとに、地域の問題を分析して解決策を提案する。）
〔第８回〕 課題発表
〔第９回〕 課題発表
〔第10回〕 課題発表
〔第11回〕 課題発表
〔第12回〕 課題発表
〔その他〕 課題・レポート

◆参考文献

・時事通信社編『全論点　人口急減と自治体消滅』（時事通信社、2015年）
・日経ビッグデータ『RESASの教科書』（日経BP社、2016年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

せっかく全国（全世界）からみなさんが集まるスクーリングなので、普段のテキスト学習ではできないことをします。第４回はRESAS分析の講師実演、第６回は三田・麻布街歩き、第７～14回は個人または３人以下のグループで５分間の課題発表をします。

◆成績評価方法

課題発表により評価します。

科目 環境学入門　2単位

担当 法学部教授 小林宏充 ／ 経済学部准教授 大平 哲
法学部准教授 杉本憲彦 ／ 法学部専任講師 林 良信
講師 小島 恵 ／ 講師 ／ 山崎友莉子 ／ 講師 一ノ瀬大輔
講師 宮本佳明 ／ 講師 林 健太郎

環境問題には環境法などを扱う法学や、経済発展との関わりで経済学などの文系科目だけでなく、大気や水などの物理的な動きを解明する物理学や、環境変化の生物への影響を扱う生物学などの理系科目も関わっています。

この講義は、20世紀終盤から問題になりはじめて現在も継続中の環境問題である、循環型社会、生物多様性、温暖化対策について学際的な知識や多様な視点を身につけることを目的としています。そのために、文系科目である法学の視点で、これらの環境問題に関する法律の成立過程や意義を、経済学の視点で、これらの法律や自然科学の知識に基づいた経済活動などを解説するだけでなく、理系科目である生物学の視点で、生物多様性の成り立ちを、環境学の視点で、温暖化の影響や生態系での物質循環を、物理学の視点で、地球温暖化の仕組み、エネルギー資源の問題などを解説します。

第１、２、３、５、７、９、11回ではテキストの内容に基づく講義を行い、小テストを実施する。それに続く第４、６、８、10回では講師の専門分野に直結した環境に関する具体的な講義を行い、リアクションペーパーに記述してもらった聴衆からの質問に回答する。第12回はこれまでの総括を行い、記述してもらったリアクションペーパーの紹介や質問に回答・議論する。

〔第１回〕 イントロダクション － 学際的研究の必要性・困難さ（大平）

〔第２回〕 法学からみた循環型社会 － 廃掃法と容器包装リサイクル法（小島）
〔第３回〕 経済学からみた生物多様性・温暖化対策 － 多様性の利益・排出権取引（大平）
〔第４回〕 経済学からみた循環型社会 － 経済学はゴミ問題を解決できるのか？（一ノ瀬）
〔第５回〕 物理学からみた温暖化の原因と現状 － 気候変動の基礎（杉本）
〔第６回〕 気象学からみた温暖化の具体例 － 台風を中心に（宮本）
〔第７回〕 法学からみた温暖化対策・生物多様性 － パリ協定・気候変動適応法・生物多様性基本法（小島）
〔第８回〕 法学からみた生物多様性の具体例（山崎）
〔第９回〕 生物学からみた生物多様性 － 多様性の創出と維持のメカニズム（林（良））
〔第10回〕 環境学からみた生物多様性 － 両極域と我々のつながり（林（健））
〔第11回〕 物理学からみた温暖化対策 － エネルギー問題を中心に（小林）
〔第12回〕 総括（小林）
〔その他〕 小テスト

◆テキスト
・青木淳一・秋山豊子・大平哲・金谷信宏・小林宏充・杉本憲彦・六車明『法学・経済学・自然科学から考える環境問題』（慶應義塾大学出版会、2017年）

◆参考文献
回によって、適宜プリントを配布する場合があります。インターネット上の資料を紹介することもあるので、各自インターネットにアクセスできることが望ましい。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
環境問題に興味を持っている学生の受講を希望します。
文系学生でも理解できるように平易に解説します。
授業の詳細情報や授業資料（授業後にダウンロードできるようにします）は、下記のURLを参照ください。
http://user.keio.ac.jp/~hkobayas/summer/2019.html

◆成績評価方法
第１、２、３、５、７、９、11回は小テスト、第４、６、８、10、12回はリアクションペーパーによる。
追試は行わない。

３分野科目／自然科学分野

科目 統計学　２単位

担当 講師 金 志映

『統計学』は、大量のデータの中に存在する法則性を扱う分析手法である。急速に情報化が進展した現代社会においては、多種多様かつ大量なデータを処理し、選別する能力が以前にも増して望まれている。『統計学』において学習する方法論は、自然科学、社会科学、人文科学といった学問分野だけでなく、企業経営や行政などの実務においても広く取り入れられているものである。
本講義では、データの収集、分析、結論の導出といったプロセスをたどりながら、『統計学』の役割や主要な概念、基本的な分析手法について学習する予定である。また、履修者が簡単なデータ解析の手法を習得できるよう、幅広い応用例を紹介しながら、講義だけでなく問題演習なども行う。
〔第１回〕 統計分析の必要性
〔第２回〕 分布の特性値：平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差、変動係数の性質および計算方法
〔第３回〕 確率
〔第４回〕 確率変数と確率分布（Ⅰ）：確率関数と確率密度関数、平均と標準偏差
〔第５回〕 確率変数と確率分布（Ⅱ）：二項分布、ポアソン分布
〔第６回〕 確率変数と確率分布（Ⅲ）：正規分布、確率変数の標準化、標準正規分布表
〔第７回〕 標本平均の分布、中心極限定理
〔第８回〕 母数の推定：母平均の推定（１）
〔第９回〕 母数の推定：母平均の推定（２）
〔第10回〕 仮説検定：仮説検定の考え方、平均値に関する検定
〔第11回〕 回帰分析：単純回帰分析、最小二乗法
〔第12回〕 総括

◆テキスト
プリントを適宜配布する。

◆参考文献
・篠崎信雄・竹内秀一『統計解析入門〔第２版〕』（サイエンス社、2009年）
・岩田暁一『経済分析のための統計的方法〔第２版〕』（東洋経済新報社、1983年）
・田中隆一『計量経済学の第一歩』（有斐閣、2015年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
１．微分積分、確率の初歩的知識を身に付けていること。
２．統計学の初学者を対象とするが、短期間で数多くの内容を取り上げるため、統計学（テキスト科目）レポートの既習者が望ましい。
３．毎回の講義と期末試験時にはルートの計算ができる電卓を持参すること。ただし試験時は通信機能付の電卓や関数電卓の使用は不可。

◆成績評価方法
出席状況および最終日の試験の結果による評価。

科目 心理学（知覚・認知）　２単位

担当 文学部准教授 寺澤悠理 ／ 文学部教授 皆川泰代

心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というとTVや雑誌に登場

してくる性格診断やフロイトの精神分析を思い起こすと思います。もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部なのです。

心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用として捉えようとします。

ここでは、心理学では心をどのように理解しようとしてきたか、心理学の方法について解説した後に、個体がいかに環境から情報を得て行動しているのか、知覚、認知を中心に講義します。VTRなどAV資料を使って具体的に理解できるようにこころがけます。

〔第１回〕 視覚１：目がものを見る仕組み
〔第２回〕 視覚２：錯視、だまし絵、色
〔第３回〕 視覚３：顔の知覚
〔第４回〕 聴覚の基礎：耳が音声や音楽を聞く仕組み
〔第５回〕 知覚の発達
〔第６回〕 心理学と脳科学、脳の発達
〔第７回〕 記憶と知識
〔第８回〕 注意と意識
〔第９回〕 言語と思考
〔第10回〕 推論と意思決定
〔第11回〕 感情と人格
〔第12回〕 社会的認知・総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・森敏昭・井上毅・松井孝雄『グラフィック認知心理学』（サイエンス社、1995年）
・『現代の認知心理学』シリーズ（北大路書房）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

心理学を学んだことがないことを前提に講義します。講義の中で、簡単な実験、実習、小レポートを課すことがあります。積極的な受講態度を望みます。

◆成績評価方法

評価は出席点２割、試験８割で行います。

科目 心理学（行動・個性） 2単位

担当 経済学部教授 中野泰志

心理学は人間や動物の純粋な経験（現象）を整理し、その働き（機能）や意味を明らかにし、さらにその背景にあるメカニズム（機序）を探求する学問です。その究極の目的は、人間や動物の「こころ」（行動）の理解と予測であり、個々の豊かな生活（Quality of Life；QOL）を保障し、過ごしやすい社会を形成するための知見を科学的に究明していくことです。

私達人間を含め、生物にはそれぞれ個性があり、同じ状況下でも、それぞれが異なる行動をすることがあります。そして、それぞれがユニークでかけがえのない存在です。本講義では、それぞれの個性や行動がどのように形成され、発達・変容していくのかについて概観します。

前半では、ヒトの多様な個性について、パーソナリティと知能の側面を中心に解説します。また、何らかの原因で発達が阻害された場合に、どのような困難(障害）が生じるのかについても概観します。後半では、ヒトを含めた動物の行動の変容について解説します。

実習、デモンストレーション、事例紹介等を行いながら、講義を展開します。また、学んだことを文章でまとめる技術を身につけていただくために、毎授業ごとにリアクションペーパーを作成していただきます。

〔第１回〕 イントロダクション：行動・個性に心理学ではどのようにアプローチするか
〔第２回〕 パーソナリティとは何か
〔第３回〕 パーソナリティの測定方法
〔第４回〕 パーソナリティの形成と障害
〔第５回〕 知能とは何か
〔第６回〕 知能の測定方法
〔第７回〕 知能の発達と障害
〔第８回〕 行動変容の理論１：レスポンデント条件づけ
〔第９回〕 行動変容の理論２：オペラント条件づけ
〔第10回〕 行動理論の臨床への応用
〔第11回〕 行動理論の教育への応用
〔第12回〕 まとめ（総括）
〔その他〕 課題・レポート、その他。毎授業ごとにリアクションペーパーを作成していただきます。

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆学生に対する受講上の要望、または受講上の前提条件

授業内で、簡単な実習やデモンストレーションを行い、毎授業ごとにリアクションペーパーを作成していただきますので、原則として、毎回、出席してください。授業内で実施した実習等の内容をまとめる作業等を宿題として課す場合もありますので、ご了承ください。講義の際に、事例紹介等を行いますが、講義で知り得た情報をソーシャルネットワーキングサービス等に投稿しないようにしてください。

◆成績評価方法

毎回の講義の中で実施するリアクションペーパーと最終日に実施する試験の成績により総合的に評価します。

科目 自然科学特論 2単位

担当 経済学部教授 中野泰志 ／ 文学部教授 皆川泰代
文学部准教授 寺澤悠理

この授業では、自然科学としての心理学の研究がどのように行われているのかに焦点をあてて、各講師が自分の専門分野に関連するテーマについて、講義や実習を行います。こころの仕組みを知るための方法には、観察、実験、臨床研究など、様々手法がありますが、特に今回は、客観的な方法でこころの働きを調べ、そのメカニズムを理解しようとする実験心理学を専門とする３名の講師が担当します。

〔第１回・第２回・第３回・第４回〕
実験心理学入門

実験心理学は人間の心の仕組みや行動を客観的に計測し、仮説を検証しようとするものです。具体的には心や行動に影響を与える要因をいくつか仮定して、実際にそれらを操作することによって行動が変化するかを検討します。第１－４回ではこれらの手法について概説するとともに各種の実験を体験しその解析を行うことで、データに基づいた自然科学的手法を学びます。

〔第５回・第６回・第７回・第８回〕
自己を支える記憶の仕組み
　人の記憶は、自分自身が誰であるのかを支える非常に重要な機能です。その一方で、重要なことを思い出せなかったり、間違って思い出してしまったりする記憶のエラーも日常的によく体験されます。第５－８回では、このような現象の背後にある自己を支える記憶の仕組みについて、実験を交えながら学びます。
〔第９回・第10回・第11回・第12回〕
世界を知る仕組みと働き
　私達は、目や耳などの感覚器官をセンサーとして、世界にアクセスしています。しかし、人の感覚器官の精度はあまり高くないため、私達の身体に降り注ぐ物理的エネルギーのごく一部分しか受け取ることが出来ません。講義では、限られた身体を使って、私達が世界をどのようにして知ることができるのかについて、実験やデモを交えながら、学びます。

◆テキスト
　プリントを適宜配布します。

◆参考文献
　特に指定しませんが、必要に応じて示します。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
　特に設けませんが､心理学（認知･知覚）､心理学（行動・個性）を履修している、あるいは履修したことがある方が、理解が進むと思います。

◆成績評価方法
　３名の担当者がそれぞれの授業における議論や課題への取り組み、参加を基に評価し、これらの総計によって、各受講者の成績評価を決定します。詳しくは、各担当者の初回の講義で説明します。

科目 情報処理　２単位

担当 講師 辻 将悟

　この科目では、日進月歩で進化する情報処理技術に対応できるように、自ら調べ・考えながら課題を解決する力を養うこと大事にしています。Microsoft Officeアプリケーションを使って、文書処理、表計算、プレゼンテーションを中心に、情報を扱う基本的なスキルを身につけることはもちろん、ブロックを組み立てるようにプログラムを作成することができるScratchを使って、プログラミングの基本的な考え方についても学びます。さらに、著名な講師陣による講演を題材として、ネットリテラシーやソーシャルメディア、知的財産権など、今必要な情報リテラシーについても考えていきます。

〔第１回〕 - オリエンテーション
　　- Microsoft Wordを使った文書処理の基本
〔第２回〕 - 情報リテラシー
〔第３回〕 - 前回の続き
　　- 演習
〔第４回〕 - Scratchを使ったプログラミングの基本
〔第５回〕 - Microsoft Excelを使った表計算の基本
〔第６回〕 - 前回の続き
　　- 演習
〔第７回〕 - Microsoft Excelを使った表計算の基本
　　- フィルタ、条件付き書式、関数など
〔第８回〕 - 前回の続き
　　- 演習
〔第９回〕 - Microsoft Excelを使った表計算の基本
　　- グラフの作成など
〔第10回〕 - 前回の続き
　　- 演習
〔第11回〕 - Microsoft PowerPointを使ったプレゼンテーションの基本
〔第12回〕 - 試験・総括
〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト
　指定しない。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
　講義で作成したファイルを保存するため、各自USBメモリを持参、またはオンラインストレージサービスのアカウントを事前に取得しておいてください。

◆成績評価方法
　最終日の試験、及び課題の提出・達成状況による。

科目 数学（線形数学）　２単位

担当 商学部教授 藤沢 潤

　行列の演算、連立１次方程式の理論、行列式について解説します。線形数学を学ぶとき、自習では理解するのが難しい概念がいくつか出てきます。その概念の意味付けと大切さを理解できるように講義します。

〔第１回〕 行列の和、差、スカラー倍
〔第２回〕 行列の積
〔第３回〕 行列の累乗
〔第４回〕 ２次行列の逆行列
〔第５回〕 連立２元１次方程式
〔第６回〕 前半の総括
〔第７回〕 行列の基本変形
〔第８回〕 行列の簡約化
〔第９回〕 連立１次方程式の解法
〔第10回〕 行列式
〔第11回〕 行列式の性質
〔第12回〕 後半の総括
　※内容と順序は変更になる場合があります。

◆テキスト
・石村園子『やさしく学べる線形代数』（共立出版、2000年）
　この他に資料を適宜配布します。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
　高校２年生の水準までの数学をしっかり学んでいること。

◆成績評価方法
　講義内に行う試験による。

実験スクーリング

――実験スクーリング受講上の注意――

① 実験スクーリングを受講する人は、できるだけ事前にテキストを読んでいることが望まれます。
② 2007年度までに１単位あるいは２単位の実験スクーリングに合格している人は、同一科目の実験スクーリングは受講できません。

科目 物理学実験 A　1単位
物理学実験 B　1単位

担当 経済学部教授 青木健一郎 ／ 法学部教授 下村 裕
法学部教授 小林宏充 ／ 商学部教授 新田宗土
商学部教授 松浦 壮 ／ 医学部准教授 三井隆久
法学部准教授 杉本憲彦

実験内容と目的

物理学においては実験によって、自然の構造に関する我々の理解が正しいものであるか否かを検証すること、および物理量を可能な限り精度良く測定することが重要です。この科目「物理学実験」の目的は、物理学を履修する諸君が直接実験を経験することによって、実験の重要性とその楽しさを自ら発見する機会を提供することです。

本実験では、比較的簡単な実験装置で自然の構造の本質に触れることができるテーマを用意してありますので、これまで実験に馴染みの少なかった人でも十分に実験を行うことができるものと思われます。また実験のテキストを参照しながら２人１組になって実験を行うことになっています。わからない点は互いに議論しながら作業をすることが可能であり、そのことによってより理解が深まるはずです。期間中に行った実験の中から、各人が興味を惹かれるテーマを拾い出し、それをより深く理解することを目指して、改めて物理学の教科書を手にされることを期待します。

〔Ａ－１〕 実験ガイダンス、モンテカルロ実験
モンテカルロ・シミュレーションを行い、数値計算を行う。それを通じ統計的な手法の意味と限界を理解する。

〔Ａ－２〕 重力加速度
単振り子の振動の物理的仕組みを理解し、その周期の測定から重力加速度gを求める。

〔Ａ－３〕 空気の振動と音速
音の空気の振動としての意味を実感し、それを用いて空気中の音速を決定する。

〔Ａ－４〕 電子の電荷の質量の比
電場、磁場中の電子の運動を理解し、その運動のパラメータより電子の電荷と質量の比を求める。

〔Ａ－５〕 ブラウン運動と原子の実在
水中で粒子のブラウン運動を観察し、その背後にあるミクロの物理を理解する。それに基づきアボガドロ数を求める。

〔Ａ－６〕 光速の直接測定
空気中の光速を直接測定する。

〔Ｂ－１〕 実験ガイダンス、分子の大きさとアボガドロ定数
水面上に脂肪酸の単分子膜を展開し、それよりの大きさを測定し、アボガドロ定数を求める。

〔Ｂ－２〕 光と電子
光電効果の実験より光の粒子性を実感し、プランク定数を推定する。

〔Ｂ－３〕 光の干渉
光の波動性とそれのもたらす干渉と回折現象を実験を通じて理解し、それを用いて光の波長、回折格子の間隔等を測定する。

〔Ｂ－４〕 量子力学と原子のスペクトル
ナトリウム原子の輝線スペクトルを観察し、量子力学的な原子の構造を理解する。さらに、ナトリウム原子の輝線スペクトルの波長を測定し、その理解を確かめる。

〔Ｂ－５〕 素電荷の測定―ミリカンの実験
ミリカンの油滴の実験により、油滴の電荷を測定する。それにより電荷が離散的であることを実感し、その最小単位である素電荷を求める。

〔Ｂ－６〕 音程とドップラー効果
音程と振動数の関係を理解し、音色の物理的意味を理解する。さらに音源を自由落下させ、観測されるその振動数変化からドップラー効果の持つ意味を理解し、音源の速度および加速度を決定する。

◆テキスト
初日にテキスト（無料）を配布。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
初日に物理学実験全般に関する基本的な事項を説明しますので、全員必ず出席してください。また、受講前にテキスト「物理学」に目を通しておくことを勧めます。

◆成績評価方法
出席とレポートによる。

科目 化学実験 A　1単位

担当 経済学部教授 井奥洪二 ／ 文学部教授 岡本昌樹

諸君が化学を学習する目的は、専門的な知識や技術の習得ではなく、化学という学問に対して正しい認識をもち、自然科学的な思考を養うためと考えられます。この目的を達成するための補助として、化学実験Ａでは無機・物理化学分野における次のような各種実験を行います。
(内容と順序は変更になる場合があります。)

〔第１回〕 自然放射線と放射能鉱物
〔第２回〕 アルコール発酵
〔第３回〕 ボルタ電池と燃料電池
〔第４回〕 湿式法による金属イオンの分析（第一属金属イオン）
〔第５回〕 湿式法による金属イオンの分析（第三属金属イオン）
〔第６回〕 湿式法による金属イオンの分析(未知試料)

◆テキスト
化学教室で編集した小冊子『化学実験』（実費・300円程度）を使用します。
◆受講上の要望または受講上の前提条件
この実験をより有意義なものにするのは、教科書を用いての日頃の家庭学習です。各種法則、原理などを脳裏にしっかりとおさめ、実験の目的やその手段が、これらをいかに巧みに利用して結果を求めているかを実地に確かめることが大切です。
◆成績評価方法
出席および当日提出するレポート。

科目 化学実験 B　1単位

担当 法学部教授 小瀬村誠治 ／ 法学部准教授 志村 正

諸君が化学を学習する目的は、専門的な知識や技術の習得ではなく、化学という学問に対して正しい認識をもち、自然科学的な思考を養うためと考えられます。この目的を達成するための補助として、化学実験Bでは有機・高分子化学分野における次のような各種実験を行います。
(内容と順序は変更になる場合があります。)
〔第１回〕 分子模型その１～有機化合物を学ぶ
〔第２回〕 分子模型その２～天然物化合物を学ぶ
〔第３回〕 アセトアニリドの合成～アセチル化反応を学ぶ
〔第４回〕 パラニトロアニリン赤の合成と染色～ジアゾカップリング反応によりアゾ染料を合成し、綿布を染色して、その原理を学ぶ
〔第５回〕 ナイロン66の合成～重合反応を学ぶ
〔第６回〕 化学発光～発光を伴う化学反応を観察し、その原理を学ぶ
◆テキスト
化学教室で編集した小冊子『化学実験』（実費・300円程度）を使用します。スクーリング当日、教室内でお渡ししますので、小銭をご用意ください。
◆受講上の要望、または受講上の前提条件
この実験をより有意義なものにするのは、教科書を用いての日頃の家庭学習です。各種法則、原理などを脳裏にしっかりとおさめ、実験の目的やその手段が、これらをいかに巧みに利用して結果を求めているかを実地に確かめることが大切です。
◆成績評価方法
出席および当日提出するレポート。

科目 生物学実験 A　1単位

担当 文学部准教授 倉石 立 ／ 商学部准教授 新屋みのり
商学部准教授 上村佳孝 ／ 文学部教授 金子洋之

実験内容と目的
この授業は生物の世界の多様性や複雑さを実験・観察を通じて理解するとともに、自然科学的思考と研究方法の習得を目的にしています。
内容は光学顕微鏡や実体（解剖）顕微鏡による観察、生理学・生化学実験、野外の動植物の観察、ビデオによる生命現象の理解などを含んでいます。授業担当者により内容は若干異なります。また、実験材料を変更する場合もあります。授業では、各時間の最初にその日の実験内容を説明し、各自が自主的に実験を遂行していくという方法で行います。ビデオやパワーポイントを使用しながら解説する特別講義を行うこともあります。
プログラム①、②
〔第１回〕 植物の細胞分裂の観察
〔第２回〕 DNAの抽出実験
〔第３回〕 DNA分子模型の作製
〔第４回〕 口腔粘膜細胞の観察
〔第５回〕 細胞質流動と流速測定
〔第６回〕 ヒト血球の観察
◆テキスト
各担当者が実験の目的や方法を記述したプリントを配布します。
◆受講上の要望、または受講上の前提条件
実験器具とレポート用紙は用意されています。観察・スケッチに用いる鉛筆は２H程度の硬めのものを各自で持参すること。
実験は通信テキスト「生物学」の内容と関連するものもあるので、なるべく通信テキスト「生物学」を持参すること。
◆成績評価方法
出席および毎回提出するレポート。

科目 生物学実験 B　1単位

担当 経済学部教授 福山欣司 ／ 法学部専任講師 林 良信
法学部専任講師 坪川達也 ／ 経済学部准教授 有川智己

実験内容と目的
この授業は生物の世界の多様性や複雑さを実験・観察を通じて理解するとともに、自然科学的思考と研究方法の習得を目的にしています。
光学顕微鏡や実体（解剖）顕微鏡による観察、生理学・生化学実験、野外の動植物の観察、ビデオによる生命現象の理解などを含んでいますが、具体的な内容は「生物学実験A」とは異なり、多様な材料とテーマを取り扱います。授業担当者により内容は若干異なります。また、実験材料を変更する場合もあります。授業では、各時間の最初にその日の実験内容を説明し、各自が自主的に実験を遂行していくという方法で行います。ビデオやパワーポイントを使用しながら解説する特別講義を行うこともあります。
プログラム①、②
〔第１回〕 浸透圧
〔第２回〕 シロアリの原虫観察
〔第３回〕 植物の体制
〔第４回〕 雑木林の樹木
第５回〕 しらす干しに混ざる生物
第６回〕 コケに住むクマムシの観察
◆テキスト
各担当者が実験の目的や方法を記述したプリントを配布します。
◆受講上の要望または受講上の前提条件
実験器具とレポート用紙は用意されています。観察・スケッチに用いる鉛筆は２H程度の硬めのものを各自

で持参すること。
　実験は通信テキスト「生物学」の内容と関連するものもあるので、なるべく通信テキスト「生物学」を持参すること。

◆成績評価方法
　出席および毎回提出するレポート。

外国語科目／英語

科目 英語（リーディング）A　1単位

担当 講師 戸嶋真弓

　このクラスでは、「日常的に使用している言葉で語られている簡単な英文が理解できるようになる」ことを目標とします。このため、大学で使われることを想定して書かれたリーディングのテキストを使って、どのような文章を読むことができれば良いのかということを学びます。
　最終的に、400語～500語程度の英文を10分程度で理解し、説明できるスキルを習得できるようにしていきます。

〔第1回〕 オリエンテーション。講義のためのガイダンス
〔第2回〕 Unit 1 Tylenol Scare
〔第3回〕 Unit 2 Apple's Intentional IPhone Throttling
〔第4回〕 英語の読み方の基本を身につける　スキミング　グループワーク
〔第5回〕 Unit 3 STEAM Education : Science and Art Unite!
〔第6回〕 Unit 4 Reading the Rewards of Innovation
〔第7回〕 Unit 5 Rare Earth Minerals 5,000 Meters Below
〔第8回〕 Unit 6 Are Driverless Vehicles in Our Future?
〔第9回〕 Unit 7 Funding the Future
〔第10回〕 Unit 11 Science Communication
〔第11回〕 Unit 14 Resistance is Futile : AI and Robots
〔第12回〕 総括

◆テキスト
・松尾秀樹ほか『Reading Quest リーディング・クエスト―科学技術の多様な側面を考える』三修社、2019年

◆受講上の要望または受講上の前提条件
1．高校卒業レベルの英語力が必要です。文法事項などお忘れの方は、参考書等で事前に確認をお願いいたします。
2．辞書（電子辞書等を含む）は、毎回持参してください。尚、お持ちの辞書があまりに古い場合や、語彙数が少ない場合は、現在の大学での使用に耐えるものに買い替えをお願いいたします。
3．毎回の予習、復習の時間は、レベルにもよりますが、1時間～3時間程度必要です。
4．あらかじめテキストの所定のUnit箇所をよく読んでから参加して下さい。
5．所定の時間参加した方のみ最終時限に行う試験が受けられます。
6．講義の進め方や内容は、受講者の方々のレベルや出席状況に応じて変えることがあります。
7．最終時限に行う予定のテストには、テキスト、参考書、ノート、電子辞書を含む辞書の持ち込みができますが、パソコンやスマートフォンなどの通信機器の持ち込みはできません。

◆成績評価方法
　授業中のアクティビティと課題（グループワークを含む）　40%
　到達度テスト　60%

科目 英語（リーディング）B　1単位

担当 講師 金澤洋子

　This course aims to provide opportunities to think and share opinions by reading and discussing current topics mainly on health, environment and ethical issues. The instructor will provide reading materials (from current news papers and magazines such as Time, the International Herald Tribune, Scientific Americans, Washington Post, and a number of Japanese newspapers in English). The participants will also provide a topic, making a presentation in English at the end of the course. Through reading, presentation, discussion and writing, participants will deepen their knowledge of current issues and also enlarge their productive academic vocabulary. The course also encourages the students to think critically and try to persuade other students with different positions. The topics may include surrogate birth, baby hatch, total ban on smoking in public places, gender selection, ethics of organ transplants.
　Apart from presentations, summary writing or a reaction paper on one of the articles of the week will also be required. English will be used most of the time.

〔第1回〕 Introduction & Topic 1
〔第2回〕 Topic 2　On medical ethics 1）
〔第3回〕 Topic 3　On medical ethics 2）
〔第4回〕 Topic 4　On discrimination
〔第5回〕 Topic 5　On business
〔第6回〕 Topic 6　On lifestyle
〔第7回〕 Topic 7　On technology, science and health
〔第8回〕 Topic 8　On cultural issues

〔第９回〕 Topic 9　On various news and features
〔第10回〕 Topic 10　On various news and features
〔第11回〕 Students' presentations
〔第12回〕 Students' presentations, review and summary

◆テキスト
プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
Participants are encouraged to use English most of the time especially when they report the results of discussion in pairs and groups. Therefore, the students are expected to participate actively and communicate in English with other participants in class.

◆成績評価方法
Evaluation will be based on class contribution（50%), oral presentations（30%) and a final exam（10%). Assignments submitted in class will also be included(10%).

科目 英語（リーディング）C　1単位

担当 講師 及川一美

教科書はNHK BSの人気番組『Cool Japan 発掘！かっこいいニッポン』で「老舗」「ボランティア」「お金」などのテーマを取り上げています。授業ではwarm-upの会話をし、動画を視聴、そして番組理解を促すVocabulary, Comprehension, Dictation, Discussion, Reading, Writingなどの練習問題を解きながら読解力の基礎を学びます。

〔第１回〕 unit 1 Long-Established Businesses
〔第２回〕 unit 2 Uniforms
〔第３回〕 unit 3 Volunteer Work
unit 4 High-Tech Living (Automobiles)
〔第４回〕 unit 5 Japanese Tableware
〔第５回〕 unit 6 Homemakers of Japan
unit 7 Seafood
〔第６回〕 unit 8 Voice Actors
〔第７回〕 unit 9 Japanized Foreign Dishes
unit10 Bags
〔第８回〕 unit11 Senior Citizens（Medical Checkups)
〔第９回〕 unit12 Money
〔第10回〕 unit13 Monkeys
〔第11回〕 Review
〔第12回〕 Review & Final examination

◆テキスト
・津田晶子、金志佳代子、Christopher Valvona『Discovering Cool Japan 発掘！　かっこいいニッポン』(成美堂、2019年)

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
暑い夏の講習に備えて予習なさっておくことをお勧めします。最終試験は筆記です。

◆成績評価方法
Participation　20%
Final Examination　80%

科目 英語（リーディング）D　1単位

担当 講師 松井一馬

本授業では，社会や文化，自然などの様々なトピックの英文を精読と速読を併用しつつ読むことで，実践的な英語力を構築していく。具体的には，文法事項を実用に即した形に再構成すること，アカデミックな学習に不可欠となるボキャブラリーを構築すること，パラグラフの構造を把握し文章の主旨を的確に把握するリーディング・スキルを身につけること，を目標とする。同時に単語やイディオムの意味を正確につかむことで，その背景にある異文化への理解を深めてゆくことを目指す。

授業の前提として、各回で読む予定の文章の全訳を準備し、その回の開始時に提出してもらう。その上で、授業内においてその記憶をもとに再度同じ文を精読または速読することで反復し、重要な文法事項や文構造を確認するとともに、短期間での英語力底上げを図る。

なお、受講者の理解度によって授業の進度が変更される場合もあるので、授業内の指示を聞き逃さないこと。

〔第１回〕 Unit 2 Chapter 1 Unmasking Virus Writers and Hackers
〔第２回〕 Unit 2 Chapter 2 Female Virus Writer Packs a Punch
〔第３回〕 Unit 4 Chapter 2 The Bell Witch
〔第４回〕 Unit 5 Chapter 1 What Exactly IS a Short Story?
〔第５回〕 Unit 6 Chapter 1 Emotional Intelligence
〔第６回〕 Unit 7 Chapter 2 Genetically Modified Food
〔第７回〕 Unit 9 Chapter 1 The Search for Cleopatra
〔第８回〕 Unit 9 Chapter 2 Where Inca King Lie
〔第９回〕 Unit 10 Chapter 2 Life with the Tarahumaras
〔第10回〕 Unit 11 Chapter 2 Rhino Wars
〔第11回〕 Unit 11 Chapter 1 The Race to Rescue Koalas
〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト
・Neil J. Anderson『Active Skills for Reading 4（Third Edition)』(Cengage Learning、2013年）ISBN-978-1-133-30809-6

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
以下の注意事項に留意していただきたい。
・辞書を必ず持参すること。電子辞書を推奨するが紙の辞書でも構わない。
・提出する全訳は手書きでもプリントアウトしたものでも構わないが、各回ごとの提出かつ返却しないので、ノートなどに書くのは避ける。

・全訳に原文は書かなくともよい。
・全訳において意味がつかめない箇所でも飛ばしたりせず、拙くてもよいので必ず全文を訳す。
・事前の全訳の段階で教科書に書き込みなどをしないこと。全訳時の記憶以外の情報なしで再読することに意味がある。ただし、授業中に再度辞書を引くのは構わないし、授業内で説明した事柄などを書き込むのは構わない。
・全訳する文章を間違えないよう必ず場所を確認すること。特に初回授業時はUnit 2 Chapter 1の全訳提出となるので注意。なお、各回に示した文章以外は授業では扱わない。

◆成績評価方法

授業への参加度（全訳の提出を含む）40%、最終試験60%。

科目 英語（リーディング）E　1単位

担当 文学部教授 **髙橋宣也**

テクストは、英語の単語の由来を訪ねる内容です。章ごとに一つの単語が扱われ、今では何気なく用いられている語が、どのような経緯で現代のような意味や用法となったのかをたどります。簡明な説明を正確に読む訓練を行います。また同時に、テクストの内容から英語そのものへの興味も深まることを期待します。

〔第1回〕 導入、第1章
〔第2回〕 第2章
〔第3回〕 第3章
〔第4回〕 第4章
〔第5回〕 第5章
〔第6回〕 第6章
〔第7回〕 第7章
〔第8回〕 第8章
〔第9回〕 第9章
〔第10回〕 第10章
〔第11回〕 第11章
〔第12回（最終回）〕 質疑応答・試験

◆テキスト

・Isaac Asimov『Words from History II（英単語のロマンスII〔改訂版〕）』鷹書房弓プレス、1994年

◆学生に対する受講上の要望、または受講上の前提条件

テクストの英語は比較的平易ですが、細部をおろそかにせずにきちんとした読解を目指しますので、綿密な予習が必要です。各章の「Exercise」（練習問題）1番～3番もやってきてください。講義内容の予定は進行の目安ですので、前後することがあります。

◆成績評価方法

平常の出席と授業時の成果、試験で評価します。

科目 英語（リーディング）F　1単位

担当 講師 **多々良直弘**

この授業では異文化間コミュニケーションに関するテキストを講読します。日本人とアメリカ人のコミュニケーション上のギャップを通じて、両国の国民性や文化の相違を考察します。

〔第1回〕 You and I are Equals
〔第2回〕 You and I are Close Friends
〔第3回〕 You and I are Relaxed
〔第4回〕 You and I are Independent
〔第5回〕 People as Individuals
〔第6回〕 Being Original
〔第7回〕 Questions, Questions!
〔第8回〕 Answer to the Point!
〔第9回〕 Conversational Ballgames
〔第10回〕 Don't Apologize!
〔第11回〕 Nobody Told Me!
〔第12回〕 総括と試験

◆テキスト

・ナンシー坂本・坂本元洋『Polite Fictions in Collision, Why Japanese and Americans Seem Rude to Each Other（異文化との出会い・誤解・理解）』（金星堂、2005年）

◆成績評価方法

授業内における貢献度50%と最終日に行う試験50%により評価します。

科目 英語（リーディング）G　1単位

担当 講師 **藤田眞理子**

英文の音読とリテリング（読んだ内容を自分の言葉で再現してみる）を通して英語力を養成する講座です。本講座では単純に声に出すのではなく、パッセージの意味内容に応じた強弱のつけ方やイントネーションに注意を向けて、英語らしい読み方を習得することを目指します。授業前に自習用音声をダウンロードしておいて下さい。ダウンロードの仕方はテキストに書いてあります。なお授業のための予習シート（重要語14個と重要構文2文）を配布します。授業形態のほとんどはペアワークです。授業には英和辞書を必ず持参してください。

授業の流れ（一つのユニット）予習シートの答え合わせ→テキストに沿って進む（単語の意味の確認、ディクテーション、英文読解、リードアンドルックアップ）→音読練習→リテリング→発表

〔第1回〕 オリエンテーション Unit 1 There Is More than One Way to Be a Leader
〔第2回〕 Unit 2 A Cool Response to Food Waste
〔第3回〕 Unit 3 Haiku—Having Fun with Words and Ideas
〔第4回〕 Unit 4 Could Your Face Cost You Your Privacy?
〔第5回〕 音読テスト1　Unit 5 Russia's City of the East
〔第6回〕 Unit 6 The Healing Power of Music
〔第7回〕 Unit 7 Looking at Life through the Eyes of a Cat
〔第8回〕 Unit 8 Designing Solutions to Everyday Problems
〔第9回〕 音読テスト2　Unit 9 Currying Favor in Britain and Japan
〔第10回〕 Unit 10 Interacting with Others in a

Globalized World
〔第11回〕 Unit 13 Kiribati: A Paradise on Earth—But for How Much Longer?
〔第12回〕 Unit 14 Two Great Painters…and a Stormy Friendship
音読テスト３

◆テキスト
・Anthony P. Newell、山口高領『Pleasure in Reading Aloud and Retelling　音読とリテリングのための15話』（金星堂、2019年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
授業では積極的に英語を声に出すことを期待します。ペアワークが多いので、お互いから学ぼうとする態度が前提条件。なおペアは毎時間変えます。

◆成績評価方法
授業への参加度と貢献度40%と音読テスト（各ユニットのReading AloudをICレコーダーに録音）３回60%。ICレコーダーはこちらで用意します。

科目 英語（リーディング）H【実力養成クラス（中～上級）】 1単位

担当 法学部教授 篠原俊吾

【応用力をつけることを目的とした、
通常のクラスよりも難易度が高いクラスです】
主としてインプット強化を目的としています。こちらで準備した短いエッセイを読み、あわせて関連する映像資料を補助教材を用いて問題の理解を深めていきたいと思います（補助教材はリスニングのトレーニングも兼ねています）。その他に、適宜短いリスニング教材も取り入れていく予定です。
〔第１回〕 イントロダクション：授業の進め方と英語の学び方について。
〔第２回〕 スピーチと文章構成（１）:著名人のスピーチを聞き、文章の構成の仕方を学ぶ。
〔第３回〕 スピーチと文章構成（２）:著名人のスピーチを聞き、文章の構成の仕方を学ぶ。
〔第４回〕 スピーチと文章構成（３）:著名人のスピーチを聞き、文章の構成の仕方を学ぶ（実践編）。
〔第５回〕 「人はなぜ眠るのか」（１）：睡眠に関するエッセイを読みます。（前半）
〔第６回〕 「人はなぜ眠るのか」（２）：睡眠に関するエッセイを読みます。（後半）
〔第７回〕 「人はなぜ笑うのか」（１）：笑いのメカニズムに関するエッセイを読みます。（前半）
〔第８回〕 「人はなぜ笑うのか」（２）：笑いのメカニズムに関するエッセイを読みます。（後半）
〔第９回〕 「一点集中主義へのアンチテーゼ」（１）：細分化する社会に対し苦言を呈する人類学者のエッセイを読みます。（前半）
〔第10回〕 「一点集中主義へのアンチテーゼ」（２）：細分化する社会に対し苦言を呈する人類学者のエッセイを読みます。（後半）
〔第11回〕 「食文化、肥満、食料廃棄」：健康と食に関するエッセイを読みます。
〔第12回〕 総括

◆テキスト
プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
おおよそ英検２級程度（またはそれ以上）の受講者を想定しておりますが、もちろん、やる気のある方であればどのような方でも大歓迎です。短期間で比較的多めの英語を読むことになりますので、厳しい場面もあるかとは思いますが、できるだけ丁寧にご説明しますので最後まであきらめずに出席してください。また、（とりわけスピーチを扱う回では）テキストを授業時に全員前で音読する機会があると思います。あらかじめご了承ください。トピックは現在ベストと考えられるものを用意していますが、もしよりみなさんにふさわしいと思われるテキストを発見した場合は差し替えになる可能性があります。また、順序も変更になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

◆成績評価方法
出席、授業での貢献度30%、試験70%

科目 英語（リーディング）I 1単位

担当 講師 中川千帆

現代社会の興味深いトピックを扱った600語前後の文章を、パラグラフごとの内容を確認しつつ、文章全体の流れを確認できるように読み進めていきます。この作業を繰り返すことで、文章の論理的な構成や展開の仕方に慣れ、大学レベルでの学習に必要な文献や評論を読むための読解力を身につけます。
〔第１回〕 イントロダクション
〔第２回〕 Chapter 4 Language: Is It Always Spoken? 解説
〔第３回〕 Chapter 4 Language: Is It Always Spoken? 演習問題
〔第４回〕 Chapter 7 The Reliability of Eyewitnesses 解説
〔第５回〕 Chapter 7 The Reliability of Eyewitnesses 演習問題
〔第６回〕 Chapter 9 Solving Crimes with Modern Technology 解説
〔第７回〕 Chapter 9 Solving Crimes with Modern Technology 演習問題
〔第８回〕 Chapter 10 Ancient Artifacts and Ancient Air 解説
〔第９回〕 Chapter 10 Ancient Artifacts and Ancient Air 演習問題
〔第10回〕 Chapter 11 Medical Technology: Saving Lives with Robotics 解説
〔第11回〕 Chapter 11 Medical Technology: Saving Lives with Robotics 演習問題
〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト
・山科美和子・横山三鶴・沖野泰子『Reading Choice: Skills for Academic Success』（センゲージラーニング、2013年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
出席を重視します。全日程の３分の１以上（５回）を欠席した者は、原則として不合格とします。英和辞

書は毎回必ず持参してください。できれば英英辞書も準備してください。積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

◆成績評価方法

最終回に実施する確認テスト（60%）に、小テストや課題提出を含めた平常点（40%）を合わせて評価します。

科目 英語（リーディング）J　1単位

担当 講師 沼田香穂里

J. R. R. トールキン作『ホビットの冒険』から一部を読みます。この作品は子供向けではありますが、作者の知識に基づいた奥深い背景と人間洞察に裏打ちされた傑作です。比較的易しい英語の読解を勉強する中で、一語一語丁寧に、自分から疑問を持って内容を考えながら読む力を育てます。

〔第1回〕 Chapter 1 'An Unexpected Party'
〔第2回〕 Chapter 1 'An Unexpected Party'
〔第3回〕 Chapter 1 'An Unexpected Party'
〔第4回〕 Chapter 1 'An Unexpected Party'
〔第5回〕 Chapter 1 'An Unexpected Party'
〔第6回〕 Chapter 1 'An Unexpected Party'
〔第7回〕 Chapter 1 'An Unexpected Party'
〔第8回〕 Chapter 1 'An Unexpected Party'
〔第9回〕 Chapter 5 'Riddles in the Dark'
〔第10回〕 Chapter 5 'Riddles in the Dark'
〔第11回〕 Chapter 5 'Riddles in the Dark'
〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

・J. R. R. Tolkien『The Hobbit』(Harper Collins、1991年）ISBN-9780261102217

◆参考文献

・トム・シッピー『J. R. R. トールキン―世紀の作家』（評論社、2015年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

スクーリング期間内にテキスト全体を読むことはできませんので、1章のビルボが旅に出ることになる経緯（P3～P30）と、『指輪物語』でも重要な意味を持つ5章のビルボがゴクリに出会う場面（P94～P102）のみを読みます。指定の箇所をスクーリング開始前までに辞書を引いて訳せるようにしておいてください。また、予習の際には必ず家で一度音読してください。文法については必要に応じて授業でも触れますが、自信の無い学生はもう一度復習しておいてください。授業は日本語訳が中心になりますが、自分なりに場面や言葉の意味などを考え、ただ機械的に英語を日本語に訳すだけでない学習を心がけてください。

◆成績評価方法

評価は基本的に最終授業で行われる試験の成績によって決めます。その他、出席状況、予習の有無、授業内における積極的な発言など平常の授業態度を加味します。

科目 英語（リーディング）K　1単位

担当 講師 伊藤 盡

ノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロの、一番若い作品である*The Buried Giant*（2015年；邦訳『忘れられた巨人』）を読み、長文読解を経験しながら、英語の読み方を学びます。

授業では本書の一部しか読むことができません。そこで、この授業の目標は「独力でこの書物を読むことが出来るようになるための英語力の養成」ということになります。

この授業は、

1．英文法の基礎は知っているけれど、なかなか応用が出来ない人
2．英語を読みたいけれど、長い書物を読むのは自信がない人
3．カズオ・イシグロという作家に興味があるけれど、まだ原書では読んだことがない人
4．ノーベル文学賞を取る人の英語の文章ってどのようなものなんだろう？と興味を覚えた人
5．中世のイングランドに興味を持つ人

が、英文を読む楽しさと難しさを学ぶためのものです。

〔第1回〕 イントロダクション：辞書の紹介と英語の学び方。授業の進め方、作者と作品について説明します。
〔第2回〕 第1章の冒頭（pp.1-10）の読み方：語り手が読者に伝えるメッセージにはどんな意味があるのか考えます。
〔第3回〕 章と章とのつながりと断裂：第一章の終わりから第二章の始め（pp.27-31）～Buried Giantのモチーフ（pp.33-37）の意味について考えます。
〔第4回〕 Boatman（渡し守）のエピソード（pp.37-52）：作品全体のテーマとの関連について考えます。
〔第5回〕 旅の向かうべき指針（pp.70-73）を知ります。ストーリーの大枠を理解します。
〔第6回〕 Wistanとの出会いの経緯（pp.78-86）；Edwinを連れて行く事情（pp.90-94）を理解します。ここまでが、旅の準備となります。
〔第7回〕 ガウェイン卿との邂逅（pp.117-124）。その意味と背景について解説します。
〔第8回〕 Part 1で読んだSaxonsとBritonsの争いの意味するものについて考えましょう。（pp.142までの内容把握の補足）
〔第9回〕 第8章（pp.208-228）これまでとは別の視点から物語られる手法について：Edwinの視点と記憶について理解しながら考察します。
〔第10回〕 Sir Gawainの独白（pp.231-244）について理解しながら、私たちはここから何を読み取るべきかを考察します。
〔第11回〕 第11章をできる限り読みます。いわゆる超自然の生き物の描写でありながら、この作品の根幹に触れる場面でもあり、重層的な読みが可能な箇所です。英語の小説を読

む醍醐味をここで味わって下さい。
〔第12回〕 総括：授業の「総括」をします。英語の内容と話の内容を復習しましょう。そのためのテストも行います。
〔その他〕 小テスト

◆テキスト
・Ishiguro, Kazuo『The Buried Giant』(Faber & Faber、2016年)

◆参考文献
・カズオ・イシグロ著、土屋政雄訳『忘れられた巨人』(ハヤカワepi文庫版)(早川書房、2017年)
・『ユリイカ2017年12月号　特集＝カズオ・イシグロの世界』第49巻第25号(青土社、2017年)

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
授業時間の制約上、作品すべてを読解することは不可能なので、予習の段階で、授業で読まない部分については翻訳などによって物語の筋を追うことが不可欠になります。長篇の物語ですので、出来る限り早くにテクストあるいは参考書を入手して、備えて戴くことを望みます。

◆成績評価方法
最終日の試験による。

科目 英語(リーディング)L　1単位

担当 講師 赤羽俊昭

様々な英文を音読し和訳してもらいます。映像や音声を伴う英文を読む場合は、それを活用するつもりです。

〔第1回〕 TOEICのReading Sectionに挑戦しましょう。教材は教員がプリントにして当日配布しますが、辞書を使わなくても済むように注釈を付けておきます。予習は不要です。
〔第2回〕 英語のニュース放送の聴取と読解に挑戦しましょう。教材は最近のCNN 10で放送されたニュースを利用する予定です。まず映像を見て音声を聞きながら、内容を大まかに把握してもらいます。そのあと、放送された英語原稿に注釈をつけたプリントを配布し、受講者の皆さんを指名して、その場で音読と訳読をしてもらいます。予習は不要です。最後に和訳のプリントを配布します。
〔第3回〕 英語のプレゼンテーションの聴取と読解に挑戦してもらいます。教材は最近のTEDで取り上げられた話題を取り上げる予定です。授業の進め方は〔第2回〕と同じです。プリントには注釈をつけておきます。予習は不要です。
〔第4回〕 前回と同じ教材を引き続き扱います。最後に和訳のプリントを配布します。また、この授業中に、次回および次々回の授業で使用する英文を配布して、段落ごとに音読と和訳の担当者を決めておきます。
〔第5回〕 前週に配布しておいた英語新聞の報道記事の読解に挑戦してもらいます。今年の*The Japan Times*に掲載された日本関連の記事を、段落1つずつに割り当てられた担当者に、音読と和訳をしてもらいながら授業を進めます。今回と〔第6回〕の2回に分けて読んでいく予定です。
〔第6回〕 前回と同じ教材を引き続き扱います。最後に和訳のプリントを配布します。授業時間内に音読と和訳をやってもらうことができなかった受講生には、授業終了時に和訳をレポートという形で提出してもらいます。次回授業時に添削して返却します。また、この授業中に、次回および次々回の授業で使用する英文を配布して、段落ごとに音読と和訳の担当者を決めておきます。
〔第7回〕 今回も英語新聞を読みますが、記事は*The New York Times*を使用します。やり方は前回までの講読と同じです。
〔第8回〕 前回と同じ教材を引き続き扱います。最後に和訳のプリントを配布します。授業時間内に音読と和訳をやってもらうことができなかった受講生には、授業終了時に和訳をレポートという形で提出してもらいます。次回授業時に添削して返却します。また、この授業中に、次回の授業で使用する英文を配布して、段落ごとに音読と和訳の担当者を決めておきます。
〔第9回〕 今回は英語雑誌の*The Economist*の記事をこれまでと同じやり方で読んでいきます。今年の日本の社会現象を取り上げた記事を読む予定です。
〔第10回〕 前回と同じ教材を引き続き扱います。最後に和訳のプリントを配布します。授業時間内に音読と和訳をやってもらうことができなかった受講生には、授業終了時に和訳をレポートという形で提出してもらいます。次回に添削して返却します。なお、この回までに授業時間内に扱った箇所が、試験範囲となります。
〔第11回〕 この授業では、〔第2回〕〔第3回〕〔第4回〕と同様に、音声と映像を伴った教材を取り上げます。この回の教材は次の時間の総括の範囲から除外します。
〔第12回〕 〔第1回〕から〔第10回〕までの教材の理解度を測るため、筆記形式で総括を行います。その後は、出題した問題の解説と、採点のポイントについてお話します。
〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト
プリントを適宜配布する。

◆成績評価方法
授業時の英文の読解力(30点満点)と最終日の試験結果(70点満点)に基づいて決定します。

科目 英語(リーディング)M　1単位

担当 講師 出原健一

英語を正確に読む訓練を行う。また、その訓練を通

じ、日本語と英語の発想の違いについての理解を促す。具体的には、各回ごとにまとまった分量の英文を読み、20-30分程度で日本語に翻訳してもらう（この際、「直訳」は認めない。自分の理解した範囲でよいので、可能な限り英文の意味を自然な日本語で表現してもらう）。その後、英文解説や文法の解説を行った後、再度、改めて、より正確な翻訳を試みてもらう。

〔第１回〕 プリントの英文の翻訳を試みてもらい、その後英文解説及び文法解説を行う。
〔第２回〕 第１回と同様。
〔第３回〕 第１回と同様。
〔第４回〕 第１回と同様。
〔第５回〕 第１回と同様。
〔第６回〕 第１回と同様。
〔第７回〕 第１回と同様。
〔第８回〕 第１回と同様。
〔第９回〕 第１回と同様。
〔第10回〕 第１回と同様。
〔第11回〕 第１回と同様。
〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

英和辞典を必ず持参すること。電子辞書でも構わないが、スマートフォンなどのアプリなどは認めない。

◆成績評価方法

最終日の試験による。ただし、２回以上の無断欠席をした場合、最終試験の受験資格を与えない。

科目 英語（リーディング）N　1単位

担当 講師 由井ロバァト

通常の英語新聞は、ニュース、社説、コラム、批評と広告で構成されていますが、その中のニュース記事に用いられる英語を一般的に新聞英語と呼んでいます。この授業では英語記事を読み、意味を訳し、分析することを目的とします。主な内容としてはheadline・見出しの用法と文（例えば、好まれる単語、一般化した英語の使用、コンマによるandの省略、冠詞や代名詞の所有格の省略、過去・現在完了を現在形で、未来を不定詞で、be動詞の省略、短い副詞の活用など）lead／書き出しとbody／本文の用法と文法（例えば、発言者や情報源を独立文の後に、時制の不一致、直接話法と間接話法、分詞構文の活用、結果を表す不定詞の活用、文修飾福祉の活用、分離不定詞の活用、品詞の比較的自由な転換、郡形容詞の多様）などですが、記事によって扱う項目は異なり、全ての項目を一度に説明することはありません。英語記事により扱う項目が重複する場合もあります。新旧２つの関連する記事を読み、比較していきます。授業では新旧の英語記事を読み、訳し、文法項目を確認し、最後に記事の批評をします。履修者には毎回英語で記事に関しての簡単な意見を述べてもらいます。基本的に授業は日本語で行いますが、発表は全て英語で行なってもらいます。

〔第１回〕 1963: Israel ends six-day war
1973: Arab states attack Israel
〔第２回〕 1984: Apple introduces Macintosh
1999: Google at 10,000 hits a day
〔第３回〕 1929: Mold kills bacteria: potential for new drugs limited
2004: Drug-Resistant Tuberculosis
〔第４回〕 1948: New Restaurant serves up ‘fast food’
2006: Trans fats banned in Chicago
〔第５回〕 1903: Airship flies in North Carolina
1927: ‘I made it’
〔第６回〕 1953: Secret of Life solved
1997: First cloned mammal
〔第７回〕 1929: Wall Street hit by new crash
1997: Imperial Palace grounds in Tokyo worth more than California
〔第８回〕 1915: Continents drifting, according to new theory
1980: New theory claims dinosaurs blasted by asteroid
〔第９回〕 1982: New disease strikes homosexuals
1991: Rock legend dies of AIDS
〔第10回〕 1859: Yankees strike oil
2006: Atmospheric carbon-dioxide reaches new record high
〔第11回〕 2001: Terror hits U.S.: Thousands killed
1989: Germans celebrate fall of Wall
1964: Beatles arrive in U.S.
1859: Your Grandma was a chimp
〔第12回〕 最終課題提出

授業時間内で作成し提出

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

プリントは基本的に授業の初めに配布しますので予習はできません。授業で読みますので必ず辞書（電子辞書、スマホ、コンピューター可）を持参してください。また、課題は進度によって全て終わらせることが出来ないかもしれませんが、課題を多くこなすことが重要ではなく、与えられた課題を終わらす事が重要です。授業で発言をし、意見などを述べ、英語記事を理解することを目標とします。

◆成績評価方法

毎回の出席を前提とし、授業での記事に対する積極的な発言や意見、参加度を重視します。最終課題は評価の３割ほどをしめますので、必ず提出してください。

科目 英語（ライティング）1　1単位

担当 商学部教授 吉田友子

この授業ではアカデミック・ライティングの基本であるエッセイの書き方を学んでいきます。授業では様々なエクササイズに取り組み、違いのエッセイを読み、フィードバックを与えることにより、体験的に学

んでいきます。宿題として簡単なエッセイを２本書いていただきます。授業は基本的に英語で行われ、グループワークや宿題を通して４技能を磨いていきます。

〔第１回〕 自己紹介ゲーム、ライティング・ゲーム
〔第２回〕 自己紹介エッセイの書き方の説明
（宿題：自己紹介エッセイ）
〔第３回〕 グループワーク：エッセイの添削
〔第４回〕 ライティング・エクササイズ
〔第５回〕 自己紹介エッセイを読み上げる
〔第６回〕 TOEFL Writingの説明
（宿題：TOEFL Writingエッセイ）
〔第７回〕 グループワーク：エッセイの添削
〔第８回〕 ライティング・エクササイズ
〔第９回〕 TOEFL Writingエッセイを読み上げる
〔第10回〕 Academic Paperに向けての準備
〔第11回〕 ライティング・エクササイズ
〔第12回〕 試験・総括
〔その他〕 課題・レポート，小テスト

◆テキスト

・吉田友子『アカデミック・ライティング入門〔第２版〕』慶應義塾大学出版会、2015年

◆参考文献

・Strunk Jr., W. & White, E.B.『The elements of style』4th Edition, Longman, 2018年, 1077円

◆学生に対する受講上の要望、または受講上の前提条件

この授業は基本的に英語で行いますので、英語の４技能をある程度持っている学生を希望します。また、受講者の英語のレベルまたは要望に合わせて内容を変更することもあります。授業ではアクティビティーを中心に参加型で行っていきますので、積極的に参加してください。

◆成績評価方法

出席・参加：　25%
エッセイ１：　25%
エッセイ２：　25%
テスト：　25%

科目 英語（ライティング）2　1単位

担当 講師 ハインズ，マーティン K.

On this course, students will examine the three major styles of writing. Studying a major language skill in isolation is almost impossible. As such, in each lesson, time will also be devoted to improving speaking and listening skills. By the conclusion of the course, students will be able to express themselves in a number of written genres.

〔第１回〕 Introduction
Writing: Narrative 1
Speaking & Reading Skills
〔第２回〕 Writing: Narrative 2
Vocabulary Extension & Listening Skills
〔第３回〕 Writing: Narrative 3
Speaking & Reading Skills
〔第４回〕 Writing: Narrative 4
Vocabulary Extension & Listening Skills
〔第５回〕 Writing: Descriptive 1
Speaking & Reading Skills
〔第６回〕 Writing: Descriptive 2
Vocabulary Extension & Listening Skills
〔第７回〕 Writing: Descriptive 3
Speaking & Reading Skills
〔第８回〕 Writing: Descriptive 4
Vocabulary Extension & Listening Skills
〔第９回〕 Writing: Expository 1
Speaking & Reading Skills
〔第10回〕 Writing: Expository 2
Vocabulary Extension & Listening Skills
〔第11回〕 Writing: Expository 3
Speaking & Reading Skills
〔第12回〕 Writing: Expository 4
Vocabulary Extension & Listening Skills

◆テキスト

There is no textbook for this course. All materials will be provided by the lecturer.

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

Students must be aware that a large percentage of their final grade is allocated to attendance and participation.

1. The lecturer is available before and after class to answer any questions.

2. Students should be at a level where they can read short articles from an English language newspaper such as The Japan Times and be able to understand roughly 70% of the vocabulary and content.

◆成績評価方法

Final grade will be based on a combination of:
Attendance
Classroom Participation
Writing assignments

科目 英語（ライティング）3　1単位

担当 商学部教授 吉田友子

英語（ライティング）1と同じ。

科目 英語（ライティング）4　1単位

担当 講師 ペトリン，ヴィンセント

Academic Writing for the Lecture - Discussion Classroom

This intermediate level writing course will use the Lecture-Discussion Classroom (Genre) as a basis for introducing and practicing 3

key academic writing skills including:
・Lecture Note-taking
・Summary & Response Papers
・The Academic Essay
The course will also use small group discussions as a tool for developing academic and professional communication skills for both speaking and writing.

Lesson	Description
1	Introduction to the Lecture-Discussion Genre
2	Unit 1: Psychology? Happiness
3	Unit 2: Linguistics? A Time to Learn
4	Unit 3: Public Health? Sleep
5	Writing an Academic Summary & Response Paper
6	Unit 4: Business? Negotiating for Success
7	Unit 5: Art History? Modern Art
8	Unit 7: Media Studies? Interactive Games
9	Writing an Academic Essay
10	Unit 8: Biology? Genetically Modified Food
11	Unit 11: Philosophy? Ethics
12	Review - Course Summary

◆テキスト
・Helen Solórzano and Laurie Frazier『Contemporary Topics Level 1: 21st Century Skills for Academic Success（4th Edition)』(Pearson Japan、2016年)
ISBN-9780134400648

◆成績評価方法
Attendance/Participation（30%）
Homework Quizzes（20%）
Writing Assignments（20%）
Final Exam（30%）

科目 英語（ライティング）5　1単位

担当 講師 ヤング，ジェローム

Learning to write well is a difficult, life-long pursuit. This class aims to give students knowledge of the mechanics of the English essay. Student essays with focus on writing family history, on writing biographies. Even though some people are not interested in history per se, most people are interested in the history of their own families and ask many questions about their ancestors: Who were my grandparents, my great-grandparents, my great-great-grandparents. What did they do? How did they live? In this class students will select a family member about whom they know little but would like to know more. The goal is to research and write a 1000 word essay about his or her life.
〔第1回〕 Session 1: Introduction
〔第2回〕 Session 2: Writing Biographies
〔第3回〕 Session 3: The English Essay
〔第4回〕 Session 4: Ancestor Data
〔第5回〕 Session 5: Analyzing Photographs
〔第6回〕 Session 6: Types of English Paragraphs
〔第7回〕 Session 7: Describing Appearances
〔第8回〕 Session 8: Ancestor's Personality
〔第9回〕 Session 9: Important Places
〔第10回〕 Session 10: Significant Events
〔第11回〕 Session 11: 10 Truths: A Review
〔第12回〕 Session 12: Final Speeches
〔その他〕 Final Speech

◆テキスト
プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
Instructor's Expectations: Regular on-time attendance, preparation of daily homework assignments, and active participation in class (using English at all times).

◆成績評価方法
Methods of Evaluation: There will be continuous evaluation of a student's performance and progress in this class. Final grades will be based on attendance, active class participation, timely completion of all homework assignments, one writing project, and a final speech.

科目 英語（ライティング）6　1単位

担当 講師 戸嶋真弓

このクラスでは、「日常的に使用している言葉を使って、簡単な英文をかけるようになる」ことを目標とします。このため、簡単なリーディングの教材を使って、どのような文章を書けば良いのかということを最初に学びます。教材は、分りやすい作文のモデルとなっています。
文法やパラグラフの作り方は、文章を明確にしていくルールとして、適宜確認していきます。
最終的に、400語程度の英文を構成していくスキルを習得できるようにしていきます。
〔第1回〕オリエンテーション。講義のためのガイダンス
〔第2回〕 Lesson 1-2　自己紹介　動詞の現在形について学ぶ
〔第3回〕 Lesson 3-4　自己紹介　名詞、代名詞の確認をする
〔第4回〕自己紹介文を完成させる　グループワーク
〔第5回〕 Lesson 8　出身地について　受動態の確認をする
〔第6回〕プレゼンテーションの原稿を書く　グループワーク
〔第7回〕 Lesson 9　旅行について書く　動詞の過去形の確認をする
〔第8回〕 Lesson 10　自分の尊敬する人物について書く　不定詞と動名詞の確認をする

〔第９回〕 自由なテーマのライティング・スキルを学ぶ
〔第10回〕 日本語の特徴と英語の特徴について学ぶ
〔第11回〕 疑問に答えるためのライティングを学ぶ
〔第12回〕 総括

◆テキスト

・北尾謙治他著『A Guide to Effective Reading ―パラグラフ読解のための総合ワークブック』金星堂、2002年

◆受講上の要望または受講上の前提条件

1．高校卒業レベルの英語力が必要です。文法事項などお忘れの方は、参考書等で事前に確認をお願いいたします。
2．辞書（電子辞書等を含む）は、毎回持参してください。尚、お持ちの辞書があまりに古い場合や、語彙数が少ない場合は、現在の大学での使用に耐えるものに買い替えをお願いいたします。
3．毎回の予習、復習の時間は、レベルにもよりますが、１時間～３時間程度必要です。
4．あらかじめテキストの所定のLesson箇所をよく読んでから参加して下さい。
5．所定の時間参加した方のみ最終時限に行う試験が受けられます。
6．講義の進め方や内容は、受講者の方々のレベルや出席状況に応じて変えることがあります。
7．最終時限に行う予定のテストには、テキスト、参考書、ノート、電子辞書を含む辞書の持ち込みができますが、パソコンやスマートフォンなどの通信機器の持ち込みはできません。

◆成績評価方法

授業中のアクティビティと課題（グループワークを含む） 40%
到達度テスト　60%

科目 英語（ライティング）７　１単位

担当 講師 吉原 学

センテンス・レベルのライティングのコースです。このコースには２つの目的があります。第１の目的は、英作文（センテンス・レベル）の練習を通して正確な文を書けるようになることです。きちんとした文を書けるようになれば、きちんとした英語を話せるようになれます。第２の目的は、センテンス・レベルのライティングの練習を通して英語における情報の伝達の仕方（語順）、文法、そして語法（語の使い方）を習得することです。これらの知識なしでは正確な文を書くことはできません。今回は、以下の５つの重要文法事項に焦点をあて学習します。

授業はペアーもしくはグループを作って、受講生同士が意見交換をしながら力を付けていくようにします。みなさんが主役のコースです。

〔第１回〕 オリエンテーション＆時のコントロール（時制）①
〔第２回〕 時のコントロール（時制）②
〔第３回〕 時のコントロール（時制）③
〔第４回〕 時のコントロール（時制）④
〔第５回〕 機能表現（助動詞）①
〔第６回〕 機能表現（助動詞）②
〔第７回〕 名詞＆冠詞
〔第８回〕 後置修飾①
〔第９回〕 後置修飾②
〔第10回〕 接続詞①
〔第11回〕 接続詞②
〔第12回〕 総括／ファイナルテスト

◆テキスト

プリント教材。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

学習効果を高めるために、事前準備として「いいずな書店」が無料で提供している『【MEW Core 500】コア解説動画』の動画１～74までを見て、基本動詞、前置詞のコアを確認しておいてください。

URL:https://www.youtube.com/playlist?list=PLI9V6ssotJDXRKVa1YxHrW8G_2KcZ8Cup

◆成績評価方法

成績は、次の基準でつけられます。出席率・授業参加・積極性（40%）、ファイナルテスト（60%）。また、正当な理由のない欠席が４回以上になった場合または過度の遅刻がある場合、成績がつけられなくなります。また、５分以上の遅刻３回で１回の欠席となります。

科目 英語（ライティング）８　１単位

担当 講師 光田達矢

本講義では、アカデミック・イングリッシュの基本となるパラグラフ・ライティングの習得を目指します。しかしながら単なる技術の習得に終わるのではなく、あくまで知識の習得と発信を目的とした授業を心がけます。そのため、「和食」を具体的な共通トピックとして選び、資料の読み込みをもとにノートを研究カードに書き込むなどちょっとした知的生産活動に従事します。そこからエッセーのパーツを組み立てる作業に移り、論理展開に注意しながら、主張のはっきりとした英作文（five-paragraph essay）を仕上げます。

〔第１回〕 Introduction / The basics of paragraph writing 1（DNA）
〔第２回〕 The basics of paragraph writing 2（Paraphrasing & Summary）
〔第３回〕 The basics of paragraph writing 3（Introduction & Conclusion）
〔第４回〕 Research skills 1（5W1H）
〔第５回〕 Research skills 2（Looking for material）
〔第６回〕 Research skills 3（Taking notes）
〔第７回〕 Putting it together 1（Brainstorming & Overview）
〔第８回〕 Putting it together 2（Evidence & Logic）
〔第９回〕 Putting it together 3（Citations & Bibliography）
〔第10回〕 Putting it together 4（Introduction & Conclusion）
〔第11回〕 Peer review & Feedback
〔第12回〕 Mini presentation of findings

◆テキスト
テキストは、プリントなどで配布予定です。
◆参考文献
・慶應義塾大学経済学部英語部会編『Study Skills for College English 2nd Edition』(慶應義塾大学出版会、2011年)
◆受講上の要望、または受講上の前提条件
授業には、英英辞典の入った電子辞書を持参してください。
◆成績評価方法
出席(20%)、参加(20%)、課題・宿題(20%)、エッセー(40%)

科目 英語(ライティング)9　1単位

担当 講師 トーマス, ダックス

基礎学力の充実をはかり、応用力をつけることを目的とする実力養成クラスです。

This advanced level writing course consists of two main parts: Creative Writing and Analytical Writing.

In the first part students will develop their creative language skills through study of the various elements of, and structures used in, written English narratives. Topics covered will include: establishing settings, building characters, creating conflict, organizing the story, and using dialogue, tense and descriptive language appropriately.

In the second part of the course students will develop their analytical language skills through the writing of an argumentative essay. We'll look at formulating strong thesis statements, effective brainstorming, organising and outlining, and transitioning from outline to essay. In all cases the student's goal is to construct a well-formulated, persuasive essay, complete with citations and references.

Students will be required to work cooperatively with other students in class as well as complete homework independently outside of class.

〔第1回〕 Course introduction; review of writing basics; useful writing tools
〔第2回〕 Creative Writing 1 – Using descriptive language
〔第3回〕 Creative Writing 2 – Elements of Narrative
〔第4回〕 Creative Writing 3 – Group story-building activity
〔第5回〕 Creative Writing 4 – Peer editing and correction
〔第6回〕 Paraphrasing and Summarising
〔第7回〕 Writing citations and references
〔第8回〕 Analytical Writing 1 – Researching an Argumentative Essay
〔第9回〕 Analytical Writing 2 – Outlining an Argumentative essay
〔第10回〕 Analytical Writing 3 – Writing an Argumentative essay
〔第11回〕 Analytical Writing 4 – Peer editing and correction
〔第12回〕 Course summary

◆テキスト
All materials for this course will be provided by the instructor.
◆受講上の要望、または受講上の前提条件
1. This class is held in a computer room. Assignments will be completed using MS Word and submitted by email attachment. A very basic level of computer competence is expected.
2. Students are required to have their own email account that can be accessed in the computer room by means of the Internet. Some typical examples of web-based services are Gmail, Hotmail, Yahoo, and Excite, but others may also work. Phone-based texting systems such as Docomo Mail or Ezweb will not be sufficient.
3. This is an advanced level class and students will be expected to use English in class to communicate with their partners.
◆成績評価方法
Evaluation will be based on writing assignments, class participation (including attendance), and a final exam.

科目 英語(ライティング)10　1単位

担当 講師 日高正司

このクラスではパラグラフ・ライティング(PW)の基礎を学びます。PWスタイルを使い、まとまりある英文を作成する能力を身につけることがねらいです。

テキストの練習問題やモデル文を使って英語の表現や論理展開を学びます。

〔第1回〕 イントロダクション:パラグラフ・ライティングとは何か
〔第2回〕 1)出来事を語る　2)手順を説明する
〔第3回〕 感情や人物、場所を描写する
〔第4回〕 人物や物事を定義する
〔第5回〕 人物や物事を比較・対照する
〔第6回〕 原因と結果を書く
〔第7回〕 問題を指摘して解決する
〔第8回〕 自分の意見を述べる
〔第9回〕 反対意見を述べる
〔第10回〕 データを説明・分析する
〔第11回〕 英文メール・レターを作成する
〔第12回〕 授業のまとめ

◆テキスト
・仲谷都、吉原学、Ruth Fallon『Smart Writing はじめてのパラグラフ・ライティング』(成美堂、

2017年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

授業外課題があります。

◆成績評価方法

授業課題（50％）と最終試験（50％）の総合評価とする。

科目 英語（ライティング）11　1単位

担当 講師 柴田由佳子

本授業は、主に２つの内容から構成されます。１つ目は文法を重視した英作文の演習です。文法に対して苦手意識をお持ちの方もおいでかと思いますが、「評価される英語」を目指す場合には欠かせないものです。文法の意味や使い方の確認から始め、練習問題を解いたり文法事項が用いられている英文を読んだりしながら理解を深めた上で、英作文の演習につなげていきます。テキストは必ず予習してきてください。２つ目はグループで行うエッセイ・ライティングです。ここで言うエッセイとは日本語の随筆ではなく小論文に当たるものです。必要とされるのは英語力だけではありません。情報を収集する力や文章を構成する力、論理的に思考する力など、多くの力が必要とされます。各々の得意分野で貢献し、グループ全体で１つのエッセイを書きあげてください。

〔第１回〕　テキスト　１章
〔第２回〕　ライティング
〔第３回〕　テキスト　２章
〔第４回〕　エッセイ・ライティング
〔第５回〕　テキスト　３章
〔第６回〕　テキスト　４章
〔第７回〕　テキスト　５章
〔第８回〕　エッセイ・ライティング
〔第９回〕　テキスト　６章
〔第10回〕　テキスト　７章
〔第11回〕　試験・総括
〔第12回〕　エッセイ・ライティング

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

毎日の予習と授業への積極的な参加を重視します。また本授業ではグループワークも取り入れますので、お互いの協力が不可欠となります。ご自身の担当分が終わらない場合は、授業外の時間に行ってきてください。辞書は毎回持参してください。

◆成績評価方法

授業への積極的な参加、エッセイ、試験の結果で総合的に評価します。

科目 英語（ライティング）12　1単位

担当 講師 沢村 静

このクラスでは、基本的な英作文からパラグラフライティングの基本構造を理解した正しい文章を書けることを目指します。自己紹介から説明書、物語文など各テーマについて筋道立てて自己表現するための技術を学びましょう。文章の理論構成、展開法を理解するとともに、その基礎となる文法事項を復習し、語彙を強化していきます。

〔第１回〕　Chapter 1：Introduction　定義の仕方　自己紹介
〔第２回〕　Chapter 2：トピック文の書き方
〔第３回〕　Chapter 3：時系列的なサポート文の書き方
〔第４回〕　Chapter 4：手順や手続きを説明する
〔第５回〕　Chapter 5：例示・列挙のサポート文の書き方
〔第６回〕　Chapter 6：原因と結果のサポート文の書き方
〔第７回〕　Chapter 7：比較・対照のサポート文の書き方
〔第８回〕　Chapter 8：分類のサポート文の書き方
〔第９回〕　Chapter 9：前置詞の概念とイメージについて
〔第10回〕　Chapter 10：形容詞の種類、関係副詞について
〔第11回〕　Chapter 11：分詞・分詞構文について
〔第12回〕　総括
〔その他〕　小テスト

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

毎回辞書を必ず持参してください。予習、復習を前提で授業を進めます。アクティビティやディスカッションを多く取り入れますので、他学生と積極的に関わりながら授業に参加することを期待します。また、各課ごとの課題提出は必須です。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 英語（ライティング）13【実力養成クラス（中～上級）】　1単位

担当 法学部教授 佐藤元状

【応用力をつけることを目的とした、
通常のクラスよりも難易度が高いクラスです。】

英語でアカデミックな文章を書くための基本的なスキルをわずか１週間で学習します。前半はパラグラフ（=段落）の書き方、後半はエッセイ（=複数の段落からなる文章のまとまり）の書き方の訓練をします。英語である一定の長さの論理的な構成のリサーチ・ペーパー（=自分で決定したテーマについて独自のリサーチをして、自己の見解を導き出したもの）を書けるようになるには、継続的な努力と勉学への真摯な態度が不可欠です。ライティングの宿題の量は少ないとは決して言えませんが、がんばってついてきてください。こちらも全力で指導にあたります。参加者のみなさんの１週間後の英語のライティング能力の飛躍的な向上を保証します。

〔第１回〕　イントロダクション
〔第２回～第６回〕　パラグラフの書き方の訓練
〔第７回～第10回〕　エッセイの書き方の訓練
〔第11回・第12回〕　ワークショップ

〔その他〕 課題・レポート(定期的な宿題およびリサーチ・ペーパー)

◆テキスト

・Alice Oshima/Ann Hogue『Longman Academic Writing Series Level 4 Student Book (5E)〔第5版〕』(Pearson Japan、2013年) ISBN-978-0132915694

◆参考文献

授業中に指示します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

やる気のある学生を歓迎します。授業には、英英辞典の入った電子辞書を持参してください。

◆成績評価方法

成績は、出席、平常点、提出物、リサーチ・ペーパーから総合的に判断します。配分の目安は、1）出席、平常点、提出物を合わせて30%、2）リサーチ・ペーパー70%です。

科目 英語（ライティング）14　1単位

担当 講師 松本純一

英語の重要な文法事項について総合的な復習をおこないながら、それらを利用した基本的な英作文の演習をします。使用する教材は決してそれほど難度の高いものではありませんが、あなどらずに完全な理解をめざしてほしいと思います。テキストの各章は、①基本例文と文法解説②基本問題③標準問題④発展問題、という構成になっていますが、授業では主に②と③の部分を中心に演習をおこなっていく予定です。

〔第1回〕 イントロダクション　動詞（テキスト Unit 1）
〔第2回〕 時制（テキスト Unit 2）
〔第3回〕 名詞／前置詞（テキスト Unit 3/4）
〔第4回〕 形容詞／副詞／比較（テキスト Unit 5）
〔第5回〕 不定詞（テキスト Unit 6）
〔第6回〕 分詞／動名詞（テキスト Unit 7/8）
〔第7回〕 受動態（テキスト Unit 9/10）
〔第8回〕 完了形（テキスト Unit 11）
〔第9回〕 接続詞（テキスト Unit 12/13）
〔第10回〕 関係詞（テキスト Unit 15）
〔第11回〕 仮定法（テキスト Unit 14）
〔第12回〕 応用問題演習／総括

◆テキスト

・佐藤哲三・愛甲ゆかり・新藤照夫『Primer for English Writing［大学生の英作文入門］』南雲堂、2005年、ISBN 9784523174745

◆学生に対する受講上の要望、または受講上の前提条件

演習形式の授業となるため、平常点・出席点を特に重視します。また、英作文の解答については、教師が提示する模範解答だけを唯一の正解と思わずに、他の様々な表現の可能性について積極的に質問や提案がなされることを期待しています。そのようなことのためになら、多少授業のペースが遅れてもいっこうに気にしません。

◆成績評価方法

出席状態・授業中の演習への参加態度、および最終日に提出していただくレポートによって成績評価をおこないます。

外国語科目／ドイツ語

科目 ドイツ語（初級前期）Ⅰ—A　1単位

担当 経済学部教授 七字眞明 ／ 講師 デーケン，ラルフ

初級前期は、ABC、発音の仕方から始めて、ドイツ語文法の基本ルールを学習し、ドイツ語を読み、書き、聞き、話すことのしっかりとした基礎をつくる。教科書の約半分、zu不定句のところまで学習する。

〔第1回〕 アルファベート、第1課：発音
〔第2回〕 第2課：動詞の現在人称変化
〔第3回〕 第3課：冠詞と名詞（単数）
〔第4回〕 第4課：冠詞類
〔第5回〕 第5課：前置詞
〔第6回〕 第6課：名詞の複数形
〔第7回〕 第7課：動詞の人称変化（特殊）、命令形
〔第8回〕 第8課（1）：話法の助動詞
〔第9回〕 第8課（2）：未来形
〔第10回〕 第9課：定形後置
〔第11回〕 第10課：zu不定句
〔第12回〕 まとめと試験

◆テキスト

・大谷弘道・井戸田総一郎・岩下眞好・大畑純一・識名章喜編『新編初歩ドイツ語』(慶應義塾大学出版会、1995年)

◆受講上の要望または受講上の前提条件

この段階は、今後のドイツ語のあらゆる学習の基礎となるものなので、きちんと身につけてほしい。

◆成績評価方法

スクーリング最終日の試験によって評価する。

科目 ドイツ語（初級後期）Ⅱ—A　1単位

担当 経済学部教授 七字眞明 ／ 講師 デーケン，ラルフ

初級後期は、初級前期に引き続いてドイツ語の文法の基礎を学ぶ。教科書の後半、形容詞以後を学習する。

〔第1回〕 初級前期の総ざらい
〔第2回〕 第11課：形容詞の変化
〔第3回〕 第12課：分離動詞
〔第4回〕 第13課：再帰動詞
〔第5回〕 第14課：動詞の3要形と過去
〔第6回〕 第15課：現在完了
〔第7回〕 第16課：受動形
〔第8回〕 第17課：関係代名詞
〔第9回〕 第18課：接続法の形態
〔第10回〕 第19課：接続法の用法（1）—間接話法

〔第11回〕 第20課：接続法の用法（２）―非現実話法
〔第12回〕 まとめと試験
テキスト、注意事項等は、ドイツ語（初級前期）Ⅰ―Aと同じ。

科目 ドイツ語（中級）Ⅲ―A　1単位

担当 経済学部教授 境 一三

この授業は、初級ドイツ語を終わった皆さんに、ドイツ語を読むことに慣れていただくためのものです。内容的には、ドイツ社会の現状理解を目的としますが、文法・語彙・語法などの説明も丁寧に行う予定です。内容理解は、教員が口頭で質問しながら行います。十分な予習と復習が前提となります。
〔第１回〕 導入:「読む」とはどのようなことか?
〔第２回〕 ドイツ人とスポーツ 1
〔第３回〕 ドイツ人とスポーツ 2
〔第４回〕 ドイツ人と音楽 1
〔第５回〕 ドイツ人と音楽 2
〔第６回〕 ドイツの教育 1
〔第７回〕 ドイツの教育 2
〔第８回〕 ドイツ人の休暇 1
〔第９回〕 ドイツ人の休暇 2
〔第10回〕 ドイツ人と政治 1
〔第11回〕 ドイツ人と政治 2
〔第12回〕 総括

◆テキスト
適宜プリントを配布する。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
辞書とこれまでに使った文法（教科）書を毎回必ずお持ちください。
十分な予習と復習が前提となります。また、授業中には積極的な質問と発言を求めます。

◆成績評価方法
最終日に試験を行います。

科目 ドイツ語（中級）Ⅲ―B　1単位

担当 講師 津崎正行

この授業では、初級で学んだ文法事項を総復習しながら、ドイツ語で書かれた文章を正確に読むために必要とされることを、確実に習得することを目指します。（ドイツ語の文章を読むときに、分からない単語があれば辞書で調べて、ひとつひとつ日本語におきかえた後、その日本語訳を「想像」で組み合わせて「作文」するだけの人がすくなからずいますが、それではいつまでたっても、文章を正しく読むことができるようにはなりません。）授業中に取り上げる文章はすべて、教科書のために書かれたものではなく、実際の文学作品などからの抜粋です。なかには初級の文法で学んだ原則から外れた表現などもありますので、最初のうちは難しいと感じられるかもしれませんが、適当に「これでいいや」ですませてしまったり、すぐに他人から「正しい答え」を教えてもらおうとしたりするのではなく、分かるまで自分で根気強く考えることを、なによりも大切にしていただきたいと考えています。

〔第１回〕 Lektion 1：乾杯の歌
Lektion 2：亡命と移民
〔第２回〕 Lektion 3：ドイツ映画『会議は踊る』
Lektion 4：『魔王』／『魔笛』の夜の女王のアリア
〔第３回〕 Lektion 5：ブレヒトの反戦詩１／カフカの断章
〔第４回〕 Lektion 6：亡命映画スター：マレーネ・ディートリヒ
〔第５回〕 Lektion 7：歌曲「人生を楽しみなさい」／フロイトの「リビドー」
〔第６回〕 Lektion 8：ディートリヒの『花はどこへ行った』／ヘッセの『車輪の下』
〔第７回〕 Lektion 9：ハイネの『ローレライ』／ニーチェの『ツァラトゥストラ』
〔第８回〕 Lektion 10：ブレヒトの反戦詩 2／フロイトの「エロスとタナトス」
〔第９回〕 Lektion 11：リンゲルナッツの「郵便切手」／アインシュタインの「平和主義」
〔第10回〕 Lektion 12：クリスマス市と『喜びの歌』
〔第11回〕 Lektion 13：神聖なドイツの芸術／リルケの『マルテの手記』
〔第12回〕 まとめと試験、講評

◆テキスト
・奥田敏広、細見和之『歌と詩で考えるドイツ語』（郁文堂、2019年）ISBN-978-4-261-01271-2

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
授業はそのつど、参加者がどこまで理解できているかを確認しながら進めてゆきます。したがって、基本的には毎回、すべての方に発言をしていただくことになりますので、事前に指定された範囲の予習をしておいてください。

◆成績評価方法
毎回の授業での発言および課題（50%）と最終日の試験（50%）によって、総合的に評価します。

科目 ドイツ語（上級）Ⅳ―A　1単位

担当 講師 中川純子

これまで学んだ文法を確認しながら、ドイツ語の会話力とリスニング力を高め、コミュニケーション力をつけることを目的とします。またドイツ語の短い詩などを朗読する練習を通じて、発音のポイントも学んでいきます。その際、母音、子音連続などいわゆる発音が難しいと言われるドイツ語特有の問題点の他、ポーズ、イントネーション、アクセント、声の大小や読む速度などがどのような役割を果たすかを学びます。同じ文が話し方によって全く違う印象を与える事を自らの発音で体験してください
〔第１回〕 イントロダクション
挨拶の仕方、数の数え方１)、ドイツ語発音の基礎
〔第２回〕 自己紹介：出身地、職業、趣味、家族について
テキスト朗読練習・リスニング練習

〔第３回〕 家族や友人について語る
テキスト朗読練習・リスニング練習
〔第４回〕 持ち物について尋ねる、描写する
テキスト朗読練習・リスニング練習
〔第５回〕 ショッピング
数の数え方２）お店でのやりとりの基本表現、テキスト朗読練習・リスニング練習
〔第６回〕 依頼の表現
命令・依頼文の作り方、状況に応じた表現の作り方
テキスト朗読練習・リスニング練習
〔第７回〕 物の置き場所を尋ねる、
部屋の中の物・建物の名前を覚える、３・４格支配の前置詞の使い方
テキスト朗読練習・リスニング練習
〔第８回〕 場所を移動する、出かける
道を尋ねる
テキスト朗読練習・リスニング練習
〔第９回〕 レストランでの会話
レストランでのやりとりの基本表現、メニューの読み方
テキスト朗読練習・リスニング練習
〔第10回〕 １日の出来事を語る
現在完了形と過去形
時間表現
テキスト朗読練習・リスニング練習
〔第11回〕 自分の考えや意見を言う
反対や賛成を言うための表現、提案をする
テキスト朗読練習・リスニング練習
〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト
プリントを適宜配布する。

◆成績評価方法
平常点及び最終日の試験による。

科目 ドイツ語（上級）Ⅳ－B　1単位

担当 経済学部教授 **七字眞明**

このクラスでは、ドイツ語の語彙を増やし、読解力を身につける練習に取り組みます。テキストを読みながら、ドイツ語の基本的な文法事項の復習も行います。テキストには『時事ドイツ語 2019年度版』（Andrea Raab／石井寿子著・朝日出版社・2019）を使用します。

〔第１回〕 第11課のテキスト「Japan und die EU schliessen Freihandelsabkommen」のうち、42ページ１行目から13行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。
〔第２回〕 第11課のテキスト「Japan und die EU schliessen Freihandelsabkommen」のうち、42ページ14行目から43頁24行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。
〔第３回〕 第11課のテキスト「Japan und die EU schliessen Freihandelsabkommen」のうち、43ページ25行目から33行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。さらに、この課のテキストの内容に関連した練習問題として、44ページの問題ⅠとⅡに取り組みます。
〔第４回〕 第11課のテキスト「Japan und die EU schliessen Freihandelsabkommen」の内容に関連した練習問題として、44ページの問題ⅢからⅤに取り組みます。
〔第５回〕 第３課のテキスト「Der Dreissigjaehrige Krieg - ein deutsches Trauma」のうち、10ページ１行目から11行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。
〔第６回〕 第３課のテキスト「Der Dreissigjaehrige Krieg - ein deutsches Trauma」のうち、10ページ12行目から11頁20行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。
〔第７回〕 第３課のテキスト「Der Dreissigjaehrige Krieg - ein deutsches Trauma」のうち、11ページ21行目から11頁33行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。
〔第８回〕 第３課のテキスト「Der Dreissigjaehrige Krieg - ein deutsches Trauma」の内容に関連した練習問題として、12ページの問題ⅠからⅤに取り組みます。
〔第９回〕 第９課のテキスト「Pflegenotstand in Deutschland」のうち、34ページ１行目から14行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。
〔第10回〕 第９課のテキスト「Pflegenotstand in Deutschland」のうち、34ページ15行目から35頁32行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。
〔第11回〕 第９課のテキスト「Pflegenotstand in Deutschland」の内容に関連した練習問題として、36ページの問題ⅠからⅤに取り組みます。
〔第12回〕 まとめの試験と総括を行ないます。

◆テキスト
・Andrea Raab／石井寿子『時事ドイツ語2019年度版』（朝日出版社、2019年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
授業では、皆さんにテキストの翻訳を担当し、練習問題に挑戦していただこうと考えています。授業開始までに、必ず予習（独和辞書を用いてひととおりテキストの日本語訳を準備する）をして授業に臨んでください。また、ドイツ語の文法を忘れてしまった方は、以前使用した文法の教科書もご持参ください。なお、各回の授業で扱う予定範囲は、履修者のドイツ語文法の理解度に応じ、多少前後する可能性があります。

◆成績評価方法
最終授業日に行う試験（50％）と平常点（50％）の総合評価とします。

外国語科目／フランス語

科目 フランス語（初級前期）Ⅰ—A フランス語（初級前期）Ⅰ—B　1単位

担当 講師 森 千夏

フランス語の初級文法の授業です。「綴りと発音」から始めて「目的語人称代名詞の位置」までを学習します。教科書は0課から10課までを学習します。毎回教科書の1課を学習するというペースで、まず教師が文法解説をし、そのあと練習問題を解くという形で授業を進めていきます。

〔第1回〕 Leçon 0 綴りと発音
〔第2回〕 Leçon 1「名詞の性と数」・「冠詞」・「提示表現」
〔第3回〕 Leçon 2「主語人称代名詞」・「動詞etreとavoirの直接法現在形」・「疑問文に対する答え方」
〔第4回〕 Leçon 3「-er型規則動詞と-ir型規則動詞の直説法現在形」・「形容詞」
〔第5回〕 Leçon 4「指示形容詞」・「所有形容詞」・「強勢人称代名詞」
〔第6回〕 Leçon 5「否定文・否定のde」・「疑問文」・「否定疑問文に対する答え方」
〔第7回〕 Leçon 6「不規則動詞allerとvenirの直接法現在形」・「近接未来と近接過去」・「前置詞 aとdeと定冠詞の縮約」・「強調構文」
〔第8回〕 Leçon 7「疑問形容詞」・「疑問副詞」・「疑問代名詞（1）—性・数変化しないもの—」
〔第9回〕 Leçon 8「命令法」・「非人称構文」・「疑問代名詞（2）—性・数変化するもの—」
〔第10回〕 Leçon 9「比較級」・「最上級」・「特殊な優等比較級・優等最上級」
〔第11回〕 Leçon 10「人称代名詞」・「目的語人称代名詞の位置」
〔第12回〕 総括・最終試験

◆テキスト

・石上亜紀子他『アトリエ・フランセ—見開きフランス語文法（CD付）』（朝日出版社、2007年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

フランス語を初めて学ぶ学生を対象とします。1回の授業で教科書の1課を学習するという比較的速いペースで進みますので、授業前の予習と授業後の復習は不可欠です。予習に関しては、授業前に授業で学ぶ課の文法説明を一読して理解するよう努めるようにしてください。復習に関しては、教科書の練習問題はもちろん、付録の文法問題も必ず解き、授業で学習した課の内容を確実にマスターするよう心がけてください。なお、教科書にはCDも付いていますので、フランス語の発音の学習に大いに役立ててください。

一般に、語学の学習にとって反復練習は欠かせません。動詞の活用を含めた文法事項は、何度も音読して暗記し、また忘れたら覚え直すという作業を繰り返し、できるだけ多くの文法練習の問題を解くようにしてください。この作業を繰り返すうちに確実にフランス語の実力がつくようになるでしょう。

◆成績評価方法

平常点および最終試験による。

科目 フランス語（初級前期）Ⅰ—C　1単位

担当 経済学部准教授 中川真知子 ／ 講師 五味田 泰

フランス語（初級前期）Ⅰ—Aと同じ。

科目 フランス語（初級後期）Ⅱ—A　1単位

担当 経済学部准教授 中川真知子 ／ 講師 五味田 泰

フランス語初級前期にひきつづき、「過去分詞」から「接続法」までを学習します。教科書は11課から20課までを学習します。1回の授業で教科書の1課を学習するというペースで、まず教師が文法解説をし、そのあと練習問題を解くという形で進めていきます。なお初回の授業は前期に学習した文法の復習に充てます。

〔第1回〕 Leçon 6 からLeçon 10までの文法事項の復習
〔第2回〕 Leçon 11「過去分詞」・「直説法複合過去」
〔第3回〕 Leçon 12「代名動詞」
〔第4回〕 Leçon 13「中性代名詞 en, y, le」
〔第5回〕 Leçon 14「関係代名詞」
〔第6回〕 Leçon 15「受動態」・「指示代名詞」・「所有代名詞」
〔第7回〕 Leçon 16「直説法半過去形」・「直説法大過去形」
〔第8回〕 Leçon 17「直説法単純未来形」・「直説法前未来形」
〔第9回〕 Leçon 18「現在分詞」・「ジェロンディフ」
〔第10回〕 Leçon 19「条件法現在形・過去形」
〔第11回〕 Leçon 20「接続法現在形・過去形」
〔第12回〕 総括・最終試験

◆テキスト

・石上亜紀子他『アトリエ・フランセ—見開きフランス語文法（CD付）』（朝日出版社、2007年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

フランス語初級前期を終えた学生、またはそれと同程度の知識を持つ学生を対象とします。この科目の受講希望者は、第1回目の授業の前までに『アトリエ・フランセ』の特に6課から10課までを自主学習しておいてください。第1回目の授業ではこれらの課の簡単な復習をします。

テキスト、注意事項などはフランス語（初級前期）Ⅰ—A、Bと同じです。

◆成績評価方法

平常点および最終試験による。

科目 フランス語（中級）Ⅲ―A　1単位

担当 講師 クレメール 小椋，アレクサンドラ

この授業の目的はコミュニケーション能力を伸ばすことです。初級で学んだ文法を復習しながら、特に、話す・聞くに焦点をあわせて向上させます。また、新しい文型と語彙もたくさん学ぶことができます。グループでフランス語を練習することで、言語能力にさらに自信を持たせることに役立ちます。

〔第1回〕 Leçon 1 自己紹介・Leçon 2 人について語る
〔第2回〕 Leçon 3　持ち物についてたずねる
〔第3回〕 Leçon 4　好き嫌いを言う
〔第4回〕 Leçon 5　行き先を言う
〔第5回〕 Leçon 6　家族を紹介する
〔第6回〕 Leçon 7　食べ物、飲み物などを勧める
〔第7回〕 Leçon 8　位置関係を示す
〔第8回〕 Leçon 9　贈り物の相談をする
〔第9回〕 Leçon 10　過去の行為、出来事を語る 1
〔第10回〕 Leçon 11　過去の行為、出来事を語る 2
〔第11回〕 Leçon 12　過去の状態や習慣を語る
〔第12回〕 まとめ・試験

◆テキスト

・Kitamura, Ayako. Durrenberger, Vincent (2017)『新・オン プラティック！』朝日出版社、ISBN 978-4-255-35274-9

◆参考文献

辞書

◆受講上の要望または受講上の前提条件

今まで学習したフランス語を使える良い機会だと思ってください。スキルを最大限のばすために、出席と積極的な授業参加は必須事項です。間違いを恐れず、どんどん口を開いて話すことが大切です。

◆成績評価方法

最終日に試験による。

科目 フランス語（中級）Ⅲ―B　1単位

担当 講師 小嶋竜寿

現代フランスの社会現象や政治、技術革新、アートなど、さまざまな話題を扱う文章を読みます。フランス語検定準2級レベルの文章をとおして、綴字の読み方や文法知識の復習および構文把握に配慮し、読解力の向上を目指します。

〔第1回〕 1課　制服への回帰？
〔第2回〕 2課　バカロレア改革と大学入試改革
〔第3回〕 3課　2024年、パリ五輪に向けて
〔第4回〕 4課　フランスはスタートアップの国？
〔第5回〕 5課　移民とフランスの文化
〔第6回〕 6課　パリは緑の都？
〔第7回〕 7課　国立パリ・オペラ座バレエ団
〔第8回〕 8課　ファッションとメセナの伝統
〔第9回〕 9課　2050年、フランス語の話者7億人？
〔第10回〕 10課　AIそれともCI？
〔第11回〕 11課　文学大国、フランス
〔第12回（最終回）〕 試験／総括

◆テキスト

・岡見さえ、ミカエル・デプレ『Perspectives―12テーマでわかるフランス事情』白水社、2019年、2,052円、ISBN 978-4-560-06133-6

◆学生に対する受講上の要望、または受講上の前提条件

初級文法を履修済みであること。スクーリング期間に入る前に全て予習しておくことをおすすめします。

◆成績評価方法

最終回で行う試験と平常点とで総合的に評価します。

科目 フランス語（上級）Ⅳ―A　1単位

担当 講師 真部清孝

中級フランス語を習得した者を対象に、テキストの講読をおこないます。テキストは、Louis-Sébastien Mercier（1740-1814）のTableau de Parisを使用します。18世紀のパリを断章形式で描いたこの作品を読むことにより、文学作品を読み解くために必要な読解力を養成することを目的としています。

〔第1回〕 Préface（1）
〔第2回〕 Préface（2）
〔第3回〕 Les huit classes
〔第4回〕 Les heures du jour（1）
〔第5回〕 Les heures du jour（2）
〔第6回〕 Les carrières
〔第7回〕 Plancher d'une partie de la capitale
〔第8回〕 Babil
〔第9回〕 Gare ! Gare !
〔第10回〕 Cafés
〔第11回〕 Champignons
〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

演習形式で授業を行いますので、辞書をひいておくなど、必ず予習をしてください。

◆成績評価方法

最終日の試験によって評価。

科目 フランス語（上級）Ⅳ―B　1単位

担当 総合政策学部准教授 宮代康丈

中級程度の文法知識を持っていることを前提に、フランス語圏で実際に出版されている本を一冊まるごと読みます。授業で取り上げるのは、スイスで創作活動を続けたハンガリー出身の作家アゴタ・クリストフの自伝です。フランス語に慣れるために、1回の授業で多くのページを読み進めますが、それでも各種の単語や表現、構文については緻密な理解を求めます。フランス語で書いたり話したりする時に、この授業を通して身に着けた事項を実際に応用して使えるようになることが最終的な目標です。

〔第1回〕 « Débuts »（p. 5 - 8）の読解・文法説明
〔第2回〕 « De la parole à l'écriture »（p. 9 -12）の読解・文法説明
〔第3回〕 « Poèmes »（p.13-16）の読解・文法説明

〔第４回〕 « Clowneries »（p.17-20）の読解・文法説明
〔第５回〕 « Langue maternelle et langues ennemies »（p.21-24）の読解・文法説明
〔第６回〕 « La mort de Staline »（p.25-29）の読解・文法説明
〔第７回〕 « La mémoire »（p.31-35）の読解・文法説明
〔第８回〕 « Personnes déplacées »（p.37-40）の読解・文法説明
〔第９回〕 « Le désert »（p.41-44）の読解・文法説明
〔第10回〕 « Comment devient-on écrivain? »（p.45-49）の読解・文法説明
〔第11回〕 « L' analphabète »（p.51-55）の読解・文法説明
〔第12回〕 まとめ・試験

◆テキスト
・Agota Kristof『L' Analphabète. Récit autobiographique』（Zoé, 2004）ISBN 978-2-88182-512-5
なお、本書には参考文献の欄に挙げた邦訳があります。内容を理解するための助けとして利用してかまいません。

◆参考文献
・アゴタ・クリストフ『文盲：アゴタ・クリストフ自伝』（堀茂樹訳）、（白水社、2014年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件
中級程度の文法知識を持っていることが受講の前提です。また、毎回の授業に出席するにあたっては、事前に自分で辞書を引いて指定箇所を予習しておくことが欠かせません。

◆成績評価方法
授業最終日に行なう筆記試験の結果に平常点（出席・予習・ディクテ）を加えて総合的に評価します。

外国語科目／選択外国語

科目 中国語（初級）A　1単位

担当 法学部教授 安田 淳

まさに「使える」中国語を学習し、そのことによって中国に対する関心や理解を深め、それらを持続させるための総合的な能力や教養を習得することが、この授業の目的である。中国語の習得にとって、基本的な発音を会得することは非常に重要であるため、この授業では発音練習に重点を置く。中国語の発音と日常会話の能力を向上させることは、中国社会へ近づくためのもっとも効果的な方法である。日本と中国の言葉の違い、考え方の違い、そして文化や社会のしくみの違いなどをも考えながら、中国語会話を楽しくできるようにしていきたい。

〔第１回〕 中国と中国語についての概要説明
〔第２回〕 発音の基礎
〔第３回〕 テキスト第１課
〔第４回〕 テキスト第２課
〔第５回〕 テキスト第３課
〔第６回〕 テキスト第４課
〔第７回〕 テキスト第５課
〔第８回〕 テキスト第６課
〔第９回〕 テキスト第７課
〔第10回〕 テキスト第８課
〔第11回〕 テキスト第９課
〔第12回〕 テキスト第10課
発音の総括

◆テキスト
・方如偉・鐙屋一・王智新『中国語10課』（白水社、2003年）2160円、ISBN-9784560069073

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
授業へ積極的に参加し、発言し、常に中国と中国語への関心を高め、理解を深めることが強く要求される。

◆成績評価方法
出席状況、受講態度、発音テストなどを総合して評価する。

科目 中国語（初級）B　1単位

担当 法学部専任講師 島田美和

本授業では、これまで中国語を学んだことのない学生を対象とします。授業では、基本的に発音の習得に重点を置きつつ、基礎的な文法、簡単な中国語の聞き取りや書く能力を習得することを学習目標とします。授業の前半では、中国語の発音とピンイン（発音のローマ字表記）の学習を中心に行います。発音学習については、日本語の発音と中国語の発音の違いに注意し、日本語母語話者が中国語を発音する際の注意点について確認しながら発音の練習を行います。授業の後半では、短い中国語会話のスキットを用い文法学習を行いながら、中国語の日常会話の練習をします。その際も、発音とピンインの復習に心がけながら、新しい文法項目の学習に進みます。また、各課では中国語の漢字（簡体字）の書き方についても確認を行います。本授業では、使える中国語の習得を目指すため、各スキットの暗誦や適宜グループを作り会話練習をするなどして中国語の会話力の基礎を育成します。

〔第１回〕 イントロダクション、四声
〔第２回〕 短母音等
〔第３回〕 子音
〔第４回〕 子音
〔第５回〕 母音等
〔第６回〕 肯定文、否定文、疑問文　等
〔第７回〕 形容詞文、副詞の位置　等
〔第８回〕 100までの数、これ／あれ～だ　等
〔第９回〕 場所代名詞、量詞　等
〔第10回〕 なに？だれ？　等
〔第11回〕 命令文、前置詞（在）、日付と時刻　等
〔第12回〕 まとめ・総括
〔その他〕 小テスト

◆テキスト
・千葉謙悟・熊進『フレンズ中国語―発音中心トレーニング』朝日出版社、2013年、2,376円
◆学生に対する受講上の要望、または受講上の前提条件
授業では発音の練習に重点を置くので、授業に出席する際には文法事項や新出単語について必ず予習と復習を行ってください。
◆成績評価方法
授業態度、授業内小テスト、最終日の復習プリント、出席等総合的に判断する。

科目 スペイン語（初級） 1単位

担当 商学部准教授 川上 英

スペイン語を初めて学ぶ学生のためのクラスです。まずはスペイン語の発音を丁寧に練習し、その後で初級文法を学習していきます。受講生の皆さんの理解度を踏まえながら授業を進めていくので、授業計画の内容や順序が変更される場合もあります。
〔第１回〕 文字と発音
〔第２回〕 文字と発音、基礎的な会話表現
〔第３回〕 規則動詞
〔第４回〕 名詞の性、冠詞
〔第５回〕 動詞serとestar
〔第６回〕 不定冠詞、形容詞
〔第７回〕 語根母音変化動詞
〔第８回〕 hayの用法、指示詞
〔第９回〕 不規則動詞
〔第10回〕 所有詞
〔第11回〕 動詞現在形のまとめ
〔第12回〕 試験と総括
◆テキスト
・寺崎英樹『Sistema gramatical de la lengua espanola（スペイン語文法のシステム）』同学社、2000年、ISBN 978-4-8102-0350-9
◆学生に対する受講上の要望、または受講上の前提条件
毎回宿題が出ます。授業の復習と宿題を必ずしたうえで次の授業に出席してください。
◆成績評価方法
平常点と試験を合わせて、総合的に評価します。

科目 ロシア語（初級） 1単位

担当 講師 中澤朋子

この授業は、ロシア語を初めて学ぶ方を対象にした入門のクラスです。ロシア語の文字から始めて、最終的には比較的やさしいロシア語の文をすらすらと読めるようにすること、さらに可能ならば、会話でよく使われる簡単なフレーズを発話できるようにすることを目指します。受講生のみなさんの理解度をそのつどふまえながらゆっくりと進めていきますので、根気強く且つ意欲的に授業に臨んでください。概して「難解な言語」と評されることの多いロシア語ですが、丁寧に向き合えば、全12回の授業を終える頃にはロシアやロシア語そのものに愛着さえ覚えるようになっていることでしょう。
〔第１回〕 イントロダクション
〔第２回〕 文字と発音
〔第３回〕 平叙文、疑問文
〔第４回〕 動詞の現在人称変化（１）
〔第５回〕 所有代名詞、前置詞
〔第６回〕 動詞の現在人称変化（２）
〔第７回〕 所有の表現、動詞の過去形
〔第８回〕 運動の動詞
〔第９回〕 合成未来、動詞の体
〔第10回〕 形容詞短語尾形
〔第11回〕 ２人称命令法、比較級
〔第12回〕 総括
◆テキスト
・桑野隆『初級ロシア語20課《CD付》』（白水社、2012年）ISBN 978-4-560-08614-8
◆受講上の要望または受講上の前提条件
特にありません。ロシアやロシア語に少しでも興味のある受講生のみなさんの積極的な参加をお待ちしています。
◆成績評価方法
平常点および最終試験によって評価します。

科目 朝鮮語（初級） 1単位

担当 講師 崔 鶴山

韓国・朝鮮語の文字（ハングル）と発音を学び、基本的な単語と文型を練習します。これにより、「～は～です」「～を～（し）ます」程度の短文が書けるように、また、口頭で言えるように練習します。単語や文章を読むときは、文字を見るだけではなく、発音を聞いて声に出す練習が必要です。語順や漢字語など日本語との共通点は学習上の大きなメリットです。全12回の授業では、日本語の語順で単語を並べて短文が作れるところまで進みます。
〔第１回〕 講義の概要、文字と発音
〔第２回〕 文字と発音
〔第３回〕 文字と発音
〔第４回〕 文字と発音
〔第５回〕 「～は（名詞）です／ですか」
〔第６回〕 「～があります／ありません」
〔第７回〕 動詞・形容詞の表現、中間テスト
〔第８回〕 動詞・形容詞の表現
〔第９回〕 動詞・形容詞の表現
〔第10回〕 否定文、疑問詞
〔第11回〕 試験
〔第12回〕 総括
◆テキスト
・金智賢『教養韓国語初級』（朝日出版社、2015年）ISBN 978-4-255-55636-9
◆受講上の要望または受講上の前提条件
文字から学ぶ入門の授業です。既習者の割合が多い場合でも初心者の理解度に合わせて授業を進めますので、その点、了解してください。
◆成績評価方法
平常点と試験で評価します。出席重視。

保健体育科目

科目 保健衛生　1単位

担当 保健管理センター准教授 広瀬 寛 ／ 同教授 德村光昭
同教授 森 正明 ／ 同准教授 和井内由充子
同教授 横山裕一

本講義は慶應義塾大学保健管理センターの医師が各自の専門分野で近年話題になっている疾患を概説し、健康な生活のヒントを提供することを目的とする。

〔第１回〕 現代の子どもたちには、肥満が多い一方で、やせも増加している。肥満につながる子どもの生活習慣、思春期やせ症（神経性やせ症）について、新しい研究データを提示し解説する。（担当　德村 光昭 教授）

〔第２回〕 虚血性心疾患は生活習慣病の最終的直接死因のひとつであり、突然死の原因としても重要である。その病態、予防、緊急時の処置について。（担当　和井内 由充子 准教授）

〔第３回〕 飲酒と健康には密接な関係がある。飲酒が身体に与える急性と慢性の影響およびその個人差を示し、適正飲酒、即ち健康的な飲酒とは何かを解説する。（担当　横山 裕一 教授）

〔第４回〕 インフルエンザ、結核、食中毒など、日頃、健康な人でも注意が必要な感染症の予防や治療について。（担当　森 正明 教授）

〔第５回〕 最近のライフスタイルの変化が糖尿病や高血圧を増加させている。これら生活習慣病の正しい理解とその予防・治療について。（担当　広瀬 寛 准教授）

〔第６回〕 試験・講評（担当　広瀬 寛 准教授）

◆テキスト

・慶應義塾大学保健管理センター編『保健衛生』（通信テキスト、2018年、Ⅰ年度配本）

◆参考文献

各担当者が資料配布。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

特になし。

◆成績評価方法

出席状況と最終日の試験による。試験は資料などの持ち込みは不可で行う。

体育スクーリング／スポーツクラス

各種目の実施場所、更衣室等、体育スクーリング実施に関する詳細は、７月中旬に送付する「体育スクーリング実施要綱」に発表します。

なお、スクーリング期間中は、天候等により実施場所・更衣室が変更になることがありますので、毎日必ず体育スクーリング用掲示板（記念館入口前、または並木道途中郵便ポスト前）を確認してください。

科目 ゴルフ　1単位

担当 講師 勝又正浩

定員―20名
実施場所―体育会ゴルフ部練習場
準備するもの―動きやすい服装、運動靴（ゴルフスパイク不可）、練習用クラブ数本、ゴルフグローブ、タオル、飲み物

若年層から高齢者層まで幅広く楽しむ事が出来るゴルフを、クラブの握り方から指導します。

スポーツとしてのゴルフを学ぶことにより、健康増進、体力アップに繋げて行きたいと考えています。

又、ゴルフの歴史、ルール、ゴルフ業界の現在、過去、未来に関しての講義も行います。

初級者にはクラブの握り方から、コースラウンドに必要な技術の基礎を指導し、講義終了後の練習方法に関しても指導します。

中・上級者には、個人別の課題を抽出し、より一層のレベルアップを図れるように具体的に指導します。

〔第１回〕 講義内容：ゴルフを行うに当たっての注意事項の説明。ゴルフの歴史と、日本のゴルフについて。
実技内容：ゴルフの基礎（スタンス、グリップ、アドレス）

〔第２回〕 講義内容：ゴルフルールについて
実技内容：ゴルフにおける準備体操

〔第３回〕 講義内容：プロゴルフに関して
実技内容：個別指導

〔第４回〕 講義内容：ゴルフ四方山話
実技内容：個別指導

〔第５回〕 講義内容：ゴルフクラブの選び方
実技内容：個別指導

〔第６回〕 講義内容：総括
実技内容：パッティング指導

◆テキスト

指定しない。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特にありません。

◆成績評価方法

出席60%、態度20%、理解20%の配点で評価。

体育スクーリング／スポーツセミナー

科目 水泳　2単位

担当 体育研究所専任講師 鳥海 崇

定員―30名
実施場所―協生館地下大学体育施設プール
準備するもの―水着、スイムキャップ、ゴーグル、タオル、飲み物

慶應義塾には約80年前から『塾生皆泳』いう伝統があり、「泳ぐ技能を身につけることが、人として備えるべき重要な素養のひとつである」という水泳教育の理念がある。塾生たるもの泳げないために命を落としたり、溺れている人を救えないということがないように水泳技術を身につけるべし、というのがその教えである。本授業では老若男女問わず全く泳げない者から全国大会経験者まで幅広い対象に対して、この『塾生皆泳』を実践する。履修者は６日間同じプールで文字通り裸の付き合いを通じて同じプールで泳いだ仲としての『泳縁』を築き授業後にも続く人間関係が構築できるだろう。

〔第１回〕 講義内容：慶應義塾における水泳授業の歴史と水泳を履修することで得られる知見についてのまとめ。
演習内容：プールの利用方法についての実践。競泳用、水球用、飛込用、サウナの安全な利用法。
〔第２回〕 講義内容：クロールの理論。泳法・呼吸法・練習方法についての概略。
演習内容：クロールの実践。
〔第３回〕 講義内容：平泳ぎの理論。泳法・呼吸法・練習方法についての概略。
演習内容：平泳ぎの実践。
〔第４回〕 講義内容：背泳ぎの理論。泳法・呼吸法・練習方法についての概略。
演習内容：背泳ぎの実践。
〔第５回〕 講義内容：運動強度と心拍数の理論。体育理論テキスト３章及び４章。
演習内容：運動強度と心拍数の実践。
〔第６回〕 講義内容：安全水泳と水難事故防止の理論。安全水泳の国際比較。状況別の対応方法のまとめ。
演習内容：安全水泳と水難事故防止の実践。

◆テキスト

・鈴木大地・藤本秀樹編著『だれでもどこでも泳げるようになる! 水泳大全』東洋館出版社、2018年

◆学生に対する受講上の要望、または受講上の前提条件

安全を第一に考えております。集団行動がとれず他の履修者に危険を及ぼす場合はプールからの退去を命じることがあります。履修者同士及び教員との交流も大切に考えております。積極的な授業参加を望みます。

◆成績評価方法

出席（60%）、態度（20%）、技術（20%）による成績評価

科目 卓球　2単位

担当 講師 木林弥生

定員―25名程度
実施場所―スポーツ棟地下１階　卓球場
準備するもの―運動のできる服装、室内シューズ（靴裏が黒いものは禁止です）は必ずご準備ください。そのほか、季節柄必要に応じてタオル、水分補給のための飲料等があるとよいかと思います。

卓球を通して体を動かすことを楽しみ、スポーツの知識を深めることを目標にしています。演習は卓球をはじめてする方でも理解し、実践できるようなプログラムを組んでおります。講義は卓球についても行いますが、体を動かすことの大切さや健康についてなどもテーマに取り上げます。卓球は年齢や性別を問わずに生涯を通して行えるスポーツです。またボールを打ちあう仲間がいないとできないスポーツです。経験者の方はもちろん、はじめて卓球をする方も卓球を楽しみながら学友を増やしてください。

〔第１回〕 講義内容：卓球について１
演習内容：フォアハンドとバックハンドを理解し、実践する
〔第２回〕 講義内容：スポーツと健康について１
演習内容：昨日の復習、ボールを連続で打ち合うことに挑戦する
〔第３回〕 講義内容：スポーツと健康について２
演習内容：昨日の復習、サーブ・レシーブを理解し、実践する、シングルス試合を理解し、実践する
〔第４回〕 講義内容：卓球について２
演習内容：ダブルス試合を理解し、実践する
〔第５回〕 講義内容：スポーツを楽しむ
演習内容：ボールの回転を理解し、実践する、シングルス試合で自分の戦術を試す
〔第６回〕 講義内容：総括
演習内容：紅白戦（シングルス・ダブルスの試合をチーム対抗で行います）

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

卓球台は７台あります。履修人数が多い場合は複数人で１台を使いながら授業を行います。

ラケットは貸し出し用がありますのでお使いいただけますが、ご自身のラケットをお持ちの方は是非ご持参ください。シューズの貸し出しはありません。

初日は運動できる服装に着替えた上で、実施場所に来てください。

この授業は経験者から未経験者まで幅広いレベルの方を対象にしています。経験者の方は未経験者の方へのご配慮をお願いいたします。

各回の内容は授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

◆成績評価方法

出席（60%）、態度（20%）、理解（20%）の項目を点数化し、その合計点で評価をします。

科目 フィットネストレーニング　2単位

担当 体育研究所教授 山内 賢

定員―25名
実施場所―協生館地下１階　トレーニングルーム
準備するもの―運動着、室内用トレーニングシューズ、タオル、熱中症予防のための飲料（キャップが付いたボトル、水筒に限る）、筆記用具、継続の精神

この授業は、健康づくりを目標としたトレーニングの理論と実践です。トレーニング理論をもとにした『運動習慣』のきっかけづくりを目的とした実践型の講座は、『運動の必要性』への動機づけ『身体づくり』の方法を学ぶ姿勢そのものです。人間の体力を維持・向上させるには、自体重の負荷やトレーニング専用マシンにより、筋力、パワー、柔軟性、持久力、バランス力など効率よく鍛える『行動』と合わせて、体組成（体内筋肉量、脂肪量、体内栄養状態等）を精密な体成分分析装置で計測する『観察』も必要と考えられます。そして、『行動と観察』を上手に『評価』して、次の目標や目的を明確にして『計画』を立てることも重要な要素です。当然、６日間の授業では、明確な効果を期待することができないかもしれません。しかし、授業内容を習慣化することにより、自己の健康関連体力は自然と無理なく改善されていくはずです。授業担当者は、「この授業を通じて、個々のペースで管理するボディビルディングとコンディショニングの方法や、将来の健康につなげる体力づくりに役立つ身体知を学んでもらいたい」と考え、「健康について」を受講生とともに授業の中で創造していきます。

〔第１回〕 講義内容：トレーニングの方法論を学ぶ①（トレーニングに必要な安全性について）
演習内容：トレーニング機器の使い方
〔第２回〕 講義内容：トレーニングの方法論を学ぶ②（トレーニングマシンによる自分の『筋力バランス』と体組成測定器による『筋肉バランス』の測定評価）
演習内容：最大筋力の決定とトレーニング負荷に慣れる
〔第３回〕 講義内容：トレーニングの方法論を学ぶ③（筋肉の役割とトレーニングの原則）
演習内容：最大筋力を基にしたトレーニング実践
〔第４回〕 講義内容：トレーニングの方法論を学ぶ④（筋力＆栄養のバランス）
演習内容：最大筋力を基にしたトレーニング実践＋Gボールトレーニング
〔第５回〕 講義内容：トレーニングの方法論を学ぶ⑤（運動消費エネルギーと運動負荷）
演習内容：最大筋力を基にしたトレーニング実践＋コアトレーニング（スラックライン体験）
〔第６回〕 講義内容：トレーニングの方法論を学ぶ⑥（コンディショニングの意義と必要性を理解する）
演習内容：最大筋力を基にしたトレーニング実践のまとめ＋コーディネーショントレーニング＋総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

積極的に出席してほしい。授業中の実技では、毎回トレーニング日記の記入作業があります。日記は、レポートに対応するものであるので、丁寧に記録していただきます。また、日記が受講者の「トレーニング習慣への動機づけ」、「体力の観察の意味」、「健康を意識する資料」等の自己評価に役立つことに、担当教員は期待しているので、最終日に返却します。

◆成績評価方法

・出席60％（欠席や遅刻、服装の不備は減点します。最低２／３の出席がないと成績評価はしない。）
・態度20％（トレーニングを積極的に行うことが主な評価の視点です。講義中の居眠りや通信機器の使用は減点の対象とします。）
・理解20％（体力を観察する日記を正確に記入することはもちろんのこと、体力の観察・評価方法である運動処方への理解を求めます。）
・以上の３項目を点数化して、その合計点で評価します。60点以上で単位認定となります。

科目 ピラティス（健康身体作り）　2単位

担当 体育研究所准教授 板垣悦子

定員―20名程度
実施場所―協生館地下１階エクササイズスタジオ
準備するもの―運動が出来る服装。タオル・水分補給のための飲料。シューズはピラティス演習時には必要ありませんが、簡易体力測定時は必要。

ピラティスは、身体コンディショニングとして活用されているエクササイズです。生活習慣によっておこる身体のゆがみを、筋肉を刺激することで改善していきます。

講義はピラティスによる身体健康法を中心に他ヘルスプロモーションについて行い、演習は十分ストレッチ運動を行った後に、ピラティス独自の呼吸法を取り入れながら、特に体幹部を中心に身体全体の筋肉をバランス良く鍛えていきます。

〔第１回〕 講義内容：ピラティスについて
演習内容：姿勢チェック・身体組成計測・簡易体力測定・呼吸法・腹部の使い方
〔第２回〕 講義内容：ピラティスと健康
演習内容：ピラティス基礎動作①
〔第３回〕 講義内容：自分の健康について考える
演習内容：ピラティス基礎動作②
〔第４回〕 講義内容：ヘルスプロモーションについて①

演習内容：ピラティス基礎動作③
〔第５回〕 講義内容：ヘルスプロモーション②
演習内容：ピラティス基礎動作④
〔第６回〕 講義内容：総括
演習内容：姿勢チェック・身体組成計測・簡易体力測定・ピラティス基礎動作まとめ

◆テキスト
プリントを適宜配布する。

◆参考文献
・ジョセフ・H・ピラティス著、日本ピラティス協会訳『リターン・トゥー・ライフ・スルー・コントロロジー』（現代書林、2010年）
・アマンダ・テレサ、マリーナ・ディグビー、新関真人著『ピラティスマスタリー』（スキージャーナル、2006年）（入手困難）

◆成績評価方法
出席60%・理解20%・態度20%をそれぞれ点数化し、総合的に評価する。

科目 テニス　2単位

担当 体育研究所教授 村松 憲

定員―20名
実施場所―インドアテニスコートおよび教室
準備するもの―テニスシューズ（ハードコート用もしくはオールコート用）、テニスラケット、動きやすい服装、飲み物、タオル
※テニスラケットをお持ちでない方には貸し出します

「テニスを楽しむことについて深く学ぶ」ということを最大の目標にします。１日の授業は講義と演習から構成され、講義は主として教室で、演習はインドアハードコート２面で行います。インドアですので直射日光を浴びることなくテニスを行うことができます（ただしインドアコートに空調施設はありません）。講義では、楽しむこと・身体の効率的な使い方・ダブルスの戦術などについて学びます。演習では講義で学んだことをテニスを通じて実践していきます。初心者の方に配慮し、国際テニス連盟が推奨する‘PlayandStay’コンセプトを取り入れ、少し柔らかくて軽いボールを主として使用します。このボールであればボールの勢いが弱まりゆっくりとしたラリーが続きますので、初心者の方もゲーム形式を楽しみやすくなるだけでなく、戦術面を学ぶ機会も多くなります。本授業では講義においても演習においても、グループワークやペアワークを多く行い、他の参加者との交流・意見交換を積極的に行います。

各回の内容は以下の予定ですが、受講者の方のテニス技術水準等を考慮して、変更することもあります。

〔第１回〕 講義内容：「楽しむ」ということについて（その１）・‘PlayandStay’について
演習内容：ラケットやボールについての理解と実践
〔第２回〕 講義内容：「楽しむ」ということについて（その２）・技術の変遷について
演習内容：昨日の復習・フォアハンドおよびバックハンドグラウンドストローク、サービスについての理解と実践
〔第３回〕 講義内容：「楽しむ」ということについて（その３）・身体の効率的な使い方について・ダブルスの試合について
演習内容：昨日の復習・ラリー（打ち合い）についての理解と実践・ダブルスの試合についての理解と実践
〔第４回〕 講義内容：「楽しむ」ということについて（その４）・ボールのスピードと回転について・ダブルスの試合について
演習内容：昨日の復習・ダブルスの試合についての理解と実践
〔第５回〕 講義内容：「楽しむ」ということについて（復習）・ダブルスの試合について
演習内容：ダブルスの試合についての理解
〔第６回〕 講義内容：「楽しむ」ということについて（復習）・ダブルスの試合について
演習内容：ダブルスの試合についての理解と実践

◆受講上の要望または受講上の前提条件
・使用するテニスコートはインドアハードコートです。怪我防止のためテニスシューズは「ハードコート用」または「オールコート用」をご用意下さい。「オムニコート専用」や「クレーコート専用」ですと止まりすぎて怪我の原因になることがありますのでご注意ください。
・初日は運動できる服装に着替えた上で、教室に集合してください。
・服装は運動がしやすいものであれば、テニスウェアである必要はありません
・インドアテニスコートとはいえ空調設備がありませんので、かなり暑くなります。各自で飲み物をご用意いただき、積極的に水分補給をしてください。

◆成績評価方法
出席が60%、参加姿勢が20%、理解が20%です。

科目 太極拳　2単位

担当 講師 厚母宗子

定員―20名
実施場所―協生館２階多目的教室
準備するもの―運動着、運動シューズは不要（裸足か五本指靴下着用を薦めます。ストッキング・タイツは不可）、タオル、水分補給の為の飲料水、筆記用具

東洋の哲理に則った護身術としての伝統の太極拳を実習します。

その基礎を習得する過程で、「動きのシステムがからだの中心点から四肢へと上下左右に連動し、全体として有機的になめらかに繋がること」や「軸意識が重要なこと」も学習します。

調身・調心・調息の三位一体を大事にし、ゆっくり動くことにより普段意識されない深部筋を働かせ、動

かし方の特徴・癖に気づき、からだをほぐし、リラックスしたからだにし、そしてニュートラルなからだを体感し、日常生活においてもそれらを活かせるような意識を育てます。

〔第１回〕 講義内容：太極拳の概要
演習内容：護身術としての太極拳、1.無極式　2.太極拳起勢

〔第２回〕 講義内容：太極拳の基本（手法、歩法）
演習内容：３・4.攬雀尾（基本四功）

〔第３回〕 講義内容：太極拳の特性
演習内容：5.単鞭

〔第４回〕 講義内容：太極拳の練習の注意点と練習効果
演習内容：6.提手上勢

〔第５回〕 講義内容：太極拳の呼吸法
演習内容：7.白鶴亮翅

〔第６回〕 講義内容：全講義内容の総括
演習内容：「伝統太極拳初伝前半」の表演

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆成績評価方法

出席60%、態度20%、理解20%の項目を点数化し、その合計で評価します。

2 文学部専門教育科目

第１類に属する科目

科目 哲学（専門） 2単位

担当 講師 木下頌子 ／ 講師 石田隆太

本講義では、「種」に関する哲学的な諸問題を西洋の伝統的な哲学と現代哲学の双方に基づいて考えることにより、哲学における「種」の問題を多角的に捉える視座を手に入れることを目指す。

石田のパートでは、西洋の伝統的な哲学において議論されてきた「種」について何人かの哲学者による議論を取りあげて解説する。「種」の問題を各哲学者に即して具体的に考える作業を通じて、普遍の問題や世界の捉え方に関する哲学的な理解を深めることが主眼となる。

木下のパートでは、現代の分析哲学で論じられている種に関する理論や問題を紹介する。特に、ソール・クリプキやイアン・ハッキング、ジョン・サールといった現代の哲学者の見解に触れつつ、この世界のさまざまな種（水や金のような自然種、貨幣やジェンダーのような社会種など）の特徴や存在論的位置づけについて考察する。

〔第１回〕（石田） 古代ギリシアと種の問題①
〔第２回〕（石田） 古代ギリシアと種の問題②
〔第３回〕（石田） 西洋中世と種の問題①
〔第４回〕（石田） 西洋中世と種の問題②
〔第５回〕（石田） 西洋近世の種の問題：ライプニッツの場合
〔第６回〕（石田） ここまでのまとめ
〔第７回〕（木下） 現代における種の問題のイントロダクション
〔第８回〕（木下） 種と実在性
〔第９回〕（木下） 種と本質主義
〔第10回〕（木下） 自然種と社会種の問題 ①
〔第11回〕（木下） 自然種と社会種の問題②
〔第12回〕（木下） 試験・総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・伊東俊太郎『自然』（三省堂、1999年）
・ハインリッヒ・ロムバッハ（著）、酒井潔（訳）『実体・体系・構造：機能主義の有論と近代科学の哲学的背景』（ミネルヴァ書房、1999年）
・ウィリアム・デイヴィッド・ロス（著）、田島孝・新海邦治（訳）『プラトンのイデア論』（哲書房、1996年）
・A・S・マクグレイド（編）、川添信介（監訳）『中世の哲学』（京都大学学術出版会、2012年）
・ソール・クリプキ（著）、八木沢敬・野家啓一（訳）『名指しと必然性』（産業図書、1985年）
・イアン・ハッキング（著）、出口康夫・久米暁（訳）『何が社会的に構成されるのか』（岩波書店、2006年）
・ジョン・R・サール（著）、三谷武司（訳）『社会的世界の制作』（勁草書房、2018年）
・フランチェスコ・グァラ（著）、瀧澤弘和（監訳）、水野孝之（訳）『制度とは何か――社会科学のための制度論』（慶應義塾大学出版会、2018年）

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 哲学史 2単位

担当 講師 田子山和歌子 ／ 講師 内山真莉子

〔授業テーマ〕
「中世と近代における神学と哲学」
〔授業概要〕

西洋哲学思想の大きな特徴は、神学、すなわち、唯一神を対象とするキリスト教思想と密接な関係を持ちつつ、認識、存在をはじめとする諸問題に対峙した点にあります。なかでも、神は存在するかどうかを根本的に問い論証する、神の存在論証と、罪のある人間であっても神によってすべて救済されうるのか否かを問う、救済論の問題は、神学の大きなテーマです。本講義では、これらの問題に焦点を当て、中世、近代哲学との関連について検討します。本講義の前半（担当、内山）では、13世紀の思想家トマス・アクィナスを中心に、神の存在論証、および、救済論を検討します。また、後半（担当、田子山）では、近代思想家たちにおける、これらの問題の受容の様相について見ていきます。

中世・近代の哲学史、宗教思想（特にキリスト教思想）に興味を持つ方を歓迎します。

〔第１回〕（1，２時限目、内山担当）：ガイダンス、中世における神の存在論証①
〔第２回〕（1，２時限目、内山担当）：中世における神の存在論証②、中世における救済論①
〔第３回〕（1時限目、内山担当）：中世における救済論②
（２時限目、田子山担当）：ガイダンス、近代におけるキリスト教思想
〔第４回〕（1，２時限目、田子山担当）：近代における神の存在論証
〔第５回〕（1，２時限目、田子山担当）：近代における救済論
〔第６回〕（1時限目、田子山担当）：まとめ
（２時限目、田子山担当）：最終試験

◆テキスト

用いません。田子山、内山ともに、授業中にハンドアウト配布、使用します。

◆成績評価方法

最終試験（論述試験）にて評価します。
※授業詳細については各ガイダンス時に説明を行います。希望者はガイダンスに必ず出席のこと。

科目 倫理学（専門） 2単位

担当 文学部助教 村上暁子

私たちは、この世に生まれついた以上、いずれ死ぬ運命にあると言われています。しかしそのことは、日常生活においては深く考えられることなく、意識の片隅に追いやられているかもしれません。しかし、死の問題は、よく生きたいと願い、幸福を求める私たち自身の生の問題とも結びついています。また、医療技術の進歩に伴い終末期医療をめぐるさまざまな課題が浮き彫りになり、人間の生と死、幸福に関する議論がますます求められるようになっています。倫理学では、こうした問題についても出来る限り厳密に思考しようとします。

この授業では、生命倫理に関連する応用的問題にも目を配りつつ、多様な死生観、幸福観を紹介し、一見個人的な事柄にも見える主題の背後に、人間的な生のありかたをめぐる普遍的な問いがあることを明らかにしていきます。これにより、倫理学を、私たちの日常的な生の側面について一歩踏み込んで考えるためのツールとして活用する力を身につけることを目指します。

〔第１回〕 生と死、幸福をめぐる倫理学の議論への導入
〔第２回〕 よい死／悪い死の定義づけは妥当か（安楽死問題）：苦痛に満ちた生は死よりも悪しきものか
〔第３回〕 尊厳ある死／尊厳なき生の定義づけは妥当か（尊厳死問題）：尊厳なき生／尊厳ある死は存在するか
〔第４回〕 心と体の関係とは（脳死判定による臓器移植問題）：身体は誰に帰属するか・脳死＝死という発想は妥当か
〔第５回〕 人格の定義とは（１）：パーソン論の議論・「人格のない人間」「人格のある人間以外の動物」はいるか
〔第６回〕 人格の定義とは（２）：人格に固有の権利とは・生命と身体の所有権はあるか・自己決定権の範囲とは
〔第７回〕 生殺与奪の権能は誰にあるか（死刑制度の是非）：刑罰における「死を与えられるべき人間」の地位とは・死刑は人格の尊厳と両立可能か
〔第８回〕 身体・生命の倫理とは（生体情報を用いた生殖医療の是非）：健康は規範か・生体情報とプライバシー・生殖医療における「まだ生まれていない人間」の地位
〔第９回〕 死の彼方への眼差し：死後に魂は存続するか・老いていくことをどう受け止めるべきか
〔第10回〕 生と死の連関（進化形の死・生命の連鎖）：死を受容するプロセスとは・死は生に内在するのか・個体の死を超える生命のつながりとは
〔第11回〕 生の価値と幸福：苦悩、死があることで生の価値は減少するのか・人生の意味づけの問題
〔第12回〕 試験・総括：生と死、幸福について倫理学的に論じるために

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・小松光彦／樽井正義／谷寿美（編）『倫理学案内―理論と課題』（慶應義塾大学出版会、2006年）
・霜田求／奈良雅俊／朝倉輝一／黒瀬勉／佐藤労／樫則章（編著）『医療と生命　シリーズ〈人間論の21世紀的課題〉③』（ナカニシヤ出版、2007年）

初回の授業で参考文献表を配布します。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

倫理学の諸問題を自身の問題として捉え、主体的に参加する学生の履修を歓迎します。この授業では、生と死、幸福をめぐる倫理学の諸問題について思考し、議論する能力を身につけることを目標にしています。そのため、毎回、講義の後に短いレポートを書いてもらい、授業で扱った事例について自身の見解を表明してもらいます。基本的に講義形式ですが、少人数グループでのディスカッションも盛り込むことで受講生が自ら倫理学的に思考する力を養い、授業内の論述テストによってその成果を確認します。毎回、講義の内容量はかなり多めですので、予習・復習をしっかり行ってください。

◆成績評価方法

授業内レポートと、最終日の論述試験の合計点で評価します。論述試験では、授業内で扱った問題について倫理学的議論を展開できているかという点を評価しますので、毎回の授業レポートはその練習と思って臨んでください。

科目 西洋美術史 2単位

担当 講師 細野喜代

本講義ではイタリア・ルネサンス美術を扱うこととし、特に、ボッティチェリ作《春》を中心に取り上げます。この作品はフィレンツェ・ルネサンスの頂点というべき名画です。この傑作を丹念に鑑賞していくことによって、芸術作品を見る楽しさを味わうとともに、その魅力を感知したいと思います。技法についてもお話します。また、様式や図像学といった美術史の基本的な知識についても理解を深めます。さらに、《春》が制作された歴史的、文化的、社会的背景を分析することによって、この作品が有していた固有の意味内容、担っていた役割を解読します。

〔第１回〕 イントロダクション
ルネサンス都市フィレンツェ
フィレンツェの支配者メディチ家
〔第２回〕 ボッティチェリの作品と生涯
パトロンのメディチ家
ボッティチェリ作《マギの礼拝》
〔第３回〕 ボッティチェリ作《春》の作品叙述
①ゼフュロス、クロリス、フローラ
〔第４回〕 ボッティチェリ作《春》の作品叙述
②ヴィーナス、クピド
〔第５回〕 ボッティチェリ作《春》の作品叙述
③三美神、メルクリウス

〔第６回〕　ボッティチェリ作《春》の作品叙述
④背景に描かれた植物とその意味
〔第７回〕　ボッティチェリの円熟期の様式とその魅力
〔第８回〕　ボッティチェリ作《ヴィーナスの誕生》
〔第９回〕　ボッティチェリ作《パラスとケンタウロス》
〔第10回〕　ボッティチェリ作《春》の制作年、注文主、オリジナルの設置場所
〔第11回〕　ボッティチェリ作《春》が有していた意味内容、担っていた役割
〔第12回〕　試験、総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・ジェームズ・ホール『西洋美術解読事典　絵画・彫刻における主題と象徴』新装版（河出書房新社、2004年）
・ホルスト・ブレデカンプ『ボッティチェリ《プリマヴェーラ》　ヴィーナスの園としてのフィレンツェ』（三元社、2002年）

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 日本美術史　２単位

担当　文学研究科教授 林 温

日本美術の特質とはどのようなものか。西欧や中国の美術に対してどのような性格を持つのか。日本美術を育んだ文化とその背景を見渡しながら解説します。

〔第１回〕　日本美術を理解するための視点。
〔第２回〕　「日本」以前の美術ー縄文時代・弥生時代・古墳時代
〔第３回〕　「学習期」の美術（１）　飛鳥から白鳳へ
〔第４回〕　「学習期」の美術（２）　天平時代
〔第５回〕　ホトケの力とカミの逆襲　９世紀
〔第６回〕　日本的な美の顕現　10世紀ー11世紀
〔第７回〕　日本美の爛熟ー女性性の最盛期　12世紀
〔第８回〕　夢の終わりと覚醒　鎌倉時代
〔第９回〕　日本美意識の自覚と深化　室町時代
〔第10回〕　ふたたび女性性の時代へ　江戸時代
〔第11回〕　西洋の衝撃（男性性）と伝統（女性性）近代
〔第12回〕　まとめと小テスト
〔その他〕　小テスト

◆テキスト

・林温『日本美術がワカル本　「女性性」の文化』慶應義塾大学出版会、2017年

◆参考文献

・辻惟雄『カラー版　日本美術史年表』美術出版社、2002年

◆学生に対する受講上の要望、または受講上の前提条件

美術の歴史を理解するためには日本史の知識とある程度の日本文化についての共用が必要ですが、講義では時間的な制約があり十分に解説することができません。各自で知識を補充し確認するという意欲を持って受講して下さい。

◆成績評価方法

最終日の小テストによる。

科目 社会学（専門）　２単位

担当　文学部教授 岡原正幸 ／ 講師 澤田唯人

「生と感情の社会学」をアートベース・リサーチという手法で受講者と一緒に作り出します。

たとえば社会学の基本の１つである社会調査、否応なく人と関わるこの学的な営みを、どこに位置づけ、その営みの中で自らをどこに位置づけていくのか、対象を客観化する知が、ただそれだけ評価されるような時代は過ぎ去り、いまや、知の生産と消費を担ってきた大学アカデミズムも現代社会に立ち位置を失いつつある。学問の死を謳うのはたやすい、しかしだからこそ、社会学という営みを再び肯定的に捉える視角が必要ではないのか。生の社会学とは、生を社会学的に説明する営みに還元されるようなものではなく、生きられる社会学であり、生きることを生きようとする、そんな試みだと考えてほしい。

生の多様性をめぐる議論があるとして、それを、いかに自分が生きるのかという問いに、どのように結びつけることができるのだろうか。この授業で参加者と一緒に僕たちが考えてみたいのは、これである。具体的にどうするのかといえば、僕らが教卓に座って講義することはまずない。全員が全員に向けて講義をする。受講者は他の受講者にとってのゲストスピーカーになり得るということである。生を生きるという資格においてひとりひとりの参加者がゲスト講師たりえるのである。チームに分かれてライフストーリーを互いに聞き、中からいくつかの生を他の受講者に伝える試みとなろう。

この伝える試みとして、アートを利用した社会学実践を行う。アートベース・リサーチと呼ばれ、多種多様なアートワークが利用されるが、ここでは身体的な演劇的な手法を用いる（パフォーマンス・エスノグラフィ）。さらに、詩や文学、映像や音楽なども利用する。自分が話を聞いて、その人の経験をなぞるという実験的で枢要な試みとなる。

〔第１回〕　授業全体の構想について、チーム編成
〔第２回〕　自分史のシェア
〔第３回〕　ライフストーリーとは、アートベース・リサーチとは
〔第４回〜第９回〕　チーム活動
〔第10回〕　リハーサル
〔第11回〜第12回〕　プレゼンテーション（北館ホールにて各チーム１回の公演となります）

授業に関する情報は下記のホームページで
http://lebenssoziologie.jimdo.com

◆テキスト

・岡原正幸・小倉康嗣他『感情を生きる』（慶應義塾大学出版会、2014年）
・岡原正幸『感情資本主義に生まれて』（慶應義塾大学出版会、2013年）

◆参考文献

・小倉康嗣『高齢化社会と日本人の生き方―岐路に立つ現代中年のライフストーリー』（慶應義塾大学出版会、2006年）
・岡原正幸他『生の技法〔第３版〕―家と施設を出て

暮らす障害者の社会学』(生活書院、2013年)
・岡原正幸『ホモ・アフェクトス』(世界思想社、1998年)

◆受講上の要望または受講上の前提条件

自分の生について語ることが求められるでしょう。また他者の生について傾聴し、一緒に考えることも求められるでしょう。事前に、自分史や家族史、自分が生きてきた中での特定の記憶や体験について、3000〜5000字程度でまとめておいてください。書式や用紙は自由です。この課題は授業初回に持参してください。それを土台に皆さんのスピーチを作成してもらいます。また言うまでもありませんが、受講者間でのやりとり、授業内でのやりとりが個人的なものに関わる以上、当事者の了承なくして外部に公開することは避けてください。

夏期スクーリングと今年度週末スクーリングの内容は基本的に同じです。受講者の数を抽選で夏期スクーリングは80名以下に絞ります。両方の授業を同一年度に履修することはできません。

◆成績評価方法

試験は行いません。出席によって評価します。チーム活動への影響が大きくなるような欠席回数は成績に大きく響きます。

科目 社会心理学特殊　2単位

担当 講師 呉 正培

この授業は、「ステレオタイプと異文化コミュニケーション」をテーマにする。まずステレオタイプの定義、社会心理学での捉え方、機能、ステレオタイプ化の問題点、ステレオタイプの形成・維持・変容のメカニズムについて検討する。次に、日韓の相手国民イメージに関する研究データをもとに日本人と韓国人の対人コミュニケーションにおいてどのようなステレオタイプ化が生じうるかを浮き彫りにする。最後に、ステレオタイプと異文化コミュニケーションとの関連性に注目し、真の異文化理解とはどのような状態を指すのか、どのような態度、能力、努力が求められるのかについて考えていく。

授業は、教員と受講者間のやり取り、受講者間のグループワーク（意見交換)、教員による解説の３つで進めていく。

〔第１回〕 授業のガイダンス、イントロダクション(ステレオタイプ)
〔第２回〕 イントロダクション（異文化理解)
〔第３回〕 ステレオタイプの定義とステレオタイプ化の問題点
〔第４回〕 ステレオタイプの形成と維持
〔第５回〕 ステレオタイプの変容とステレオタイプ化の抑制
〔第６回〕 ステレオタイプと外国人イメージ
〔第７回〕 韓国人の日本人イメージの実態と形成メカニズム
〔第８回〕 日本人の韓国人イメージの実態と形成メカニズム
〔第９回〕 日韓の接触場面で生じうるステレオタイプ化
〔第10回〕 異文化エクササイズ
〔第11回〕 異文化理解に求められる態度・能力・努力
〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・上瀬由美子『ステレオタイプの社会心理学』(サイエンス社、2002年)

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

毎回グループを少し変えながら他の受講者と意見交換を行うため、ディスカッションに積極的に参加できる方の受講が望ましい。

◆成績評価方法

出席20％、授業での取り組み（発言、参加度）20％、最終日の試験60％。

科目 文化人類学　2単位

担当 講師 宮下克也

授業は、大きく２つのセクション〈一般的理論〉〈観光と文化〉から構成されております。前半は、文化人類学の基本的な理論・学説の紹介。後半は地域活性化の一方策として注目されている観光について、人類学的なアプローチでその現象を分析することを目指します。

キーワード：「身体化」「無意識」「意識化」「相対化」「他者のまなざし」「分類」

〔第１回〕 文化と文化相対主義 ：文化人類学の成り立ちと基本理念を学ぶ
〔第２回〕 身体に刻まれる文化：文化が後天的なもの、そして無意識なものであることを事例で検討する。
〔第３回〕 分類の思考①：ジェンダー論「男／女であるのか」「男／女になるのか」
〔第４回〕 分類の思考②：人間の一生を分類する通過儀礼について
〔第５回〕 文化と経済活動：互酬性の諸相
〔第６回〕 他者表象：「他者をまなざす」こと「他者を描く」ことについて
〔第７回〕 観光と人類学①　沖縄の社会史
〔第８回〕 観光と人類学②　他者のまなざし。観光に必要なものは？
〔第９回〕 観光と人類学③　無意識から意識へ／南国オキナワイメージの創出から〈琉球化〉へ
〔第10回〕 観光と文化④　伝統文化とは何か？これまでの授業をふまえ現代における〈伝統〉文化のあり方を考える。
〔第11回〕 文化財保存とリノベーション（レスタウロ)：文化財活用の仕方を日本とヨーロッパで比較し、そこから文化財に対する価値観の差異を検討する。
〔第12回〕 総括
〔その他〕 授業後にリアクションペーパーを課す。

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・綾部恒雄／桑山敬己編『よくわかる文化人類学〔第

２版〕』（ミネルヴァ書房、2010年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

私たちは自分の育った社会の文化的価値観を無意識に身につけ、それを通して異文化を捉えています。本講義では、文化の多様性を見聞し、最終的に自文化において「常識＝当たり前」とされていることを相対化し再検討することを目指します。グローバリゼーションが進行し「異文化理解」の必要性が唱えられている現代社会だからこそ、「異文化を知り、自文化を相対化する」学問である文化人類学をぜひ学んで欲しいと考えます。

◆成績評価方法

最終日の試験による。またリアクションペーパーも参考にする。

科目 心理学（専門） 2単位

担当 文学部教授 伊澤栄一

実験心理学は“こころ”を行動として観測します。そこから垣間見える“こころ”は、私たちヒトに限られたものでしょうか。ヒト以外の動物にはどのような“こころ”が備わっているのでしょうか。

この問いに答えるために、この授業では“こころ”を生物学的な視点から捉えます。具体的には、ヒトを含む動物の“こころ＝行動”について、脳・生態・進化という異なる切り口から様々な知見を紹介し、それら相互の関連を考える講義を行います。

〔第１回〕【イントロダクション】
実験心理学における生物心理学の位置づけを紹介します。その上で、講義全体にかかわる「生物進化とは何か」について解説します。

〔第２回〕【脳の進化】
“こころ”をうみだす主要な器官である脳について、その構造と進化について解説します。

〔第３回〕【視覚】
動物が外界の事象をどのように見ているのかについて、様々な研究事例から得られた知見を解説します。

〔第４回〕【記憶】
記憶の種類とその脳機構について解説し、様々な動物の生態と結びついた興味深い記憶の事例について紹介します。

〔第５回〕【物理事象の認知】
動物は事象の物理的関係をどのように理解しているのか、経済的合理性の判断なども取り上げながら解説します。

〔第６回〕【コミュニケーション】
個体間の様々な信号送受の行動様式とその多様性を取り上げます。

〔第７回〕【性・繁殖と性淘汰】
性について、遺伝子・発達・行動という異なるレベルでの生物学的知識を整理し、オスとメスの異なる行動の進化について解説します。

〔第８回〕【種・個体・社会】
動物社会を構成する異なる階層の概念を生物学的に整理し、ヒトのような複雑な社会を支える心的機能について解説します。

〔第９回〕【協力と利他性】
他個体に利益を与える利他行動はどのような動物にみられ、はたしてどのように進化するのかについて解説します。

〔第10回〕【道具使用】
ヒト以外の動物にみられる道具を作り、使う行動を例示しながら、ヒトの進化における道具使用の影響について解説します。

〔第11回〕【ヒトの生物心理学】
第10回までの内容を踏まえながら、動物としてのヒトの生態を捉えなおすことで、ヒトのこころの生物学的特徴について解説します。

〔第12回〕【総括】
第11回までの内容を総括します。

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・藤田和生『比較認知科学』（放送大学教育振興会（NHK出版）、2017年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

受講に際して特に条件はありませんが、高校の生物科目の基礎的な知識があると理解がより深まります。もちろんそのような知識がなくとも理解できる講義を行います。

なお、本科目では、動物の行動研究を中心に講義を展開します。ヒトを対象とした内容は第10，11回のみであることをご承知いただいた上で受講ください。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 教育学概論 2単位

担当 講師 原 圭寛

本科目は、これまで教育学において考察の対象となってきた教育に関する原理的な問いについて、過去に教育及び教育学研究に携わった人々がどのように考えてきたのかについて学ぶ。これを通して、以下の３点を目的とする。

1）教育学に関する基礎的な知識を獲得する。
2）様々な教育問題に対し、過去の考察を参考にしながら、自身の意見を専門用語を用いながら論理的に説明することができるようになる。
3）教育問題に関する自身の意見に対する異論や反論について、教育に関する意見の多様性を考慮に入れながら、適切に対応できるようになる。

このために本講義では、教科書の記述の解説は最小限に留め、教科書に提示されている教育問題について、実際に受講者５-６名でグループを組んだうえでディスカッションをしてもらい、その意見をグループごとに発表してもらう。

また、２回ごとにコメントシートを配布し、質問や意見を受け付ける。ここで出た質問は、翌日の授業の冒頭で回答する。

〔第１回〕
・授業の概要の説明と、第６回までのディスカッションのグループ決めを行う。
・「学校は誰のためのものなのか？」と題し、国民の教育権と国家の教育権との対立を中心に議論を行う。教科書第２章。
〔第２回〕
・「学校で何を学ぶのか／学んでしまうのか？」と題し、カリキュラムの問題や学校の有する権威性、社会の学校化の問題について議論を行う。教科書第３章。
〔第３回〕
・「『子ども』とは何か？」と題し、社会の変化に伴う子ども観の変遷と、これに対応した教育の在り方について議論を行う。教科書第４章。
〔第４回〕
・「成熟するとはどのようなことなのか？」と題し、成熟，発達、生成といった教育学上の諸概念をどのように捉えるべきかについて議論を行う。教科書第５章。
〔第５回〕
・「『役に立たないこと』を学ぶ意義とは何か？（１）」と題し、時に「教養教育」などと訳される「リベラル・エデュケイション」の歴史及び大学の成り立ちについて学び、大学のあるべき姿について議論する。教科書第６章。
〔第６回〕
・「『役に立たないこと』を学ぶ意義とは何か？（２）」と題し、第５回に引き続き同内容を議論したうえで、知識の獲得と能力の育成の関係について議論する。教科書第６章。
〔第７回〕
・第11回までのディスカッションのグループ決めを行う。
・「子どもにどうやって教えるのか？」と題し、表象に基づく教育か経験に基づく教育か、という問題についての議論を行う。教科書第７章。
〔第８回〕
・「学校教育は子どもの生とどのようにかかわるか？」と題し、学校生活と学校外の生活とのあるべき関係性について議論を行う。教科書第８章。
〔第９回〕
・「子どもは何を学ぶのか？」と題し、日本における学習指導要領の変遷や産業化社会と学校の関わりについて議論を行う。教科書第９章。
〔第10回〕
・「なぜみんな学校へ行くのか？（１）」と題し，近代公教育制度の成立とその背景にある理念や思想の対立について議論を行う。教科書第１章。
〔第11回〕
・「なぜみんな学校へ行くのか？（２）」と題し、他律と自律の問題，理性の問題について議論を行う。教科書第１章。
〔第12回〕
・総括及び授業内試験を行う。

◆テキスト
・古屋恵太編著『教育の哲学･歴史』（学文社､2017年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
・授業中のPC・タブレット・スマートフォン等のデバイスの使用を許可する（試験時を除く）。
・授業に使用するスライドはWeb上（https://researchmap.jp/yoshi0507/資料公開/）で配布する。７月中旬ごろまでにアップロードする予定なので、必要に応じて自身で印刷するか、自身のデバイスにダウンロードしておくこと。大学設置のPCやWi-Fiの利用を希望する場合、塾内ネットワークアカウントを事前に取得する必要があるので、注意すること。
・小グループでのディスカッションとその発表を中心とした授業となるため、こうした活動に参加する意向の無い者は受講しないこと。ディスカッションに積極的に参加していない場合、授業担当者が受講の取り止めを求める場合がある。
・ディスカッションを効率的に進めるために、教科書を事前に読み込んでおくこと。
・試験は紙媒体の物（書籍、ノート、その他印刷物等）のみ持込可とする。

◆成績評価方法
・第12回の授業内試験：100%
・コメントシートにおける質問や意見の内容に応じ，適宜試験に加点する。

科目 図書館・情報学　2単位

担当 文学部教授 根本 彰

図書館情報学において「情報リテラシー」は､メディア・コンテンツへのアクセス能力を指す言葉で、テクノロジーの発達に応じてその習得・活用・提供技術の更新が求められる、生きたテーマである。

情報が氾濫する社会を生きる私たちにとって、第一次資料の保存庫であり、公共の情報サービス機関である図書館は、信頼の置ける、身近な情報拠点だ。これからの図書館は、図書の貸出し、検索技術の提供にとどまらず、利用者の情報リテラシーを導くといった教育的な役割も自覚的に担ってゆく必要がある。

そして今日、学校での情報リテラシー教育も喫緊の課題となっている。日本の教育現場において、情報リテラシー教育の重要性は意識されてきたが、それはコンピューターなどの情報通信技術を使いこなす技能という認識にとどまってきた｡だが､真の情報リテラシーとは、情報を探索し、評価し、それにより自分の問題を解決できる能力、さらにはその力をもって批判的思考を展開できることをいう。本書では、日本の教育制度と図書館の社会史をふりかえることで課題を浮き彫りにし、今後どのような改革をなすべきか、欧米の学校の動向と比較しつつ方向を示す。

レスポンスペーパーを用いることで、参加者の経験や日常的な情報探索行動を相互に共有しながら、協同的な学習空間を構築することを目標にする。

また、三田メディアセンターおよびそこが提供する情報資源を、論文やレポート執筆のための情報リテラシースキル獲得の場となるようなレクチャーをあわせて行う。

〔第１回〕　日本の教育問題を異なった角度から考察する
〔第２回〕　情報リテラシーとは何か

〔第３回〕　情報リテラシーを身につけよう
〔第４回〕　リテラシーと情報リテラシー
〔第５回〕　情報リテラシー教育の目標
〔第６回〕　江戸時代は学びがあふれていた
〔第７回〕　明治政府は「知」を制限した
〔第８回〕　図書館がようやく追いついてきた
〔第９回〕　司書は専門職になれなかった
〔第10回〕　大学入試改革の課題と探究型の学び
〔第11回〕　情報リテラシーをもう一度考える
〔第12回〕　レポート講評および総括
〔その他〕　課題・レポート

◆テキスト

・根本彰『情報リテラシーのための図書館：日本の教育制度と図書館の改革』（みすず書房、2017年）

◆参考文献

・マングェル, アルベルト『図書館―愛書家の楽園〔新装版〕』（白水社、2018年）
・市古みどり編著『資料検索入門：レポート・論文を書くために』（慶應義塾大学出版会、2014年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

図書館情報学の基本的な考え方を学ぶことは、日本の教育問題に対してこれまでにない切り口でせまり、新たな知の世界に踏み込むことである。こうした見方を経験し、それを今後の学びに活かそうという意欲をもった受講生に参加していただきたい。

◆成績評価方法

毎回、レスポンスペーパーを書くこと、また、情報リテラシーを各自実践し、それをベースにしたレポートを書くことの２点を基にして評価を行う。

第２類に属する科目

科目 日本史概説　２単位

担当　講師 村 和明

日本近世史について概説する。一応全体を扱うが、特に新しい研究動向がある問題に重点を置く。

〔第１回〕　イントロダクション
〔第２回〕　統一政権と近世化
〔第３回〕　幕府と大名の関係
〔第４回〕　幕府と朝廷の関係
〔第５回〕　対外関係・琉球・蝦夷地
〔第６回〕　商業・流通・金融の展開
〔第７回〕　宗教・学術・文化の展開
〔第８回〕　寛政改革の意義
〔第９回〕　大御所時代と天保改革
〔第10回〕　開国と世界
〔第11回〕　幕末維新の動乱
〔第12回〕　試験・総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

高校の日本史教科書の近世部分について読了し、基礎的な語彙や流れについては一通り理解していることが望ましい。（すべて暗記している必要はない）

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 東洋史概説　２単位

担当　文学部准教授 勝沼 聡

この講義では、19世紀から20世紀にいたる中東の近現代史を彩った著名な人物をとりあげます。現在の中東に直接つながる時代を生きた彼／彼女たちの軌跡を詳しく知ることにより、その重要性にもかかわらず未だ馴染みの薄い近現代中東社会に関する知識を深めることを目的とします。

なお、とりあげるのは基本的に担当者の専門であるエジプト出身の人物が中心となるほか、とりあげる人物が変更になる場合があります。

〔第１回〕　中東近現代史概観
〔第２回〕　近代化の担い手：ムハンマド・アリー
〔第３回〕　抵抗運動の担い手：ムハンマド・アフマド
〔第４回〕　近代化の申し子たち①：リファーア・アル＝タフターウィー
〔第５回〕　近代化の申し子たち②：ムハンマド・アブドゥフ
〔第６回〕　近代化の申し子たち③：アフマド・オラービー
〔第７回〕　近代化の申し子たち④：ホダ・シャアラーウィー
〔第８回〕　新たなエリートの台頭①：ハサン・アル＝バンナー
〔第９回〕　新たなエリートの台頭②：ナセル
〔第10回〕　新たなエリートの台頭③：ヤーセル・アラファート
〔第11回〕　新たなエリートの台頭④：ドゥッリーヤ・シャフィーク
〔第12回〕　総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・臼杵陽『「中東」の世界史』（作品社、2018年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

中東史のみならず、近現代史全般に関心を持つ人の受講を歓迎します。中東・イスラーム史に関する基本的事項についてもできる限り解説を加えるよう努めますので、前提となる知識は特にありません。

◆成績評価方法

出席状況と最終日の試験により評価します。

科目 西洋史概説　2単位

担当 文学部教授 神崎忠昭

現代の私たちの生活はさまざまに西欧文明の影響を受けています。だが、必ずしもその大きさや意味を理解していません。本講義では４世紀頃から近現代までにかけてのヨーロッパの歴史を、修道院を中心に概観し、その政治や社会、文化に対する影響を考えることを目的とします。

〔第１回〕 イントロダクション
〔第２回〕 ローマ帝国の混乱：トゥールのマルティヌスとヌルシアのベネディクトゥス
〔第３回〕 民族の移動：アイルランドの修道士たち
〔第４回〕 カロリング朝
〔第５回〕 封建制：クリュニー修道院
〔第６回〕 新しい動き：シトー会と修道参事会
〔第７回〕 戦士たち：騎士修道会
〔第８回〕 都市：托鉢修道会
〔第９回〕 一般信徒：兄弟会
〔第10回〕 反宗教改革：イエズス会
〔第11回〕 近現代の修道院
〔第12回〕 総括

◆テキスト

・神崎忠昭『西洋史概説Ⅰ』（通信テキスト、2015年、文学部Ⅱ年度配本）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

総合教育科目「歴史（西洋史）」を履修していることが好ましい。

◆成績評価方法

最終日に試験を行い、それによって評価します。出欠は取りません。

科目 考古学　●単位

担当 講師 石神裕之

「考古学は、補助学といった貧相なものではなく、歴史学の源泉ともいうべきものである」。『考古学とは何か』（近藤義郎・木村祀子訳、岩波新書、1969年）の中で、イギリスの考古学者V. G. チャイルド（1892～1957）はこう述べています。一般に考古学のイメージとは、古くて、珍しい遺物を発掘することが目的であるように思われがちです。しかし、そうした宝探し的な考古学のイメージとは異なり、現実の考古学は地域に密着した地道な歴史探求の学問であるといえます。本講義では、縄文や弥生といった先史考古学はもとより、中近世や近現代といった歴史考古学的事例を含めて、モノ（物質文化）を扱う学問としての考古学の具体的方法とその歴史学的な意義について、最近の発掘成果も踏まえつつお話していきたいと思います。

〔第１回〕 考古学とは何か
〔第２回〕 考古学の発達と多様化
〔第３回〕 考古学の方法①型式と時間
〔第４回〕 考古学の方法②考古的文化とは
〔第５回〕 考古学の調査方法①発掘調査
〔第６回〕 考古学の調査方法②整理調査と遺物の分析
〔第７回〕 考古学と関連分野①自然科学（保存科学）
〔第８回〕 考古学と関連分野②自然科学（年代測定）
〔第９回〕 考古学と関連分野③形質人類学
〔第10回〕 考古学と関連分野④民族（俗）学・文化人類学
〔第11回〕 考古学と現代社会―文化財の保護と活用―
〔第12回〕 総括・試験と講評

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・鈴木公雄『考古学入門』（東京大学出版会、1988年、市販書採用科目「考古学」指定テキスト、文学部Ⅳ年度①配本）
・鈴木公雄『考古学はどんな学問か』（東京大学出版会、2005年）
・石神裕之『47都道府県　遺跡百科』（丸善出版、2018年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

特になし。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

第３類に属する科目

科目 国語学　2単位

担当 文学部教授 屋名池 誠

〔授業の概要〕

われわれは「日本語使いの日本語知らず」で、使いこなしており多大な興味をもっているにもかかわらず、日本語についてはほとんど何も知らないといってよい状況です。日本語を客観的に研究する学問が国語学（日本語学）です。

しかし、スクーリングの時間は限られているので、国語学（日本語学）の全分野をあつかうとごく表面的な概説しかできません。そこで今期は、敬語と音声・音韻という二つの重要分野に焦点をしぼり、深く精密な理解をめざします。

高校までに学んできた「学校文法」は現在の学問水準から見ると問題点が多いのですが、特に話しことば・書きことばを問わず実際生活で問題になるのは敬語の問題です。これを新しい研究成果をもとに学び直します。

それでも文法はまがりなりにも勉強する機会があるのに対し、音声・音韻は言語研究の基礎となる分野ですが、高校までには学ぶ機会がありません。といって、音声・音韻は実際に発音を聞いてみたり発音したりが重要で自学自習は難しいので、スクーリングのような対面授業は音声・音韻について学ぶ絶好の機会といえます。

授業は受講生との協同によって成り立つものですか

ら、以下の予定は受講生諸君の理解度を見ながら随時変更してゆくことに留意してください。
〔第１回〕 母語を学ぶ意義、言語の諸機能
〔第２回〕 言語コミュニケーションの基本構造、なぜ音声を媒体とするか
〔第３回〕 音声学の基本前提、音声器官
〔第４回〕 音声記号、母音と子音
〔第５回〕 母音の分類、子音の分類
〔第６回〕 子音の分類（続き）、音節・モーラ
〔第７回〕 日本語の音声
〔第８回〕 音韻論初歩・日本語のアクセント
〔第９回〕 敬語（待遇表現）とは、敬語の分類、内容敬語
〔第10回〕 現場敬語
〔第11回〕 第三の敬語
〔第12回〕 総括

◆テキスト
プリントを適宜配布する。

◆参考文献
・斎藤純男『日本語音声学入門』（三省堂、1997年）
・『朝倉日本語講座３　音声・音韻』（朝倉書店、2003年）
・『講座日本語と日本語教育２　日本語の音声・音韻』（明治書院、1989年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件
基礎知識は特に必要としないが、積み重ねを必要とする授業なので、毎回必ず出席のこと。

◆成績評価方法
最終日の試験による。

科目 国文学史　２単位

担当 文学部教授 小川剛生

鎌倉時代に始まり戦国時代にいたる、中世和歌史を講義する。中世和歌の特色はいくつかあるが、新たな統治者となった武家が和歌を好んだことの影響を見逃すことはできない。作歌層の拡大、地方歌壇の形成は、それ自体が中世文化の特色である。作品は一見個性に乏しいものの、和歌というレトリックの器に盛り込まれた思想は、中世文学のさまざまな問題を照らし出す。こうした視点に立ち中央・地方の権力とともに展開した中世和歌の様相を探りたい。具体的には各時代・地域を代表する歌人を取り上げ、その事蹟と作品を考察する。
〔第１回〕 イントロダクション―古典和歌について
〔第２回〕 武士とは何か―武家政権の国政上の位置
〔第３回〕 源実朝
〔第４回〕 勅撰和歌集と歌道家
〔第５回〕 宗尊親王
〔第６回〕 地方歌壇の起こり
〔第７回〕 足利尊氏と薬師寺元可
〔第８回〕 今川了俊
〔第９回〕 太田道灌
〔第10回〕 戦国大名と文藝
〔第11回〕 今川義元
〔第12回〕 全体のまとめ

◆テキスト
・小川剛生『武士はなぜ歌を詠むか　鎌倉将軍から戦国大名まで〔角川選書〕』（KADOKAWA、2016年）（市販書採用科目「国語国文学古典研究Ｖ」指定テキスト、Ⅲ年度①配本）

◆参考文献
教室で紹介します

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
中世文学・和歌文学のほかに、広く中世史・中世文化に強い関心と一定の知識のある学生の履修が望ましい。

◆成績評価方法
出席状況と最終日の試験による。

科目 書道　２単位

担当 講師 緑川明憲

わが国の書の発達と変遷について、特に、鎌倉時代から江戸時代までに焦点を当てて学びます。
書道史といえば、どうしても平安時代に意識が行きがちです。確かに、この時代に非常に優れた書が多いのは事実ですが、この後も、それぞれの時代ごとの政治や文化の影響を濃厚に受けつつ、わが国の書は非常に広く、そして魅力的に展開していきました。そこで本講義では、中世と近世の書を実際に提示しながら、なぜそのような書を書くのか（どうしてそうした書きぶりになるのか）という問題を、多角的に、そして丁寧に考えていきます。
なお、理論ばかりでなく、体験を通じた理解をも深めるべく、２回の書道実技を行う予定です。書道道具は必ず各自でご用意下さい（貸し出しは一切致しません）。
〔第１回〕 概説と書道史の時代区分について
〔第２回〕 中近世の書を理解するために①【藤原・平源時代の漢字の書】
〔第３回〕 中近世の書を理解するために②【藤原・平源時代の仮名の書】
〔第４回〕 鎌倉時代（漢字）
〔第５回〕 鎌倉時代（仮名）
〔第６回〕 実習【その一】
〔第７回〕 室町時代
〔第８回〕 桃山時代
〔第９回〕 江戸時代（漢字）
〔第10回〕 実習【その二】
〔第11回〕 江戸時代（仮名）
〔第12回〕 試験・総括

◆参考文献
・春名好重『日本書道史』（淡交社、1974年）
・春名好重『能書百話』（淡交社、1986年）

◆成績評価方法
出席状況、提出作品、及び最終日の試験に基づいて総合的に判断する。

科目 漢文学　2単位

担当 講師 宮下聖俊

漢文学の精華である中国古典詩（いわゆる漢詩）を講読する。当然、中国古典詩に関する種々の知識とともに、詩人達それぞれの世界観を形作るもととなった思想についても、あわせて概説していく。

〔第１回〕 はじめに 『詩経』と「興」
〔第２回〕「言志」と「縁情」
〔第３回〕 儒家思想と詩（１）
〔第４回〕 儒家思想と詩（２）
〔第５回〕 詩を作ってみる（１）概説
〔第６回〕 詩を作ってみる（２）実作
〔第７回〕 老荘思想と詩（１）
〔第８回〕 老荘思想と詩（２）
〔第９回〕「典故」や種々の技法（１）
〔第10回〕「典故」や種々の技法（２）
〔第11回〕「典故」や種々の技法（３）
〔第12回（最終回)〕 総括

◆テキスト
プリントを適宜配布する。

◆参考文献
授業中に適宜紹介する。

◆学生に対する受講上の要望、または受講上の前提条件
漢文や現代中国語の学習歴の有無は問わない。

◆成績評価方法
1）全12回の内、三分の二以上の出席を成績評価の前提条件とする。
2）最終日の試験による。

科目 英語学　2単位

担当 文学部教授 堀田隆一

〔授業の到達目標及びテーマ〕
英語学概論の授業を通じて、英語を言語学的に学ぶ基礎的な知識、視点、技術を習得することを目指す。

〔授業の概要〕
指定テキストに従い、適宜スライドを用いながら、英語学概論を講義する。具体的には、言語学の基礎に始まり、英語に関わる音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論・語彙論・書記法を学び、英語史を概説した後、社会言語学や認知言語学といった近年の英語学の動向も導入する。

〔第１回〕 言語学と英語学
〔第２回〕 英語音声学
〔第３回〕 英語音韻論
〔第４回〕 英語形態論
〔第５回〕 英語統語論
〔第６回〕 英語意味論
〔第７回〕 英語語用論
〔第８回〕 英語語彙論
〔第９回〕 英語の書記法
〔第10回〕 英語史
〔第11回〕 近年の新しい英語学
〔第12回〕 試験・講評
〔その他〕 kcc-channel等で通知する事前課題を行った上で出席すること

◆テキスト
・David Crystal『How Language Works』(Avery、2007年）ISBN-9781583332917

◆参考文献
・井上逸兵『英語学概論』（通信テキスト、2015年、文学部Ⅲ年度①配本）

◆成績評価方法
事前課題と試験の成績を総合的に評価する。

科目 日米比較文化論　2単位

担当 文学部教授 宇沢美子

授業の到達目標及びテーマ：明治以降の日米間で培われた文化・文学上の交渉をあとづける。日本文化・文学への憧憬、参照、転移、敵対、影響関係を孕む英米文学・文化を、具体的作品解釈を通じて考察する。

授業の概要：日米の文化・文学交流史を考える

〔第１回〕 日本開国、ペリー提督の日本遠征について考察する
〔第２回〕 英国のオペレッタ『ミカド』と『ゲイシャ』からみる幻想の日本像を探る
〔第３回〕 川上音二郎、貞奴のアメリカ舞台とその受容のされ方についてふりかえる
〔第４回〕 ジャポニズム文学―日本の民話の英語翻訳（チェンバレン、ハーン、ワタンナ、巌谷小波の仕事）を検討する
〔第５回〕 アメリカに活躍した日本人作家たち（ヨネ野口、前田河広一郎、金子喜一、翁久允）の作品を読む
〔第６回〕 笑と越境、ウォラス・アーウィンのハシムラ東郷コラムと谷譲次のめりけん・じゃっぷ小説の比較検討
〔第７回〕『蝶々夫人』変化を追う―小説、舞台、オペラ
〔第８回〕 ベンリモ作『黄色い上着』における舞台幻想化された「中国」を読む
〔第９回〕 漫画戦争　第二次大戦時の「容赦なき戦い」ハリウッドvs桃太郎映画を検討する
〔第10回〕 岡倉覚三とボストン美術館―「日本庭園」の法隆寺表象の意味を模索する
〔第11回〕 日本美術の発明―フェノロサ、岡倉の仕事を考察する
〔第12回〕 試験と総括
〔その他〕 kcc-channel等で通知する事前課題を行った上で出席すること。

◆テキスト
指定しない。

◆参考文献
・宇沢美子『ハシムラ東郷―イエローフェイスのアメリカ異人伝』（東京大学出版会、2008年）

◆成績評価方法
事前課題および論述試験による総合評価。

科目 イギリス文学　2単位

担当 文学部教授 松田隆美

イギリス文学最初の古典とされるジェフリー・チョーサー（1340年頃〜1400年）『カンタベリー物語』はロマンス、笑話、聖人伝、寓話など、実に様々なジャンルの話で構成された物語集です。その多様な物語世界について、中世イギリスの文学史、書物文化史、美術史、宗教史などの視点から考察して、ヨーロッパ中世文学の世界観、チョーサーの文学観について考えます。

〔第１回〕 イントロダクション
〔第２回〕 ジェフリー・チョーサーと14世紀のヨーロッパ文学
〔第３回〕『カンタベリー物語』の写本と言語
〔第４回〕『カンタベリー物語』の構造と「総序の歌」
〔第５回〕 中世と古代－「騎士の話」
〔第６回〕 さまざまな笑い－「粉屋の話」、「荘園領管理人の話」、「貿易商人の話」
〔第７回〕 賢い女性と男たち－「バースの女房の話」、「学僧の話」、「メリベウスの話」
〔第８回〕 奇蹟と驚異－中世におけるファンタジー－「騎士の従者の話」、「郷士の話」
〔第９回〕 悲劇をめぐる必然と偶然－「女子修道院長の話」、「第二の修道女の話」、「弁護士の話」
〔第10回〕 チョーサーの作者観と自己表象
〔第11回〕『カンタベリー物語』と終わりの感覚
〔第12回〕 試験および講評

◆テキスト

・松田隆美『チョーサー　カンタベリー物語：ジャンルをめぐる冒険』（慶應義塾大学出版会、2019年）
・チョーサー（桝井迪夫訳）『完訳　カンタベリー物語（上・中・下）』（岩波文庫、1995年）

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 ドイツ語学文学　2単位

担当 文学部教授 田中 愼

「ドイツ語が拓く世界」というテーマで，ドイツ語を中心にドイツ語の文法，ドイツ語圏の文化について学んでいきます。特に次の３つの重点を設けます。

・ドイツ語の初歩の文法に見られるさまざまな「不可思議な規則」をその役割を他の言語（英語，日本語）などと比較して学ぶ。これにより英語の「不可思議な規則」についても理解を深めていきます。
・ドイツ語圏社会について，特に「ベルリンの壁」，「東西ドイツの統一」について，言語とその社会を通して学んでいきます。
・ドイツ語圏社会について，日本との関係を特に外来語を中心に学んでいきます。

〔第１回〕 イントロダクション
ドイツ語の話される社会，ヨーロッパの中のドイツ語
〔第２回〕 ドイツ語の発音：正書法と発音
〔第３回〕 ドイツ語の人称変化：人称変化の意味と日本語
〔第４回〕 ドイツ語の文法：ドイツ語の性とその役割
〔第５回〕 ドイツ語の冠詞１：ベルリンの壁について１
〔第６回〕 ドイツ語の冠詞２：ドイツ再統一
〔第７回〕 ドイツ語の冠詞３：統一の後
〔第８回〕 外国人問題
〔第９回〕 外来語の話：日本とドイツ
〔第10回〕 ドイツ語の語順１：主文と副文
〔第11回〕 ドイツ語の語順２：話法の助動詞
〔第12回（最終回）〕 総括
〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆学生に対する受講上の要望、または受講上の前提条件

ドイツ語の知識は前提としません。積極的な授業への参加が必要となります。

◆成績評価方法

平常点（授業における発言等）、最終日に授業内で書くレポート。

科目 ドイツ文学史　2単位

担当 文学部教授 識名章喜

本講義では中世の『ニーベルンゲンの歌』に始まり、16〜17世紀の民衆本の世界を経て、18世紀後半から19世紀前半の、〈ゲーテ時代〉と呼ばれるドイツ文学が最も輝いた時期にフォーカスを当ててゆく。19世紀後半、ドイツが統一国家となって以降は、創造的な文学活動の舞台が、ウィーン（もしくはオーストリア）へと移行してゆく過程も考察の対象とする。

二つの世界大戦を経験する20世紀は、カフカやトーマス・マン、ヘッセが注目を集めるが、それ以外の重要な詩人・作家を紹介しながら、ナチ時代が、国民文学の伝統をゆがめた諸相を明らかにする。

戦後文学は政治体制の異なる東西両ドイツでゼロからの出発を余儀なくされたが、その文学的成果が21世紀の現代文学にどのように接続してゆくのかも概説する。

教科書的な文学史の知識も与えるが、本講義では文学史記述の新しい試みにならい、各時代の文学上のトピックや事件に焦点をあて、社会史的・文化史的背景の説明にも時間を割く。

〔第１回〕 文献案内、受容の美学と文学史記述の問題：近代に発見された〈中世〉；タキトゥスの『ゲルマニア』、ドイツの平家物語『ニーベルンゲンの歌』、壮大なスケールの騎士物語、ヴォルフラム・フォン・エッシェンバッハの『パルツィヴァール』
〔第２回〕 グーテンベルクの印刷術とルター訳聖書；民衆本の世界；30年戦争とグリンメルスハウゼンの『阿呆物語』
〔第３回〕 啓蒙主義時代の読書熱；盗賊と秘密結社の小説；書く人と読む人の増加
〔第４回〕 ゲーテ時代の到来（ゲーテの青年期〜壮年期）；シラー、ジャン・パウル
〔第５回〕 ゲーテ時代の終焉（ゲーテの壮年期〜晩

年)；シュレーゲル兄弟、クライスト
〔第６回〕 ドイツ･ロマン派と対ナポレオン解放戦争；国民としての覚醒と学生結社の運動
〔第７回〕 ビーダーマイアー（小市民的安逸）の文学と政治の季節；検閲と文学；ドイツ音楽の覇権
〔第８回〕 批判的文学：ハイネとニーチェ；リアリズムの文学；シュトルム、フォンターネ
〔第９回〕 ウィーン世紀末と文学として読むフロイト；シュニツラー、ホーフマンスタール
〔第10回〕 1913年と戦間期の文学；表現主義；ダダイズム；カフカ、マン、ヘッセ
〔第11回〕 ナチ時代の〈過去の克服〉と戦後文学；パウル・ツェラン、ギュンター・グラス；東ドイツの文学
〔第12回〕 総括：21世紀のドイツ文学はどこへ？ドイツ文学と日本文学、どっちが面白い？あるいは多和田葉子？
〔その他〕 授業終了５分くらいで、授業に関する質問事項、疑問点などを簡単にまとめてもらう。

◆テキスト
プリントを適宜配布する。

◆参考文献
・手塚富雄・神品芳夫『増補　ドイツ文学案内』（岩波書店、1993年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
ドイツ語の知識はあるにはこしたことなないが、ドイツ語の学習経験の有無は問わない。あつかうテクストは規訳の作品とする。なにより翻訳のある作品をたくさん読んでほしい。絶版になった本も今ではネットで簡単に手に入るので、図書館をあてにするだけでなく、自腹で本を買う、本代をケチらない読者家大歓迎。

◆成績評価方法
毎回提出してもらう質問票と最終日の試験による。

科目 フランス文学　2単位

担当 文学部教授 市川 崇

〔授業の概要〕
フランス現代文学・思想においては、1990年代以降「愛」のテーマが回帰する。「欲望」と「権力」の理論を基礎としたポスト構造主義的な知の布置が、他者についての思考の重要性が再評価されることで変容し、倫理的転回が起きたと言うべきだろうか。また、民族紛争や領土問題が再燃する冷戦終結以後の世界に、イデオロギーに依拠しないどのような共同体の可能性が残されるのかという問いも同時期に発せられるようになった。この授業では、愛のテーマを扱うフランス文学の作品を取り上げ、また、これらを参照しながら展開される愛と共同体についての哲学的思想を紹介しながら、現代において愛と共同体にどのような関係が見出されるのかを考えてみたい。
〔第１回〕 イントロダクション 「フランス現代思想・文学における愛と共同体」
なぜ今、愛が問われるのか？
〔第２回〕 プラトンにおける愛と共同体 『饗宴』、『国家』
〔第３回〕 アベ・プレヴォー 『マノン・レスコー』
〔第４回〕 ルソーにおける愛と共同体 『新エロイーズ』、『社会契約論』
〔第５回〕 シャルル・フーリエにおける愛と共同体
〔第６回〕 エミール・ゾラにおける愛と共同体 『四福音書』
〔第７回〕 ジョルジュ・バタイユにおける愛と共同体（１）『ファシズムの心理構造』
〔第８回〕 ジョルジュ・バタイユにおける愛と共同体(2) 『空の青』
〔第９回〕 マルグリット･デュラス 『死の病』、『愛人』
〔第10回〕 モーリス・ブランショ 『明かしえぬ共同体』
〔第11回〕 ジャン＝リュック・ナンシー 『砕け散った愛』、『否認された共同体』
〔第12回〕 試験、総括

◆テキスト
プリントを適宜配布します。

◆参考文献
・アラン・バディウ『愛の世紀』市川崇訳、水声社、2012年
・ジャン＝リュック・ナンシー『恋愛について』メランベルジェ眞紀訳、新評論、2009年
・――『無為の共同体』西谷修・安原伸一朗訳、以文社、2001年
・プラトン『国家』藤沢令夫訳、岩波書店、1979年
・プレヴォ『マノン・レスコー』野崎歓訳、光文社、2017年
・ジャン＝ジャック・ルソー『新エロイーズ』松本勤訳、白水社、1979年
・ジョルジュ・バタイユ『空の青』伊藤守男訳、二見書房、1971年
・モーリス・ブランショ『明かしえぬ共同体』西谷修訳、筑摩書房、1997年

◆受講上の要望または受講上の前提条件
特になし。

◆成績評価方法
最終日の試験による。

科目 イタリア文学　2単位

担当 文学部教授 藤谷 道夫

ダンテ『神曲』地獄篇と煉獄篇を解説していきます。と言っても、地獄篇と煉獄篇で64歌章あり、全部を扱うことはできませんので、サンプルとして幾つかの歌章を取りあげ、詳細に解説することで、『神曲』がどのような作品かを理解して頂こうと思っています。
〔第１回〕 ダンテの歴史観・神学観
『神曲』を読むための基礎知識（文脈）を解説します。『神曲』は人類が作り出した最も複雑で有機的なテキストです。『神曲』というエヴェレストに登るには、軽装で高尾山を登るようにはいきません。高尾山（現代文学）は一般人が何の装備もなく、ガイドなしに登れますが、究極の高みであるエヴェレストには訓練と装備なしには登ることはできません。文学にも同じことが言えます。『神曲』はあまりに高すぎて、一般の読者がガイドと装備もなしには理解できない作品です。

文学通の許された少数者しか受け付けないのです。『神曲』は富士山のように独り、聳え立つ山ではなく、ヒマラヤ山脈という西洋文学の伝統の上に屹立しています。そのため、ヒマラヤ山脈がどのようなものか、何の土台の上に立っているのかを把握しておく必要があります。『神曲』登攀に必要とされる装備を４つの視点（文学、歴史、哲学、神学）から取り扱います。ラテン文学を中心とする西洋古典文学、アリストテレースを中心とする哲学、トマス・アクイナスを中心とする神学、ダンテ独自のキリスト教的歴史観（神的摂理観）を解説していく予定です。

〔第２回〕 第１回の講義を受けて、地獄篇第１歌の冒頭の一行だけを扱います。

〔第３回〕 第２回の講義を受けて、第１歌の残りを読んで解説していきます。

〔第４回〕 第３回の講義の続きです。第１歌を最後まで読んで、できれば地獄篇第２歌を解説します。

〔第５回〕 地獄篇第２歌と煉獄篇第30歌を併せて読むことで、『神曲』の旅の契機と意味を解説していきます。すなわち、なぜダンテが地獄下りをしなければならなかったのか、解説します。

〔第６回〕 地獄篇第１歌と煉獄篇第30歌を併せて読むことで、ウェルギリウスの役目とその素晴らしいレトリックを解説していきます。

〔第７回〕 『神曲』の数的構成を時間のある限り、解説していきます。どのような本にも書かれていない『神曲』の秘密の仕掛けを明かします。

〔第８回〕 地獄篇第27歌を取り上げて、典型的な下層地獄の人物を取り上げ、悪についてのダンテの考え方を解説していきます。

〔第９回〕 煉獄とは何かについて解説していきます。『神曲』で史上初めて煉獄の位置と形と意味が確かなものとして登場します。そのため、日本では煉獄がこれまで正しく理解されたことは一度もありませんでした。煉獄とは何かを煉獄篇第１歌～第３歌を通して解説していきます。

〔第10回〕 煉獄篇第５歌～第７歌を通して煉獄の本質を解説していきます。

〔第11回〕 煉獄篇第15歌までを解説していきます。第１環道（高慢の罪を浄める）、第２環道（嫉妬の罪を浄める）の意味を説明します。

〔第12回〕 煉獄篇の残りを解説して、最後に「地上楽園」という地上に投影された天国の影とでも言うべき不思議な領域を解説して終わりとします。

〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト

・須賀敦子・藤谷道夫『神曲　地獄篇　第１歌～第17歌』（河出書房新社、2018年）

・藤谷道夫『ダンテ『神曲』における数的構成（慶應義塾大学教養研究センター選書15）』（慶應義塾大学出版会、2016年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

文学に興味のある方は勿論、理系の方も大歓迎です。『神曲』は全知識を網羅した百科全書でもあり、好奇心旺盛の方にとってこれほど知識欲を満たし、かき立ててくれるテキストは他にありません。教科書は自習用です。授業では教科書に書ききれなかった新情報を盛りだくさんに解説していきます。授業では毎回大量のプリント配布します。（対訳も含みます。対訳を使って説明していきますので、イタリア語をご存じなくても受講に差し支えることはありません。）

◆成績評価方法

出席とレポート

科目 英会話　1単位

担当 講師 ヤング，ジェローム

教職課程専門教育科目「英会話」（139頁）を参照してください。

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、文学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

【第１類に属する科目】

科目 哲学特殊　2単位

担当 経済学部教授 穂刈　享

経済学部専門教育科目「ゲーム理論」（108頁）を参照してください。

科目 社会学特殊　2単位

担当 講師 齋藤香里

経済学部専門教育科目「社会政策」（110頁）を参照してください。

科目 **社会学特殊** 2単位

担当 講師 永井攻治

経済学部専門教育科目「社会福祉論」（110頁）を参照してください。

科目 **法学概論** 2単位

担当 講師 三田奈穂

経済学部専門教育科目「法学概論」（116頁）を参照してください。

科目 **マス・コミュニケーション論** 2単位

担当 法学部教授 大石 裕
メディア・コミュニケーション研究所准教授 山腰修三

法学部専門教育科目「マス・コミュニケーション論」（125頁）を参照してください。

科目 **哲学特殊** 2単位

担当 法学部教授 堤林 剣

法学部専門教育科目「政治思想論」（125頁）を参照してください。

科目 **社会学特殊** 2単位

担当 法学部教授 田所昌幸

法学部専門教育科目「国際政治論」（125頁）を参照してください。

科目 **社会学特殊** 2単位

担当 法学部教授 澤井 敦

法学部専門教育科目「社会学特殊」（124頁）を参照してください。

科目 **社会学特殊** 2単位

担当 講師 小田義幸

法学部専門教育科目「日本政治論」（127頁）を参照してください。

【第2類に属する科目】

科目 **日本史特殊** 2単位

担当 講師 ドルネッティ，フィリッポ

経済学部専門教育科目「経済史」（109頁）を参照してください。

科目 **日本史特殊** 2単位

担当 講師 青木　健

経済学部専門教育科目「日本経済史」（109頁）を参照してください。

科目 **日本史特殊** 2単位

担当 講師 原　禎嗣

法学部専門教育科目「法制史」（123頁）を参照してください。

科目 **日本史特殊** 2単位

担当 講師 兒玉圭司

法学部専門教育科目「法制史特殊」（124頁）を参照してください。

科目 **日本史特殊** 2単位

担当 法学部教授 玉井　清

法学部専門教育科目「日本政治史」（127頁）を参照してください。

3 経済学部専門教育科目

科目 経済原論（マクロ経済学） 2単位

担当 講師 西 孝

マクロ経済学の入門講義である。
経済の全体的な動きに関する諸関係から、IS-LMモデルを通じて、好・不況のメカニズムおよび政府による財政・金融政策の効果について学ぶ。
また、それを開放経済に応用したマンデル＝フレミング・モデルを取り上げる。

〔第１回〕 国民経済計算
〔第２回〕 集計量間の諸関係
〔第３回〕 財・サーヴィス市場
〔第４回〕 IS曲線の導出とその諸性質
〔第５回〕 貨幣市場
〔第６回〕 LM曲線の導出とその諸性質
〔第７回〕 IS-LMモデルと財政・金融政策
〔第８回〕 為替レート
〔第９回〕 マンデル＝フレミング・モデル
〔第10回〕 変動相場制下の財政・金融政策
〔第11回〕 固定相場制下の財政・金融政策
〔第12回〕 総括・試験

◆テキスト
・西孝『イントロダクション　マクロ経済学講義〔第２版〕』（日本評論社、2009年）。

◆参考文献
テキストに記されている。それ以外のものについては、必要に応じて適宜指示する。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
特定の予備知識を特に必要としないが、講義内容はいわば積み立て方式であり、毎回の講義内容は、それ以前の回の講義内容を前提とする。したがって何らかの理由によって途中が抜けてしまった場合、各自相応のリカヴァーをしないと、それ以降の話がまったく分からなくなる可能性があるので注意されたい。

◆成績評価方法
最終日に行われる筆記試験のみによって評価する。60点以上を合格とする。
出欠は評価の対象としない。

科目 経済原論（ミクロ経済学） 2単位

担当 経済学部教授 穂刈 享

この授業の前半では、競争的な市場における需要と供給についての標準的な理論について解説します。後半では、「リスクと不確実性」および「情報の非対称性」といったトピックを扱います。

〔第１回〕 イントロダクション
〔第２回〕 予算制約と無差別曲線と需要曲線
〔第３回〕 顕示選好と as if theory
〔第４回〕 エッジワースの箱と一般均衡
〔第５回〕 利潤最大化と供給曲線
〔第６回〕 需要と供給
〔第７回〕 リスクと不確実性（１）：期待効用仮説
〔第８回〕 リスクと不確実性（２）：アレの反例とエルズバーグの壺
〔第９回〕 情報の非対称性（１）：アドバース・セレクション
〔第10回〕 情報の非対称性（２）：モラル・ハザード
〔第11回〕 問題演習
〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト
プリントを適宜配布する。

◆参考文献
・神取道宏『ミクロ経済学の力』（日本評論社、2014年）
・奥野正寛『ミクロ経済学入門』２版（日経文庫、1990年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
微分や積分はほとんど使いません。

◆成績評価方法
最終日の試験による。

科目 ゲーム理論 2単位

担当 経済学部教授 穂刈 享

この授業ではゲーム理論（非協力ゲーム）の基本的な考え方を学びます。

〔第１回〕 ゲームの表
〔第２回〕 「守られる口約束」としてのナッシュ均衡
〔第３回〕 ゲームの木
〔第４回〕 「先読み」と部分ゲーム完全均衡
〔第５回〕 選択肢は多いほうがいいですが？
〔第６回〕 赤い帽子のパズルとpossible worlds model
〔第７回〕 ゲームの木と「情報集合」
〔第８回〕 情報は多いほうがいいですか？
〔第９回〕 「フリーライダー問題」と繰り返しゲーム
〔第10回〕 シグナリング・ゲーム
〔第11回〕 ペア決めマッチング問題
〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト
プリントを適宜配布する。

◆参考文献
・武藤滋夫『ゲーム理論入門』（日経文庫、2001年）
・A. ディキシット ＆ B. ネイルバフ『戦略的思考をどう実践するか』（阪急コミュニケーションズ〔CCCメディアハウス〕、2010年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
微分や積分は使いません。

◆成績評価方法
最終日の試験による。

科目 マルクス経済学 2単位

担当 経済学部教授 大西 広

〔授業の概要〕
〔第１回〕 イントロダクション

〔第２回〕　マルクスの人間論
〔第３回〕　土台と上部構造
〔第４回〕　商品生産社会としての資本主義
〔第５回〕　資本主義的生産力の量的性格、自己増殖する価値としての資本
〔第６回〕　工業社会としての資本主義
〔第７回〕　マルクスの基本定理
〔第８回〕　資本主義の発展と死滅
〔第９回〕　蓄積論、量が生み出す新しい質
〔第10回〕　マルクス派最適成長論
〔第11回〕　資本主義的生産における剰余価値の諸部門への分配
〔第12回〕　試験および総括

◆テキスト

・大西広『マルクス経済学（第２版）』（慶應義塾大学出版会、2015年）

◆成績評価方法

試験だけで判断する。

科目 経済史　2単位

担当 講師 ドルネッティ，フィリッポ

本講義の目的は、（１）学生が日本経済史を論理的に理解して自らの生きた知識とすること、（２）学生が現代日本経済の成り立ちを歴史的視点から理解し、その問題点を考察する能力を養うこと、である。その到達目標は、学生が、近代日本経済の成長について、概括的な流れを説明できるようにするだけでなく、ある程度各時代の具体的なマクロ的経済事象を把握して記憶するとともに、全体の流れを経済理論なども踏まえて理解する、というレベルに達することである。

具体的な講義内容は、日本経済の成長をマクロ的視点から捉えたものとしている。19世紀後半の開港以来の日本は、外国からの圧力や国際収支上の制約、外国為替相場の安定化といった対外的な問題にどのように対処していくなかで、国内の財政経済の問題に対峙し、経済成長をなり遂げてきたのかを、具体的な統計データを適宜参照しつつ説明する。

〔第１回〕　明治政府の成立と初期の財政経済政策
〔第２回〕　大久保政権から「明治十四年政変」へ
〔第３回〕　松方財政の展開と企業勃興
〔第４回〕　日清戦後経営と金本位制の確立
〔第５回〕　日露戦争とその後の財政経済
〔第６回〕　第一次世界大戦と日本経済、日本帝国の拡大
〔第７回〕「金解禁」関連事項
〔第８回〕「井上財政」から「高橋財政」へ
〔第９回〕　戦時経済下の日本
〔第10回〕　戦後改革から高度経済成長期へ
〔第11回〕　変動為替相場下の日本経済
〔第12回〕　総括と試験

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・杉山伸也『日本経済史　近世―現代』（岩波書店、2012）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

講義では、経済学、日本史の専門用語を利用することがある。学生の理解に応じて適宜説明するが、事前に入門書等を読んで、ある程度知識を身につけておくことが望ましい。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 日本経済史　2単位

担当 講師 青木 健

本講義では、近世から近現代にかけての日本経済史について、社会経済の発展の基層をなす土地利用型産業の農林業の動向と、それらの生産活動の担い手がつくる人間関係の変化を主な焦点として説明します。

〔第１回〕　講義の問題関心と時期区分：経済活動の基盤をなす人間関係とその変遷
〔第２回〕　近世日本の「市場経済」化：幕藩体制の成立と全国市場の成立
〔第３回〕　近世日本における労働集約型農業発展の展開：小農による「勤勉革命」
〔第４回〕　林業面における土地利用の集約化：日本における育成林業のはじまり
〔第５回〕　近代化における農業発展の意味：明治維新と日本農業
〔第６回〕　近代日本林政の樹立とその特質：国有林野経営の成立とその役割
〔第７回〕　国家主導の土地改良事業の開始と地主小作問題の展開：大正時代～アジア太平洋戦争期
〔第８回〕　近代日本における産業化と木材利用：蚕糸業・炭鉱業を事例に
〔第９回〕　戦後復興過程における日本経済：農林業の動向を事例に
〔第10回〕　高度経済成長と現代日本農業の展開：労働集約型から労働節約型へ転換
〔第11回〕　現代日本における林業問題の起源：「拡大造林」政策と外材輸入
〔第12回〕　総括と試験

（各回のテーマと内容は、必要に応じて修正する場合もあります）

◆テキスト

プリント資料を適宜配布します。

◆参考文献

・沢井実・谷本雅之『日本経済史：近世から現代まで』（有斐閣、2016年）
・暉峻衆三編『日本の農業150年：1850-2000年』（有斐閣、2003年）
・山口明日香『森林資源の環境経済史：近代日本の産業化と木材』（慶應義塾大学出版会、2015年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

履修者側に高等学校卒業程度の日本史の知識があることを前提に講義を進めます。ただし質問が寄せられた際には、随時補足説明を行います。

◆成績評価方法

成績評価方法：最終日に実施する筆記試験（70％）と６日間の出席状況の集計結果（30％）によります。

科目 工業経済論　2単位

担当 講師 渋井康弘

工業が国民経済・世界経済の中で持つ意味を確認し、今日のグローバリゼーションの下で起こっている諸変化の本質を解明します。
〔第１回〕「産業革命と工業部門の台頭」
産業革命が資本主義を本格的に確立させたことを論証する。
〔第２回〕「機械・装置と大量生産」
道具の機械への転化と大量生産の普及との関係を解明する。
〔第３回〕「資本制生産における労働編成（１）」
単純協業とマニュファクチュア的分業の展開を解明する。
〔第４回〕「資本制生産における労働編成（２）」
機械制大工業における分業の展開を解明する。
〔第５回〕「資本主義的蓄積の一般的傾向」
資本の集積・集中と中小資本の残存・新生が両立することを論証する。
〔第６回〕「産業部門構成の歴史的変化」
農工間の不均等発展と重化学工業化の傾向を、資本主義的蓄積の法則から解明する。
〔第７回〕「独占的市場構造の成立」
競争の展開が独占を必然化し、独占的市場構造を確立することを論証する。
〔第８回〕「フォード・システムの技術史的意義」
マニュファクチュア的要素に依存している点にフォード・システムの特徴を見る。
〔第９回〕「資本蓄積の停滞基調と技術革新（１）」
資本蓄積の停滞を打破しようとする技術革新が、しばしば軍事と結合することを論証する。
〔第10回〕「資本蓄積の停滞基調と技術革新（２）」
第二次世界大戦が生み出した原子力技術と情報技術が、戦後世界を規定してきたことを解明する。
〔第11回〕「ME・情報技術と新しい労働編成」
情報技術の工業への利用が、工程別分業を機能別分業に変えつつあることを論証する。
〔第12回〕「グローバルな独占と21世紀の資本蓄積」
グローバル化の下でグローバルな独占が成立しつつあることを概観し、全体を総括する。
講義後に試験を実施する。

◆テキスト
プリントを適宜配布する。

◆参考文献
・北原勇・鶴田満彦・本間要一郎『資本論体系10 現代資本主義』有斐閣、2001年

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
一方的に話すだけの講義にはせず、できるだけ多くの人にこちらから質問します。質問された時は、分からなくてもとにかく考えて、答えをひねり出してみてください。それを繰り返すうちに、自分の見解をもてるようになるはずです。

◆成績評価方法
最終日の試験による（100％試験で判定）。

科目 社会政策　2単位

担当 講師 齋藤香里

現代の社会政策は労働問題と社会保障によって構成されるが、本講義では日本の社会保障のあり方について「格差」に着目し、検討する。経済学の視点から、特に、医療保障、子どもの貧困、高齢者の介護問題を取り上げる。
〔第１回〕 イントロダクション―社会政策とは何か
〔第２回〕 社会政策の理論と歴史的展開
〔第３回〕 日本の社会保障制度の変遷と概要
〔第４回〕 医療①　日本の医療保障の概要と課題
〔第５回〕 医療②　医療における格差
〔第６回〕 子どもの貧困①　相対的貧困と絶対的貧困
〔第７回〕 子どもの貧困②　幼児教育の経済学
〔第８回〕 子どもの貧困③　子どもの貧困への対策
〔第９回〕 高齢者の介護問題①　日本の介護保険制度
〔第10回〕 高齢者の介護問題②　日本の介護保険制度の課題
〔第11回〕 高齢者の介護問題③　ドイツの介護施策
〔第12回〕 総括

◆テキスト
プリントを適宜配布する。

◆参考文献
・駒村康平（編著）『新・福祉の総合政策』（創成社、2018年）（市販書採用科目「社会政策（E・J）」指定テキスト、経済学部Ⅲ年度②配本、法学部Ⅳ年度②配本）
・阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』（岩波書店、2014年）
・ジェームス・J・ヘックマン『幼児教育の経済学』（東洋経済新報社、2015年）

◆成績評価方法
最終日の試験による。

科目 社会福祉論　2単位

担当 講師 永井攻治

社会保障・福祉制度は成立と改革を相互に繰り返して現在の姿となった。その流れは、経済成長及び財政と深く関わっている。例えば、高度経済成長・財政拡充期に骨子が成立し、その後の安定成長・緊縮財政期に制度改革が多くなされている。この法則から考察すると、現在の低成長期は後者（改革期）と言える。それでは、これからの社会保障制度は、改革の名の下にどのような方向転換が迫られているのか。それは、これまでとは異なる状況、特に超高齢化社会においても破綻することのない福祉施策を講じる制度改革である。
従来型の制度改革は、負担と給付の議論が先行していた。しかし、財政面のみから考えると、人口の高齢化、家族機能の変化、財政赤字等への対応策が問題である。現在の財政状況では、これからの福祉ニーズに充分な対応を施す事は困難である。また、戦後60年以上が経過し、日本の社会保障や福祉を取り巻く理念も「弱者救済から全国民への安心の保障」へと変化している。
そこで本講義では、社会保障・福祉制度の歴史的展

開と少子高齢化社会の社会保障・福祉制度の役割・各社会保険（医療・年金・福祉）と労働保険（労災・雇用保険）の制度を中心に学ぶ。そして、持続可能性のある社会保障・福祉制度の必要性と、超高齢化社会に対応した福祉施策のあり方とは何かを共に考える。

〔第１回〕 イントロダクション及び成熟化社会と社会保障
〔第２回〕 少子・高齢化社会の現状と動向
〔第３回〕 高齢化と日本経済
〔第４回〕 社会保障制度の機能
〔第５回〕 日本の年金制度の歴史的変遷①
〔第６回〕 日本の年金制度の歴史的変遷②
〔第７回〕 年金制度の概要①
〔第８回〕 年金制度の概要②
〔第９回〕 健康保険制度の概要
〔第10回〕 労働者災害補償保険制度の概要
〔第11回〕 働くルールと社会保障
〔第12回〕 総括「現在の社会保障制度の問題点について」

◆テキスト

プリントを適宜配布する予定である。

◆参考文献

・駒村康平（編著）『新・福祉の総合政策』（創成社、2018年）（市販書採用科目「社会政策（E・J）」指定テキスト、経済学部Ⅲ年度②配本、法学部Ⅳ年度②配本）

その他、授業中に適宜指示する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

日本の社会保障・福祉制度について関心を持つ塾生を歓迎する。担当教員の指導に非協力的な塾生の受講は歓迎しない。なお、講義終了後に毎回テーマを与え、自分なりの意見を提出してもらう予定である。

◆成績評価方法

「テスト」、「出席と課題提出」、「授業態度（増減点）」で評価する予定である（受講者数により臨機応変に判断するので、詳細は授業開始時に説明する）。

科目 経済政策　2単位

担当 経済学部教授 藤田康範 ／ 講師 鄭 雨宗

この講義では、日本経済や世界経済の現状について概観すると同時に、どのような経済政策が現在求められているのか等について考えます。

経済指標や経済記事に親しむことも目標の１つとします。この講義を機縁として、日本の経済政策やそのあり方について考えたり話し合ったりする機会をつくって欲しいと思います。

前半は藤田康範が担当し、マクロ経済政策について説明します。バブルの生成および崩壊の経緯、資産価格と貸し渋りの関係、金融再生の方策、伝統的景気対策の理論、構造改革の意義などを中心的テーマとします。『21世紀の資本』についても取り上げる予定です。

後半は鄭雨宗が担当し、国際政治経済学アプローチによる国際環境政策論について説明します。気候変動問題のような経済・エネルギー・環境をめぐる複雑系問題に対する政策評価・政策提言などを中心的テーマとします。

〔第１回〕 はじめに：日本経済の現状と課題を把握する
〔第２回〕 経済変数の決定に関する理論を学ぶ（１）GDP、財政赤字
〔第３回〕 経済変数の決定に関する理論を学ぶ（２）資産価格、為替レート
〔第４回〕 これまでの経済危機と経済政策を振り返る（１）：バブルの生成崩壊〜不良債権問題
〔第５回〕 これまでの経済危機と経済政策を振り返る（２）：アジア通貨危機〜欧州債務危機
〔第６回〕 これからの経済政策のあり方を考える
〔第７回〕 京都議定書の評価とポスト京都議論
〔第８回〕 京都メカニズムとしての排出権取引スキームの実態とその課題
〔第９回〕 UEのエネルギー需要構造と特徴
〔第10回〕 途上国の環境・エネルギー問題と持続可能な発展シナリオ
〔第11回〕 UE提案型戦略的貿易措置と京都議定書の補完性
〔第12回〕 環境と貿易の相互関係：日韓ケースと日中ケースの経済・環境への影響分析

◆テキスト

テキストは使用しません。初日に講義プリントを配布します。

◆参考文献

・藤田康範『図解 世界一わかりやすい経済学の授業』（中経出版、2013年）（第１〜６回）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

できるだけ丁寧な説明を心掛けますので、特別な予備知識は必要ありませんが、経済学的考え方の習得を目指す方々、新しいことがらを驚きと喜びを持って受け入れる準備のある方々の履修を希望いたします。

◆成績評価方法

出席およびレポートに基づいて総合的に評価します。

科目 財政論　2単位

担当 講師 島村玲雄

先進国では経済大国でありながら、貧困や格差、少子高齢化、財政赤字などなど、多くの問題を抱えている。しかし、「財政」とは一体何であり、どのような役割を担っているのだろうか？　税金の取り方や社会保障の財源はどうすべきなのか？　地方自治体はどのような課題に直面しているのか？　昔と現在の財政、経済、社会はどのように違うのか？　本講義は財政に関する論点を制度と歴史の視点から学ぶと同時に、財政からみた現代社会への理解を深めることを目的としている。

〔第１回〕 イントロダクション：財政とは何か
〔第２回〕 現代財政の国際比較
〔第３回〕 租税理論と原則
〔第４回〕 現代税制の課題
〔第５回〕 社会保障財源調達
〔第６回〕 社会保障各論
〔第７回〕 政府間財政関係
〔第８回〕 地域経済と地方財政
〔第９回〕 予算と財政政策

〔第10回〕 公債と財政赤字
〔第11回〕 財政システムの大転換
〔第12回〕 試験と総括

◆テキスト
・池上岳彦編『現代財政を学ぶ』（有斐閣、2015年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
授業前にテキストやその他書籍の該当箇所を事前に読んでおくこと。時間の関係上、用語の解説は極力抑えるので、各自で事前事後に調べること。

◆成績評価方法
最終日の試験による。

科目 金融論　2単位

担当 講師 溝口哲郎

金融取引は、我々の日々の経済活動において必要不可欠な存在である。日本がグローバル化の進行する世界の中で豊かさを享受しているのは、金融の力が大きい。本講義では、現代における金融の仕組みを理解し、金融機関の存在意義、資産の価格決定メカニズム、金融政策などのトピックを取り扱う予定である。

〔第１回〕 金融の役割と資金循環
〔第２回〕 企業の資金調達と投資
〔第３回〕 金融商品のリスク制御と価格計算
〔第４回〕 金融機関の仲介機能と証券市場
〔第５回〕 金融行政と金融政策
〔第６回〕 財政と財政投融資
〔第７回〕 貿易・資本移動と外国為替
〔第８回〕 金融のミクロ理論（家計の金融行動）
〔第９回〕 金融のミクロ理論（企業･銀行の金融行動）
〔第10回〕 金融のマクロ理論（ワルラス法則とIS-LM分析）
〔第11回〕 金融のマクロ理論（総需要－総供給モデル、オープン・マクロモデル）
〔第12回〕 試験

◆テキスト
・吉野直行・山上秀文『金融論』（通信テキスト、2017年、経済学部Ⅱ年度配本、法学部Ⅳ年度②配本）

◆参考文献
・川西諭・山崎福寿『金融のエッセンス』（有斐閣、2013年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件
金融論は経済学の応用分野のため、経済学を履修済であることが望ましい。特にマクロ経済学およびミクロ経済学の知識があると、理解が容易になるだろう。講義では金融の現状や実際を含めて説明し、その理解に基づいて金融の理論を学習する。

◆成績評価方法
最終日の試験による。ただし一定のスクーリング出席を前提とする。

科目 公共経済学　2単位

担当 講師 金子 憲 ／ 講師 金子 光

公共経済学は、国や地方公共団体などの公共部門が行う活動を、ミクロ経済学・マクロ経済学および財政学の理論的枠組みを用いて分析する学問である。

この講義では、ミクロ経済学・マクロ経済学および財政学の理論を概説した上で、現在の日本が直面している様々な政策課題に焦点をあてながら、国や地方公共団体などの公共部門が果たす役割を、理論面・制度面・政策面から分析を行う。これらの学習を通して、公共経済学に関する理解を深めるとともに、政策論に必要な分析手法を重点的に修得することによって、今後の日本の政治・経済・財政全般に関する幅広い視野と政策形成に資する能力を身に付けることを目標とする。

具体的には、以下の内容を重点的に取り上げる。

〔第１回〕「財政の３機能」の今日的課題
〔第２回〕「市場の失敗」と政府の役割：公共財、外部性、費用逓減産業
〔第３回〕 公共部門による所得再分配政策
〔第４回〕 日本経済のマクロ経済分析、ケインズ経済学を中心としたマクロ経済学の理論
〔第５回〕 政策分析・政策評価に必要な費用便益分析などミクロ経済学の分析ツール
〔第６回〕 租税原則、国と地方の税制、課税理論のミクロ経済分析
〔第７回〕 国と地方の財政関係、公共投資と地方財政、地方圏における地域経済政策
〔第８回〕 財政民主主義と憲法規定：予算編成･執行･決算など日本の予算制度
〔第９回〕 予算編成過程における政策決定プロセスと一般会計歳出構造に関する分析
〔第10回〕 財政の持続可能性分析、ドーマーの定理
〔第11回〕 NPM（New Public Management）、欧米先進諸国の財政再建への取り組み
〔第12回〕 総括

◆テキスト
テキストは使用しない。プリントを適宜配布する。

◆参考文献
講義の際、適宜紹介する。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
特になし。ミクロ経済学、マクロ経済学、財政学の理論については、初学者も理解できるように解説する。

◆成績評価方法
出席状況とレポートの結果を基に総合的に評価する。

科目 日本経済論　2単位

担当 経済学部教授 植田浩史

明治期の近代化以降、今日までの日本経済について、産業、企業を中心に、その構造と展開を歴史的に論じる。日本経済はどのように欧米へのキャッチアップを果たし、産業や企業の国際競争力を高めてきたのか、かつて競争力を持った産業分野がなぜ現在厳しい状況におかれているのか、などについて、時代の変遷とともに変わっていく日本経済の姿を論じていく。

〔第１回〕 序章　近代化と日本経済（１）幕末期～1920年代
〔第２回〕 序章　近代化と日本経済（２）1930年代～敗戦
第１章　高度成長期（１）戦後復興から高

度成長
〔第３回〕 第１章　高度成長期（２）高度成長の構造
〔第４回〕 第２章　安定成長期（１）ドルショック、石油ショック
〔第５回〕 第２章　安定成長期（２）Japan as No.1の時代へ
〔第６回〕 第３章　バブル経済と崩壊（１）プラザ合意からバブル経済
〔第７回〕 第３章　バブル経済と崩壊（２）バブル崩壊
〔第８回〕 第４章 「失われた10年」期（１）バブル崩壊後の10年
〔第９回〕 第４章 「失われた10年」期（２）日本型経済システムの変貌
〔第10回〕 第５章　日本経済の現状（１）
〔第11回〕 第５章　日本経済の現状（２）
〔第12回〕 終章　総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

適宜指示する。

◆学生に対する受講上の要望または受講上の前提条件

日本の近代から現代にいたる歴史についての基礎知識を前提に講義を行う。

◆成績評価方法

適宜行う小テスト及び最終日の試験による。

◆参考文献

授業中に紹介する。

科目 現代資本主義論　2単位

担当 経済学部准教授 大平 哲

〔授業の概要〕
〔第１回〕 イントロダクション 資本主義とは何か、論じる意義
〔第２回〕 正統派経済学（１） 新古典派経済学の考え方・世界（１）
〔第３回〕 正統派経済学（２） 新古典派経済学の考え方・世界（２）
〔第４回〕 マルクス経済学の考え方・世界（１）
〔第５回〕 マルクス経済学の考え方・世界（２）
〔第６回〕 非正統派経済学の考え方・世界（１）
〔第７回〕 非正統派経済学の考え方・世界（２）
〔第８回〕 非経済学からの経済学批判
〔第９回〕 現実経済・社会の経験
〔第10回〕 資本主義における人間（１）
〔第11回〕 資本主義における人間（２）
〔第12回〕 試験および総括
〔その他〕 内容については履修者の関心に応じてある程度柔軟に変更します。

◆テキスト

テキストはありません。必要に応じて資料を配布します。配布方法については以下の「受講上の要望」に注意してください。

◆参考文献

ありません。必要に応じて「受講上の要望」にあるURLで資料を紹介します。

◆受講上の要望

経済学をある程度学習済みであることが望ましいです。

授業に関する情報を以下のサイトに出します。授業期間中の情報提供が頻繁にあります。授業期間中にこのサイトへのアクセスができることを前提にして授業をすすめます。

http://web.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/etc/2019/gendai/index.html

http://web.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/etc/2019/gendai/index.html

◆成績評価方法

小テスト点（最初の５日は各回20点満点×５回）＋最終日試験（満点は20点よりは高く設定）を合計して総点を出します。

欠席を１回しても成績に致命的な影響がないような工夫をします。たとえば、配点が他の日よりは高い最終日試験を欠席したとしても、それだけでDになることはないようにします。

例外対応（病気や仕事都合での試験欠席への対応など）はしません。

とりあえず以上の原則を考えています。例外を設けるとしたらどのようなことが可能か第１回の授業で話し合った上で履修者（その日の出席者）全員で決定します。

すべての小テスト、最終日試験で追試はしません。

科目 国際経済学　2単位

担当 講師 久野 新

国と国とが貿易を行うのは何故なのか。ある国の主要貿易品目はどのように決定されるのか。貿易自由化や自由貿易参加の是非をめぐり国内でも意見が衝突するのは何故なのか？　外国人労働者の受け入れが一国の経済に与える影響はどのようなものなのか？

本講義では、広義の国際経済学のなかでも国際貿易論と呼ばれる領域の理論の基礎を学び、こうした諸問題について受講者が自ら考察できるようになるための訓練を行う。

・学習の到達目標

本講義で登場する基礎的な用語や理論について、第三者に対して説明できるようになること。

講義内容は以下を予定している。
〔第１回〕 イントロダクション
〔第２回〕 部分均衡分析の方法論（復習）
〔第３回〕 貿易政策の基礎
〔第４回〕 貿易政策の応用
〔第５回〕 比較優位と分業の利益（１）
〔第６回〕 比較優位と分業の利益（２）
〔第７回〕 国際貿易のルールと貿易交渉（１）
〔第８回〕 国際貿易のルールと貿易交渉（２）
〔第９回〕 地域貿易協定（１）
〔第10回〕 地域貿易協定（２）
〔第11回〕 国際要素移動（資本や労働の国際移動）
〔第12回〕 総括

◆テキスト

・石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ〔第

２版〕』（有斐閣、2013年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

経済原論を履修済みであることが望ましい。

授業内のディスカッションに積極的に参加すること。

◆成績評価方法

最終日の試験（持ち込み不可）のみで評価する。

科目 世界経済論　2単位

担当 講師 久野 新

従来、東アジア各国は経済的な相互依存関係を緊密化させながら経済成長を遂げてきたが、各国の発展の経緯、成長の成功要因、政治体制、直面している政策課題は必ずしも一様ではない。本講義では、いま世界の中で最もダイナミックに変化を遂げている東アジアの経済に焦点をあて、同地域における貿易・投資構造の変遷、および各国の経済発展の経緯や特性などについて学ぶ。

・学習の到達目標

地域として捉えた場合の東アジアの経済的特性、および個別東アジア各国における経済発展の経緯と特性、現在の政策課題に関する理解を深める。

〔第１回〕 イントロダクション
〔第２回〕 豊かさの決定要因（１）
〔第３回〕 豊かさの決定要因（２）
〔第４回〕 地域としての東アジアの特性
〔第５回〕 輸入代替工業化と輸出志向型工業化
〔第６回〕 直接投資の動機と影響
〔第７回〕 シンガポール
〔第８回〕 マレーシア
〔第９回〕 インドネシア
〔第10回〕 フィリピン
〔第11回〕 中国
〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

授業内のディスカッションに積極的に参加すること。

◆成績評価方法

最終日の試験（手書きＡ４片面メモ１枚のみ持ち込み可）のみで評価する。

科目 国際金融論　2単位

担当 講師 田中 巌

この授業の目標は、国際金融の理論を学習し現実の国際経済の舞台で取り上げられる様々な問題について批判的に検討（critical thinking）できるようになることです。

近年の世界的な金融不信の問題を理解するためには、グローバルなお金（マネー）の動きについて知る必要があります。そのため、各国の利子率と為替レートとの関係、実需や予想（期待）が与える為替レートへの影響、短期的視点と長期的視点の違いなどについて学びます。また、国際収支表や実質為替レートの理論を知ることにより、金融部門と実物部門との関連性を理解します。さらに、通貨危機の発生メカニズム、固定相場制と変動相場制のメリット・デメリットについて考察します。

国際経済問題を考えるためには筋道を立てて見ていく必要がありますが、理論は大変重要な役割を担っています。授業では、理論、制度、政策という経済分析に欠くことのできない視点を重視して講義し、国際収支表と為替レートについての理解を深めていきたいと思います。また、ほんの少し、アクティブ・ラーニングを行ってみたいと思います。その際は、ディスカッションに積極的に参加してください。

〔第１回〕 イントロダクション
〔第２回〕 国際資本移動の経済学、経常収支問題
〔第３回〕 国民所得勘定と国際収支表①（国際収支表とは、国際収支表の読み取り）
〔第４回〕 国民所得勘定と国際収支表②（開放経済におけるマクロの国民所得恒等式）
〔第５回〕 為替レートと外国為替市場、国際通貨制度の歴史的変遷
〔第６回〕 変動相場制と固定相場制、政府による外国為替市場への介入
〔第７回〕 為替レートの決定因①（需要・供給曲線によるモデル）
〔第８回〕 為替レートの決定因②（利子平価説（短期のモデル））
〔第９回〕 為替レートの決定因③（為替レートのオーバーシューティング）
〔第10回〕 為替レートの決定因④（購買力平価説（長期のモデル））
〔第11回〕 実質為替レート、短期における為替レートと生産水準の決定
〔第12回〕 総括
〔その他〕 初日に宿題を配布、３日目に提出

◆テキスト

ニューズレター６月号で発表する。

◆参考文献

・Krugman, Paul R., Maurice Obstfeld, and Marc J. Melitz,『International Economics: Theory and Policy, Eleventh Edition (Global Edition)』(Pearson Education, 2018年)
・大山道広『国際経済学』（培風館、2011年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

経済原論のマクロ分野の知識を必要とし、抽象的なグラフと簡単な数式を用います。統計データを読むことに意欲的で、現実の国際経済問題を理解することに情熱を持っている履修者を歓迎します。

◆成績評価方法

100点満点で評価します。出席・参加20点、宿題20点、最終日の試験（持込み不可）が60点です。90点以上がS、80点～89点がA、70点から79点がB、60点から69点がC（以上合格）、59点以下がD（不合格）となります。

科目 国際貿易論　2単位

担当 講師 田中 巌

この授業の目標は、国際貿易の理論を学習し現実の

国際経済の舞台で取り上げられる様々な問題について批判的に検討（critical thinking）できるようになることです。

近年の世界的な金融不信に端を発する世界同時不況と日本経済への影響について理解するためには、国際貿易と海外投資、移民の拡大を通じて統合が進んでいる世界経済の特徴を知る必要があります。こうした経済のグローバル化は自由貿易の利益を求めて展開し、地域統合の締結を促進しています。

また、最近年の世界の動きは、自由貿易を主張したリカードの国であるイギリスがEU離脱を表明し、自由な国の象徴ともいえる米国のトランプ大統領はTPP離脱とNAFTAの再交渉を要請するなど、自由貿易が最も望ましいとする価値観は必ずしも共有されなくなってきていることを示唆しています。貿易により賃金や雇用が痛手を受ける産業があるという考え方は、確かに貿易理論からも導き出されることです。それではなぜ自由貿易を推進するのでしょうか。所得格差の拡大とグローバル化の間には何か関係があるのでしょうか。このような貿易論の応用分野にも触れることが出来たらと考えています。

授業では、統計データを見て世界貿易のパターンを理解し、貿易理論の学習とその検証方法を学び、比較優位と貿易利益について理解を深めて、自由貿易のメリットを再確認していきたいと思います。

〔第１回〕 イントロダクション
〔第２回〕 世界貿易の概観（成長率と開放度指数）
〔第３回〕 貿易理論とその検証①（ミクロ経済学の復習、貿易の基本モデル）
〔第４回〕 貿易理論とその検証②（リカードの比較優位理論）
〔第５回〕 貿易理論とその検証③（リカードの比較優位理論（続き））
〔第６回〕 貿易理論とその検証④（ヘクシャー＝オーリンの要素比率モデル）
〔第７回〕 貿易理論とその検証⑤（マクドゥーガルの実験、レオンティエフ・パラドック）
〔第８回〕 通商政策①（関税・非関税障壁）
〔第９回〕 通商政策②（厚生効果）
〔第10回〕 経済のグローバル化とその推進主体①（貿易と日本の経済成長、国際貿易体制）
〔第11回〕 経済のグローバル化とその推進主体②（多国籍企業と海外直接投資、経済格差）
〔第12回〕 総括
〔その他〕 初日に宿題を配布、３日目に提出

◆テキスト

ニューズレター６月号で発表する。

◆参考文献

・Husted, Steven, and Michael Melvin『International Economics, Ninth Edition (International Edition)』(Pearson Education, Inc., 2013年)、Kindle版。
・Krugman, Paul R., Maurice Obstfeld, and Marc J. Melitz『International Economics: Theory and Policy, Eleventh Edition (Global Edition)』(Pearson Education Limited、2018年)
・大山道広『国際経済学』(培風館、2011年)
・野林健・長尾悟編著『国際政治経済を学ぶ―多極化と新しい国際秩序』(ミネルヴァ書房、2011年)（特に、第５章「グローバリゼーションの過去と現在」・第６章「グローバル化と経済格差」(田中巌執筆)）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

経済原論のミクロ分野の知識を必要とし、抽象的なグラフと簡単な数式を用います。統計データを読むことに意欲的で、現実の国際経済問題を理解することに情熱を持っている履修者を歓迎します。

◆成績評価方法

100点満点で評価します。出席・参加20点、宿題20点、最終日の試験（持込み不可）が60点です。90点以上がS、80点～89点がA、70点から79点がB、60点から69点がC（以上合格）、59点以下がD（不合格）となります。

科目 会計学　2単位

担当 講師 高瀬 央

本講義は、ひろく「会計（学）」のなかでも、企業ないし株式会社の会計、とりわけ「財務会計」とよばれる領域をその対象とする。本講義の対象となる「財務会計」とは、文字どおり、財務のため（いま少し簡単にいえば、事業の元手を集めるため）の会計である。したがって、事業の企て（の組織）である企業にとっては、欠かすことのできない重要な行為であるといえる。

本講義では、このように今日の経済社会の中核をなす企業にとって重要な行為である「財務会計」が、どのような考え方（理論）のもとに成り立ち、また、どのように実践されているのかについて知識と理解を深めることを目的とする。

〔第１回〕 会計の意義、会計の前提
〔第２回〕 会計の基礎概念
〔第３回〕 会計の一般原則
〔第４回〕 認識・測定の原則（１）
〔第５回〕 認識・測定の原則（２）
〔第６回〕 認識・測定の原則（３）
〔第７回〕 伝達の原則
〔第８回〕 財務諸表分析の基礎
〔第９回〕 収益性分析
〔第10回〕 安全性分析
〔第11回〕 成長性分析、生産性分析
〔第12回〕 総括

◆テキスト

・友岡賛『会計学』(通信テキスト、2009年、経済学部Ⅲ年度①配本、法学部Ⅳ年度①配本)

◆参考文献

・友岡賛『会計学はこう考える』(ちくま新書、2009年)
・友岡賛『会計学原理』(税務経理協会、2012年)

◆成績評価方法

最終日におこなう試験による。

科目 保険学　2単位

担当 講師 神田恵未

保険制度は、社会に存在する多種多様なリスクに備えて経済的保障を提供する経済制度として、既に私たちの生活に深く浸透している。本講義では、保険制度が、現実社会の中でいかなる仕組みや原理に基づいて、社会的あるいは経済的機能を果たしているのかを理解することを目的とする。

主な講義内容および順序は、以下の通りである。

〔第１回〕 イントロダクション
〔第２回〕 保険の歴史
〔第３回〕 保険の基本理論
〔第４回〕 保険の基本原則
〔第５回〕 保険の構造
〔第６回〕 保険の機能
〔第７回〕 保険とリスク
〔第８回〕 保険と金融
〔第９回〕 保険と経営
〔第10回〕 保険と政策
〔第11回〕 特別講義（中国保険市場の成長と課題）
〔第12回〕 試験・総括

〔第１回〕本講義の目的および概要、成績評価について説明する。
〔第２回〕保険の生成史について、原始保険から近代保険そして現代保険の順に説明する。保険が現代社会にとって、必要不可欠な経済制度となった経緯および要因について、その歴史から学んでいく。
〔第３回〕「保険とは何か」について、保険学説の流れから紐解いていく。さらに、保険の基本法則である大数の法則について説明する。保険の本質を理解することによって、社会経済システムにおける保険制度の存在意義について考える。
〔第４回〕保険の基本原則について説明する。まずは、保険経営の安定性と保険の集団性を強調した収支相等の原則、次に個別契約の保険料設定と保険における公平性を強調した給付・反対給付均等の原則について理解を深める。
〔第５回〕保険の構造について、保険料の構成から解説する。純保険料と付加保険料の相違点そして保険料の決まり方を理解する。そして「付加保険料開示の是非」について、グループディスカッションを行う。
〔第６回〕保険の機能について、今まで学んだ内容をふまえながら考えることとする。保険の歴史と理論、そして保険の基本原則と構造から、現代社会経済において保険はどのような機能を果たしているかについて理解を深め、今後の保険進化について考える。
〔第７回〕保険とリスクの関係について考える。リスクの概念およびリスクマネジメントについて理解することによって、保険はリスク移転の手段であることを確認する。
〔第８回〕保険と金融
保険会社の金融機能について説明する。資産運用によって得られる金融収益は、なぜ保険会社の経営にとって大事であるかについて検討する。合わせて保険会社の機関投資家としての位置付けを確認する。
〔第９回〕保険会社の経営について、３つの分野を中心に説明する。第１に生命保険事業、第２に損害事業、そして第３に再保険事業について考える。保険経営をめぐる経済環境の変化とその影響についてグループディスカッションを行う。
〔第10回〕保険事業の健全な発展にとって、保険政策がどのよう役割を果たすかについて考える。戦後の護送船団行政から規制緩和による保険自由化の影響と課題について説明する。
〔第11回〕事例研究として、中国保険市場を取り上げる。世界第２位の市場まで成長した中国保険市場について、改革開放政策と市場開放による規制緩和の経緯を説明する。そして、WTO加盟後の外資系保険会社による中国市場への参入活発化および急成長市場が抱えている諸問題を俯瞰する。
〔第12回〕講義全体の総括を行う。そして、授業内容に関する理解度をテストによって確認する。
〔その他〕 課題・レポート、小テスト

◆テキスト
プリントを適宜配布する。

◆参考文献
・堀田一吉『保険理論と保険政策―原理と機能』（東洋経済新報社、2003年）
・下和田功編『はじめて学ぶリスクと保険〔第４版〕』（有斐閣、2014年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
特にありません。試験は、講義で話した内容を中心に出題する予定であるので、できる限り授業には出席するよう心がけてください。

◆成績評価方法
課題レポートおよび講義最終日試験の成績による。

科目 法学概論　2単位

担当 講師 三田奈穂

本講義は、前半において法とは何か、具体的にはどのような形で存在するのかといった内容について扱い、後半で日本の訴訟の種類や裁判を構成する専門家について学ぶ。個々の内容に関する基礎的な事項のみならず、具体的な事例を検討し、日本社会における法と裁判の内容を概観する。

〔第１回〕 ガイダンス
法律学に関する文献について：六法とは何か
〔第２回〕 法令に関する基本事項：条文の読み方
〔第３回〕 法と道徳：「規範」とは何か
〔第４回〕 成文法：法律・命令に代表される制定法
不文法：慣習法と判例法
〔第５回〕 法の種類：法を区分する意義とは
〔第６回〕 法の解釈と適用
〔第７回〕 刑事訴訟の概要
〔第８回〕 民事訴訟と裁判外紛争解決手続
〔第９回〕 裁判に携わる専門家：法曹
〔第10回〕 最高裁判所の役割
〔第11回〕 国民の司法参加：裁判員制度
〔第12回〕 総括・到達度確認試験
〔その他〕 授業内でコメントシートを提出してもらう。

◆テキスト
プリントを適宜配布する。
◆参考文献
・霞信彦編『法学概論』（通信テキスト、2015年、文学部・経済学部Ⅱ年度配本）
・小島武司編『ブリッジブック裁判法〔第２版〕』（信山社、2010年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
六法やインターネットなどで、学習した法令を検索してみることが望ましい。
◆成績評価方法
コメントシートおよび最終日に実施する到達度確認試験の総合評価による。

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、経済学部専門教育科目として卒業単位に含むことができる科目です。

科目 哲学（専門） 2単位
担当 講師 木下頌子 ／ 講師 石田隆太

文学部専門教育科目「哲学（専門）」（94頁）を参照してください。

科目 哲学史 2単位
担当 講師 田子山和歌子 ／ 講師 内山真莉子

文学部専門教育科目「哲学史」（94頁）を参照してください。

科目 社会学（専門） 2単位
担当 文学部教授 岡原正幸 ／ 講師 澤田唯人

文学部専門教育科目「社会学（専門）」（96頁）を参照してください。

科目 社会心理学特殊 2単位
担当 講師 呉 正培

文学部専門教育科目「社会心理学特殊」（97頁）を参照してください。

科目 図書館・情報学 2単位
担当 文学部教授 根本 彰

文学部専門教育科目「図書館・情報学」（99頁）を参照してください。

科目 日本史概説 2単位
担当 講師 村 和明

文学部専門教育科目「日本史概説」（100頁）を参照してください。

科目 西洋史概説 2単位
担当 文学部教授 神崎忠昭

文学部専門教育科目「西洋史概説」（101頁）を参照してください。

科目 憲法 2単位
担当 講師 岡田順太

法学部専門教育科目「憲法」（119頁）を参照してください。

科目 会社法 2単位
担当 講師 来住野 究

法学部専門教育科目「会社法」（119頁）を参照してください。

科目 民法 2単位
担当 法学部教授 水津太郎 ／ 講師 大塚哲也

法学部専門教育科目「民法」（119頁）を参照してください。

科目 刑法 2単位
担当 法学部専任講師 薮中 悠

法学部専門教育科目「刑法」（120頁）を参照してください。

科目 破産法 2単位
担当 講師 河村好彦

法学部専門教育科目「破産法」（122頁）を参照してください。

科目 経済法　2単位

担当 講師 隅田浩司

法学部専門教育科目「経済法」（123頁）を参照してください。

科目 法制史　2単位

担当 講師 原 禎嗣

法学部専門教育科目「法制史」（123頁）を参照してください。

科目 法制史特殊　2単位

担当 講師 兒玉圭司

法学部専門教育科目「法制史特殊」（124頁）を参照してください。

科目 社会学特殊　2単位

担当 法学部教授 澤井 敦

法学部専門教育科目「社会学特殊」（124頁）を参照してください。

科目 マス・コミュニケーション論　2単位

担当 法学部教授 大石 裕
メディア・コミュニケーション研究所准教授 山腰修三

法学部専門教育科目「マス・コミュニケーション論」（125頁）を参照してください。

科目 政治思想論　2単位

担当 法学部教授 堤林 剣

法学部専門教育科目「政治思想論」（125頁）を参照してください。

科目 国際政治論　2単位

担当 法学部教授 田所昌幸

法学部専門教育科目「国際政治論」（125頁）を参照してください。

科目 政治理論　2単位

担当 講師 慶 済姫

法学部専門教育科目「政治理論」（125頁）を参照してください。

科目 政治過程論　2単位

担当 講師 金 宗郁

法学部専門教育科目「政治過程論」（126頁）を参照してください。

科目 日本政治史　2単位

担当 法学部教授 玉井 清

法学部専門教育科目「日本政治史」（127頁）を参照してください。

科目 日本政治論　2単位

担当 講師 小田義幸

法学部専門教育科目「日本政治論」（127頁）を参照してください。

4 法学部専門教育科目

科目 憲法 2単位

担当 講師 岡田順太

日本国憲法の諸論点を明確にし、典型的な解釈論から立法論（改憲論）まで、最先端の憲法論を展開したい。具体的には、次の論点を予定している。

〔第１回〕 イントロダクション・憲法の基本原理
〔第２回〕 人権総論（享有主体性・私人間効力）
〔第３回〕 消極的権利（１）
〔第４回〕 消極的権利（２）
〔第５回〕 積極的権利（受益権・社会権）
〔第６回〕 能動的権利／複合的権利
〔第７回〕 天皇
〔第８回〕 国会／内閣
〔第９回〕 裁判所
〔第10回〕 財政／地方自治
〔第11回〕 安全保障
〔第12回〕 総括

◆テキスト

・駒村圭吾『プレステップ憲法〔第２ 版〕』（弘文堂、2018年）（市販書採用科目「憲法（E・J)」指定テキスト、経済学部Ⅲ年度①配本、法学部Ⅱ年度配本）

◆参考文献

必要に応じて授業内で指示する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特別な予習は必要ないが、毎回出席して、克明にノートを取り、思考を廻らせてほしい。また、『六法』（判例要旨付のものが望ましい）を毎回携行してほしい。具体例を挙げ平明に講義するつもりである。

◆成績評価方法

最終日の試験による。８割以上の出席を試験受験資格とし、採点は寛大に行う。

科目 会社法 2単位

担当 講師 来住野 究

平成17年の大改正により、会社法は商法から抽出され、商法特例法等の特別法と統合されて独立した法律となった。条文が平仮名口語体に改められるとともに、内容も抜本的・全面的に改められた。新会社法は、会社の種類の再編・資本制度の変容など、理念・体系の大幅な転換を図った部分もあるが、改められた法規制の中には、法制審議会会社法部会の意向とは無関係に法務省の立案担当者が独断専行したところが少なくないため、問題点も多い。そこで、必要に応じて旧商法と対比させながら、会社法の全体像と基本理念を概観するとともに、重要な法制度や話題性のある論点をいくつか取り上げて検討することにより、諸制度の体系的な理解と考え方の養成を目指す。

〔第１回〕 Ⅰ会社法概説①
　　１．会社法の利害関係人と会社法
　　２．会社法制定の経緯と特色
〔第２回〕 Ⅰ会社法概説②
　　３．会社の意義
　　４．会社の法人性
　　５．会社の商人性
　　６．会社の種類
〔第３回〕 Ⅰ会社法概説③
　　７．株式会社の特色①
〔第４回〕 Ⅰ会社法概説④
　　７．株式会社の特色②
〔第５回〕 Ⅰ会社法概説⑤
　　７．株式会社の特色③
〔第６回〕 Ⅰ会社法概説⑥
　　８．持分会社の特色
〔第７回〕 Ⅱ会社法の論点①
〔第８回〕 Ⅱ会社法の論点②
〔第９回〕 Ⅱ会社法の論点③
〔第10回〕 Ⅱ会社法の論点④
〔第11回〕 Ⅱ会社法の論点⑤
〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・宮島司『新会社法エッセンス〔第４版補正版〕』（弘文堂、2015年）

概説書は平成26年改正法に対応しているものが望ましい。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

民法の基礎知識があることを前提として講義を進める。

時間の関係上授業中に逐一条文を確認することはできないが、各自六法（最新版）を持参し、必要に応じて条文を確認すること。

◆成績評価方法

試験の成績により評価する。

科目 民法 2単位

担当 法学部教授 水津太郎 ／ 講師 大塚哲也

本講義では、民法財産法の基礎的な知識を習得するとともに、法的問題の発見とその解決の仕方を学ぶことを目的とします。

民法財産法は大きく分けると、契約・所有・不法行為の３つの領域に区別されます。民法典のなかでこれらを定めているのは、第１編から第３編まで、つまり総則・物権・債権です。

本講義は、民法財産法の全体をカバーするものです。平成29年民法改正についても学びます。もっとも、時間の制約がありますので、とりわけ重要な概念・制度・ルールを中心に解説します。また、教育効果を高めるために、民法典の編別には従わずに、問題となる領域ごとに講義をすすめます。具体的には次のとおりです。

〔第１回〕 民法の基礎
〔第２回〕 契約①：契約法総論
〔第３回〕 契約②：契約の成立

〔第４回〕　契約③：契約違反に対する救済
〔第５回〕　契約④：契約の終了
〔第６回〕　不法行為
〔第７回〕　所有①：物権法総論
〔第８回〕　所有②：物権変動Ⅰ
〔第９回〕　所有③：物権変動Ⅱ
〔第10回〕　担保①：担保物権総論
〔第11回〕　担保②：担保物権各論
〔第12回〕　試験および総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

平成29年民法改正に対応した民法全体を学べる教科書として、

・松尾弘『民法の体系〔第６版〕』（慶應義塾大学出版会、2016年）。
・道垣内弘人『リーガルベイシス民法入門〔第２版〕』（日本経済新聞出版社、2017年）。
・潮見佳男『民法（全）』（有斐閣、2017年）。

平成29年民法改正の解説として、

・山本敬三『民法の基礎から学ぶ民法改正』（岩波書店、2017年）。

◆学生に対する受講上の要望、ないし受講上の前提条件

六法（小型のものでよい）を毎回かならず持参してきてください。本講義を受講するための前提条件はとくにありません。もっとも、参考文献について目を通しておくと、講義の理解がすすみます。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 刑法　２単位

担当 法学部専任講師 **薮中 悠**

本年度の夏期スクーリングでは、刑法総論の講義を行います。

現行の刑法典（明治40年法律第45号）には、殺人罪、窃盗罪、放火罪等のいろいろな犯罪が規定されていますが、「刑法総論」は、それらに共通する犯罪の一般的な成立要件（因果関係や故意、正当防衛、共犯といった各犯罪に共通して問題となる内容）を研究の対象としています（これに対して「刑法各論」は、殺人罪や窃盗罪等の個別の犯罪の成立要件を明らかにすることを目的としています）。

本講義では、テキストに即して刑法総論の基本的な内容や主要な争点の議論の状況、判例の立場について理解することを目指します。また、適宜、刑法の学習（レポートの作成等を含む）に取り組む際に必要な情報の収集の仕方や利用方法についても言及する予定です。

〔第１回〕　法を学ぶということ、刑法は何のためにあるのか
〔第２回〕　刑法の基本原則、刑罰法規の解釈と適用
〔第３回〕　犯罪論の基本的考え方、構成要件をめぐって
〔第４回〕　未遂犯と既遂犯①―主に因果関係
〔第５回〕　未遂犯と既遂犯②―主に未遂犯の成立要件
〔第６回〕　故意と錯誤
〔第７回〕　違法性とその阻却①―主に正当行為・被害者の同意
〔第８回〕　違法性とその阻却②―主に正当防衛
〔第９回〕　責任とその阻却
〔第10回〕　正犯と共犯①―主に共犯の処罰根拠、諸類型
〔第11回〕　正犯と共犯②―主に共同正犯
〔第12回〕　総括、試験

◆テキスト

・井田良『入門刑法学・総論〔第２版〕』（有斐閣、2018年）
・十河太朗・豊田兼彦・松尾誠紀・森永真綱『刑法総論判例50！』（有斐閣、2016年）
・井田良『講義刑法学・総論〔第２版〕』（有斐閣、2018年）（市販書採用科目「刑法総論」指定テキスト、法学部Ⅲ年度②配本）

◆参考文献

・井田良・佐藤拓磨（編）『よくわかる刑法〔第３版〕』（ミネルヴァ書房、2018年）
・山口厚『刑法〔第３版〕』（有斐閣、2015年）
・井田良・城下裕二『刑法総論判例インデックス』（商事法務、2011年）
・山口厚・佐伯仁志（編）『刑法判例百選Ⅰ　総論〔第７版〕』（有斐閣、2014年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

講義には、小型のもので構わないので、六法を必ず持参してください。

また、開講前に予習として、①井田良『基礎から学ぶ刑事法〔第６版〕』（有斐閣、2017年）の第10章～第16章、②山口厚『刑法入門（岩波新書）』（岩波書店、2008年）、③乃南アサ・園田寿『犯意（新潮文庫）』（新潮社、2011年）の少なくとも１つには目を通しておいてください。

◆成績評価方法

成績は、最終日に実施する試験及び平常点により評価します。

科目 医事法　２単位

担当 講師 **平野美紀**

〔授業の概要〕
〔第１回〕　イントロダクション
〔第２回〕　医療における医師と患者の関係
〔第３回〕　患者の自己決定権の尊重
〔第４回〕　患者の自己決定権が制限される場合
〔第５回〕　生命の始期と患者の自己決定権
〔第６回〕　生命の終期における患者の自己決定権
〔第７回〕　生命の終期における患者の自己決定権①脳死と臓器移植
〔第８回〕　生命の終期における患者の自己決定権②尊厳死と安楽死
〔第９回〕　生命の終期における患者の自己決定権③海外の事例
〔第10回〕　精神医療と患者の自己決定①
〔第11回〕　精神医療と患者の自己決定②
〔第12回（最終回）〕　試験および総括
〔その他〕　課題に対するコメントカードを２－３回

程度、レポート１回を予定

〔第１回〕医事法とはなにか、総論的な問題について概説する。
〔第２回〕医師に課された法律上の義務、患者の権利について概観する。
〔第３回〕いゆわるICがなぜ重要なのか、患者の自己決定権が重要とされるようになった背景や、患者の人権擁護の必要性について概観する。
〔第４回〕患者の自己決定は尊重されなければならないが、自己決定能力が低下している場合や生命の終結に関する場合など一定の場合においては、それが制限されなければ患者の人権を擁護できない場合がある。それらの問題について概観する。
〔第５回〕法律における生命の始期、生殖医療技術をめぐる法的問題、人工妊娠中絶の問題について取り上げる。
〔第６回〕生命の終期における患者の自己決定と自己決定が制限される場面についての法的問題について概観する。
〔第７回〕生命の終期の問題として脳死の問題と臓器移植法を取り上げて概説する。
〔第８回〕生命の終期の問題として安楽死尊厳死の法的諸問題や厚労省のガイドラインについて概観する。
〔第９回〕終末期医療における患者の自己決定権の問題は、その国における法律、医療、社会福祉などの制度や国民性、さまざまな事情を背景に論じられる。我が国の特徴を、海外の状況と比較しながら、異なる視点から概観する。
〔第10回〕精神科医療においても患者の自己決定は尊重されなければならないが、患者の医療と保護のため、その権利を制限しなければならないときもある。精神保健福祉法を中心に概説する。
〔第11回〕患者の医療と保護のため、その権利を制限しなければならない場面として、精神科医療における患者の自己決定と強制入院制度について解説する。
〔第12回〕総括と試験
〔その他〕課題・レポート

◆テキストについて

プリントを適宜配布する。

◆成績評価方法

課題に対するコメントカード、レポート、小テスト

科目 刑事政策学　2単位

担当 講師 尾﨑万帆子

本講義は、刑事政策における諸論点について、刑事政策の原則、刑事制裁論、犯罪者処遇論、被害者支援論などを取り上げ解説します。
講義では、従来よりある刑事政策上の論点のみならず、近時の新しい制度、論点についても扱っていく予定です。
〔第１回〕 刑事政策の基本理念と基本原則
〔第２回〕 ダイバージョン（起訴猶予／執行猶予／刑の一部執行猶予）
〔第３回〕 施設内処遇（自由刑／矯正処遇）
〔第４回〕 社会内処遇（仮釈放／保護観察）
〔第５回〕 財産刑／死刑
〔第６回〕 少年非行
〔第７回〕 司法と福祉の連携
〔第８回〕 犯罪被害者の実情と支援
〔第９回〕 犯罪被害者の権利と法的地位
〔第10回〕 性犯罪・被害
〔第11回〕 ドメスティック・バイオレンス／児童虐待
〔第12回〕 総括

◆テキスト

・守山正･安部哲夫（編著）『ビギナーズ刑事政策〔第３版〕』（成文堂、2017年）（市販書採用科目「刑事政策学」指定テキスト、法学部Ⅲ年度②配本）

◆参考文献

・法務総合研究所『平成30年版犯罪白書』（2017年）
・国家公安委員会・警察庁『平成31年版犯罪被害者白書』（2019年近刊）
・太田達也『刑の一部執行猶予―犯罪者の改善更生と再犯防止（改訂増補版）』（慶應義塾大学出版会、2018年）
・太田達也『仮釈放の理論―矯正・保護の連携と再犯防止』（慶應義塾大学出版会、2017年）
・朴元奎･太田達也編著『リーディングス刑事政策』（法律文化社、2016年）
・井田良･太田達也編著『いま死刑制度を考える』（慶應義塾大学出版会、2014年）
・女性犯罪研究会『性犯罪・被害―性犯罪規定の見直しに向けて』（尚学社、2014年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

現代社会に生起するさまざまな犯罪に対する法的対応の検討を通じて、政策論的手法と思考能力を養ってもらいたいと思います。

◆成績評価方法

最終日の試験により、成績評価を行います。

科目 刑事訴訟法　2単位

担当 講師 丸橋昌太郎

本講義は、下記のスケジュールで、刑事訴訟法のうち、犯罪捜査、公判審理を規律する法を中心に取り扱う。受講生の多くは、捜査と言えば、刑事ドラマか、テレビ報道で見られるような不当な捜査を思い浮かべるであろう。しかし、現実の捜査は、刑事ドラマのように派手で単純ではなく、また、テレビ報道で取り上げられるような不当な捜査ばかりではない。
受講生には、本講義を通じて、刑事訴訟法の基礎を身につけるとともに、刑事司法が果たすべき役割を多角的に考えられるようになってもらいたい。
〔第１回〕 刑事手続の基礎
〔第２回〕 任意捜査と強制捜査（１）
〔第３回〕 任意捜査と強制捜査（２）
〔第４回〕 強制捜査（１）―逮捕・勾留
〔第５回〕 強制捜査（２）―捜索・押収
〔第６回〕 被疑者の防御活動
〔第７回〕 公判の構造と基本原則
〔第８回〕 公訴の基本原則
〔第９回〕 訴因と公訴事実
〔第10回〕 証拠法（１）―総説、自白法則

〔第11回〕 証拠法（２）―伝聞法則
〔第12回〕 総括
〔その他〕 課題・レポート

◆テキストについて

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・富永晃一ほか『ケースで学ぶ　実践への法学入門』中央経済社、2016年、2160円

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

法学の基礎（法的三段論法等）は身につけていることを前提とする。もし自信がない受講生は、参考文献に掲げた『実践への法学入門』を一読することをお勧めする。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 民事訴訟法　2単位

担当 法務研究科准教授 工藤敏隆

〔第１回〕 民事訴訟とは
訴訟と非訟
裁判外紛争解決手続（ADR）
民事裁判権・管轄
〔第２回〕 裁判所
訴えの提起
訴え受理後の手続
訴えの類型
〔第３回〕 当事者
訴訟上の代理人
第三者による訴訟担当
訴訟物
〔第４回〕 処分権主義
一部請求
重複訴訟の処理
口頭弁論
〔第５回〕 訴訟要件
訴えの利益
当事者適格
〔第６回〕 弁論主義
主張原則
釈明権
自白原則
〔第７回〕 争点整理手続
証明
証拠調べ手続
〔第８回〕 文書提出命令
自由心証主義
証明責任
裁判の種類
〔第９回〕 既判力
既判力の作用
既判力の基準時
〔第10回〕 既判力
既判力の客体的範囲
既判力の主体的範囲
〔第11回〕 訴えの取下げ
訴訟上の和解
請求の放棄・認諾
〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

・安西明子ほか『民事訴訟法（有斐閣ストゥディア）〔第２版〕』（有斐閣、2018年）

◆参考文献

・高橋宏志ほか『民事訴訟法判例百選〔第５版〕』（有斐閣、2015年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

民法（財産法）について履修済みであることが望ましい。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 破産法　2単位

担当 講師 河村好彦

ある者が経済的に破綻した場合にこれを放置しておくと、債務者に弁済を強要した冷たい（？）債権者は自己の債権の満足を受けることができるのに対し、債務者に同情してその自発的な弁済を待っていた優しい（？）債権者は債権満足の機会を失うという不公平が生じる。また債務者としても、自己の破綻状態を隠して経済活動を続けるときには経済的再起がますます困難になるし、さらには取引先、従業員その他の社会に与える影響も増大する。そこで、このような場合に対立するさまざまな利益を調整して適切な処置をとることを目的とする法体系が必要となる。これが倒産法である。

破産法は、倒産法のうちのもっとも基本となる法律である。実体法上の権利および法律関係は破産手続きにおいてダイナミックな変容を受ける。学生諸君は、先取特権、抵当権などの担保物権、また売買、賃貸借などの契約や連帯債務、保証債務などの債権関係が、破産によりどのような影響を受けるかを学習する。したがって、破産法を理解するためには民法の理解が不可欠の前提となるとともに、学生諸君は破産法の学習により実体法上の権利および法律関係についてのより深い理解が得られることになるであろう。本講義は以上のような実体法の変容についての検討に重点をおいた破産手続き全般の概説をその目的とする。

〔第１回〕 破産法と倒産法；倒産と破産、各種の倒産処理手続き
〔第２回〕 破産手続きの開始
〔第３回〕 破産手続きの機関、破産者のプラス財産の確定（その１）；破産財団
〔第４回〕 破産者のプラス財産の確定（その２）；破産財団の管理および換価、否認権
〔第５回〕 破産者のプラス財産の確定（その３）続・否認権
〔第６回〕 破産者のマイナス財産の確定（その１）；破産債権、財団債権、取戻権など
〔第７回〕 破産者のマイナス財産の確定（その２）；別除権、相殺権など
〔第８回〕 破産者をめぐる法律関係の処理（その１）；破産手続開始決定前からの契約などの処理
〔第９回〕 破産者をめぐる法律関係の処理（その２）；

続・破産手続開始決定前からの契約などの処理
〔第10回〕 破産者をめぐる法律関係の処理（その３）；係属中の民事訴訟、民事執行その他の手続きの処理、破産手続開始決定後の破産者の行為
〔第11回〕 破産手続きの終了；配当など
〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・伊藤眞『破産法・民事再生法〔第４版〕』（有斐閣、2018年）
・三上威彦『〈概説〉倒産法』（信山社、2018年）
・山本克己ほか編『破産法（新基本法コンメンタール）』（日本評論社、2014年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

講義には必ず六法（小型のものでよい）を持参すること。なお、試験では判例・解説なし六法のみ持込可とする。また、講義は民法に関する基礎的な知識を有していることを前提に進める。

◆成績評価方法

最終日に筆記試験を実施する。

科目 経済法　2単位

担当 講師 隅田浩司

本講義は、独占禁止法を中心とする経済法（競争法）の重要論点を、具体的な事件（判決、及び公正取引委員会審決、排除措置命令など）を素材とし、ケーススタディ形式で解説する。本講義の目的は、独占禁止法、下請法、そしてエネルギー、情報通信といった経済法関連領域における競争政策関連の法律について、その現在の議論の状況を理解するとともに、経済法の基本的な考え方、理論的な枠組みについての知識を提供することにある。講義で中心的に取り扱うことになるのは、独占禁止法となる。不当な取引制限、私的独占、不公正な取引方法、そして企業結合規制について、最新事例も紹介しつつ、重要論点を中心に解説を行う。また、経済法は、その科目の性質上、米国反トラスト法や欧州競争法など諸外国の法規制との比較や、国際的な執行協力も盛んであり、この講義でも、講義に関連する限りにおいて、諸外国の法規制についても言及する場合がある。

〔第１回〕 経済法への招待（経済法の基礎概念及び、競争政策の基本的な考え方について解説）
〔第２回〕 不当な取引制限の基礎理論（談合、カルテル等不当な取引制限の主要事例について解説）
〔第３回〕 不当な取引制限の論点分析（不当な取引制限に関する最近の重要論点を解説）
〔第４回〕 独占規制の基礎理論（排除型、排除型私的独占について主要事例を解説）
〔第５回〕 独占規制の論点分析（支配型私的独占、並びに独占規制に関する最近の重要論点を解説）
〔第６回〕 不公正な取引方法の基本構造（不公正な取引方法の基本構造および重要事例の解説）
〔第７回〕 不公正な取引方法の事例研究１（共同の取引拒絶、差別対価、不当廉売、抱き合わせ販売について解説）
〔第８回〕 不公正な取引方法の事例研究２（再販売価格維持行為、不当な拘束条件付取引、優越的地位の濫用、取引妨害などについて解説）
〔第９回〕 企業結合規制の基礎理論（企業結合審査手続及び審査内容に関する論点解説）
〔第10回〕 企業結合規制に関する事例分析（水平合併、垂直合併、混合合併に関する事例研究）
〔第11回〕 知的財産権と独占禁止法、独占禁止法の適用除外及び各種事業法との関係
〔第12回〕 独占禁止法の最新論点及び比較競争法入門、全体の総括

◆テキスト

・金井貴嗣、泉水文雄、武田邦宣（編）『別冊Jurist 経済法判例・審決百選〔第２版〕』（有斐閣、2017年）

◆参考文献

参考文献は、多岐にわたるため、適宜、講義中に指示する。

◆成績評価方法

原則として、最終日に行う試験の成績によって評価する。ただし、講義への積極的な参加（講師からの質問に対する積極的な発言など）があれば、プラス加点する。

科目 法制史　2単位

担当 講師 原 禎嗣

日本近代法制史に関する概論的講義を行う。

我が国は、過去に何回か大規模な外国法継受を経験した。そこには、他国の法制度を受け入れることで、自国の法や社会を進歩に導くという内政上の要求を満たすことは勿論だが、母法国と共通する文化的基盤を有する「先進国」として振る舞い、その国との外交関係の維持発展に繋げたいとの思惑も確かに存在した。

本講義では、近世末期に我が国が経験した西洋法との接触から、既存の東洋的法文化との相剋、西洋的近代法体制の樹立までを概観する。具体的には、江戸時代後期の法制度を概説した後、明治初年から新政府によってなされた制度の改変や立法例を読み解き、我が国の歴史上最大規模の法継受の跡を辿りたい。

明治の立法事業は、治安維持と治外法権撤廃というふたつの目的のため、刑事法分野が最も先行した。その後、基本法たる憲法、関税自主権との関連で整備が急がれたものの、曲折を経て最後に完成した民事法という順番で進んだ。そこで本講義においてもこの順番で論を進め、それぞれ立法における継受のかたち、何を受け入れ、何を受け入れなかったのかについても考察を加えたい。

思うに、明治維新という政変を境に、我が国の社会は大きな変化を遂げたように見える。法制度についても同様であり、少なくとも維新後、江戸期の法は悉く廃され西洋風の法体系に取って代わられた。しかしながら、社会を統べるルールは一朝にして改変しうるものではない。新たな法の背景に見え隠れする前時代的

なるもの、言い換えるならば「法感覚」「法意識」といった日本的特性が、制度の大規模な変革を乗り越えて繋がっている、と考えるほうがより自然であることが多い。そしてそれら特性の検討からは、法制史学のみならず、現行法の解釈、運用にあたっても重要な示唆を得ることができると考える。

〔第１回〕 受講上の諸注意
〔第２回〕 江戸期幕府法制の概観（基本法）
〔第３回〕 江戸期幕府法制の概観（刑事・民事法）
〔第４回〕 明治の国家体制の変遷
〔第５回〕 刑法の編纂（仮刑律・新律綱領）
〔第６回〕 刑法の編纂（改定律例・旧刑法）
〔第７回〕 刑事訴訟法の編纂
〔第８回〕 憲法の編纂（憲法思想）
〔第９回〕 憲法の編纂（編纂過程）
〔第10回〕 民法の編纂
〔第11回〕 復習
〔第12回〕 総括

◆テキスト

・霞信彦・原禎嗣他『日本法制史Ⅱ―中世・近世・近代―』（通信テキスト、2012年、法学部Ⅲ年度①配本）

◆参考文献

・霞信彦他『日本法制史史料集』（慶應義塾大学出版会、2003年）〔品切〕
・霞信彦『矩を踰えて―明治法制史断章』（慶應義塾大学出版会、2007年）

その他、参考となる文献は講義中適宜紹介する。

◆成績評価方法

最終日に筆記試験を実施する。

科目 法制史特殊　2単位

担当 講師 兒玉圭司

現在、私たちが扱っている法学は、西洋法と共通の原則・構造を有していますが、これらは明治期以降に導入されたものです。江戸時代までの日本には、当然ながら伝統法が存在していましたが、現在の法には一見して当時との連続性をみてとることができません。

では、なぜ日本は西洋法を継受せねばならなかったのでしょうか。また、伝統法から西洋法への切り替えはどのような形で行われていったのでしょうか。本講義では、明治期における司法の近代化（西洋化）をテーマとして、日本が西洋の法制度を取り入れることになった背景とその過程について、資料・史料を用いながら概観してみたいと思います。

講義では以下の内容を扱う予定ですが、一部変更する可能性があります。

〔第１回〕 ガイダンス――基礎法学としての法制史
〔第２回〕 「文明国」を目指して――不平等条約の締結とその解消
〔第３回〕 明治前期の国家機構
〔第４回〕 司法制度の整備――司法権の“独立”
〔第５回〕 明治初期の刑法典
〔第６回〕 刑法典の近代化（西洋化）
〔第７回〕 「憲法」をめぐる動き
〔第８回〕 民法典の編纂―民法典論争
〔第９回〕 明治期の法学教育と法運用を中心に
〔第10回〕 その後の法学のあゆみ
〔第11回〕 総括
〔第12回〕 日本における「監獄」の誕生

なお、講義は指定されたテキストのうち近代の部分を利用するほか、必要に応じてレジュメや資料プリントを配布し、活用します。

◆テキスト

・霞信彦ほか『日本法制史Ⅱ―中世・近世・近代―』（通信テキスト、2012年、法学部Ⅲ年度①配本）

◆参考文献

・浅古弘ほか編『日本法制史』（青林書院、2010年）
・川口由彦『日本近代法制史 第２版』（新世社、2015年）
・高谷知佳・小石川裕介編『日本法史から何がみえるか』（有斐閣、2018年）
・出口雄一ほか編『概説日本法制史』（弘文堂、2018年）

このほか、講義の中で随時、参考文献をご紹介します。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

特にありません。

◆成績評価方法

第11回の講義で実施する筆記試験によって評価します。

科目 社会学特殊　2単位

担当 法学部教授 澤井 敦

社会学的な思考法の本質をつかむために、いくつかの社会学の理論や基礎概念を、具体的な分析事例とともに解説する。社会学というツールをもちいて、現代社会のあり方を考え理解する力を身につけてほしい。

〔第１回〕 自我の社会性
〔第２回〕 役割演技と人間関係
〔第３回〕 社会的性格
〔第４回〕 主体の系譜学
〔第５回〕 感情の社会性
〔第６回〕 メディアの歴史的変遷
〔第７回〕 メディアと公共性
〔第８回〕 情報環境の理論
〔第９回〕 消費社会の理論
〔第10回〕 死のタブー化
〔第11回〕 補論：古典を読む
〔第12回〕 総括

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

参考文献は、授業中、テーマにおうじてそのつど紹介する。

◆成績評価方法

出席状況、および、最終日の試験による。

科目 マス・コミュニケーション論　2単位

担当 法学部教授 大石 裕
メディア・コミュニケーション研究所准教授 山腰修三

マス・コミュニケーションとジャーナリズムの政治的・社会的影響に関して講義する。
〔第１回〕 コミュニケーション、マス・コミュニケーション、ジャーナリズムのとらえ方
〔第２回〕 ジャーナリズムと権力（１）
〔第３回〕 ジャーナリズムと権力（２）
〔第４回〕 ジャーナリズムと権力（３）
〔第５回〕 ニュースの物語（１）
〔第６回〕 ニュースの物語（２）
〔第７回〕 メディア・フレームと社会運動
〔第８回〕 メディアの中の政治（１）：水俣病
〔第９回〕 メディアの中の政治（２）：沖縄基地問題
〔第10回〕 メディアの中の政治（３）：世論調査
〔第11回〕 まとめ、質疑応答
〔第12回〕 総括

◆テキスト
・大石裕『メディアの中の政治』（勁草書房、2014年）

◆参考文献
・大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』（勁草書房、2005年）
・大石裕編著『戦後日本のメディアと市民意識』（ミネルヴァ書房、2012年）
・大石裕『批判する／批判されるジャーナリズム』（慶應義塾大学出版会、2017年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件
講義内容は一見すると難解に見えますが、マス・コミュニケーションやジャーナリズムの実態を踏まえながら、できるだけわかりやすく講義を行うつもりです。受講者は、ニュースにできるだけ問題意識をもって接するようにしてください。逐次、時事問題解説も行う予定です。

◆成績評価方法
最終日の試験による。

科目 政治思想論　2単位

担当 法学部教授 堤林 剣

本講義では、「コスモス」・「運命」・「時間」・「法」などのカテゴリーを中心に西洋政治思想の特徴と歴史的展開を概観します。その際、ホメロス、悲劇詩人、トゥキュディデス、プラトン、アリストテレス、マキアヴェリ、ホッブス、ロック、ルソーらによる古典的著作に注目し、それらにまつわる多様な解釈やアイロニカルな政治的作用にも着目します。
〔第１回〕 政治思想（史）の主題と方法
〔第２回〕 古代ギリシアにおける神話の力とロゴスの挑戦
〔第３回〕 プラトンの政治思想
〔第４回〕 アリストテレスの政治思想
〔第５回〕 コスモポリタニズムと古代ローマの政治思想
〔第６回〕 中世の政治思想
〔第７回〕 マキアヴェリの政治思想
〔第８回〕 ホッブスの政治思想
〔第９回〕 ロックの政治思想
〔第10回〕 ルソーの政治思想
〔第11回〕 フランス革命以降の思想的展開
〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト
・堤林剣『政治思想史』（通信テキスト、2016年、法学部Ⅲ年度①配本）

◆成績評価方法
最終日の試験による。

科目 国際政治論　2単位

担当 法学部教授 田所昌幸

国際政治学入門
〔第１回〕 序説　学問としての国際政治学
〔第２回〕 国際政治理論の諸系譜
〔第３回〕 国際政治史の概括
〔第４回〕 20世紀国際政治史の回顧
〔第５回〕 事例研究：キューバ危機
〔第６回〕 外交政策論：アリソンの３つのモデル
〔第７回〕 外交政策論：国家間の戦略的依存関係について
〔第８回〕 国際政治のマクロ理論：国内類推による国際秩序論
〔第９回〕 国際政治のマクロ理論：市場類推による国際秩序論
〔第10回〕 試験と総括
〔第11回〕 講評とまとめ
〔第12回〕 若干の時事的考察

◆テキスト
・中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』（有斐閣、2013年）

◆参考文献
・デイヴィッド・A・ウェルチ，ドン・マントン『キューバ危機』（中央公論新社、2015年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
20世紀以降の国際政治史について、事前に大筋を理解しておいて下さい。

◆成績評価方法
授業中の試験による。

科目 政治理論　2単位

担当 講師 慶 済姫

政治学は基本的に権力に関する学問ともいえます。本講義の目的は、権力を中心にする政治学を理解するために、基礎的な政治理論とその政治理論を活用した実例を概観することにあります。講義では、現在民主主義の権力の元である市民の意思決定をコントロールする政治意識に関する理論、有権者や政治家の政治的な決定を行う行動に関する理論およびその実例などを考察します。
〔第１回〕 オリエンテーション
　　－　政治と権力

－　政治学の主要分野
－　本講義の構成
〔第２回〕　権力とイデオロギー１
－　イデオロギーの概念
－　日本、アメリカ、韓国におけるイデオロギーの区分
－　自由主義の展開１
〔第３回〕　権力とイデオロギー２
－　自由主義の展開２
－　福祉国家論
－　新自由主義
〔第４回〕　権力とイデオロギー３
－　民主主義論
－　エリート主義
－　多元主義
〔第５回〕　政治過程論１
－　政治過程の構成要因
－　組織的アクター（政党、利益団体）と政治理論
－　個人的アクター（政治家、有権者）と政治理論
〔第６回〕　政治過程論２
－　政治家と政治（理論と実証）：テキスト
〔第７回〕　公共選択論１
－　公共選択論の概念
－　合理的選択理論
－　選挙制度論：テキスト
〔第８回〕　公共選択論２
－　選挙制度の実証分析：テキスト
〔第９回〕　公共選択論３
－　投票行動の理論：テキスト
〔第10回〕　公共選択論４
－　投票行動の実証分析：テキスト
〔第11回〕　地方自治１
－　大都市制度の例：テキスト
〔第12回〕　地方自治２
－　財政調整・道州制：テキスト
－　総括
〔その他〕　小テスト

◆テキスト
・小林良彰他『代議制民主主義の計量分析』（木鐸社、2016年）

◆参考文献
講義の中で紹介する。

◆成績評価方法
最終日の試験による。

科目 政治過程論　２単位

担当 講師 金 宗郁

政治過程論では、政治的装置や制度が「行うと考えられている」ことでなく、主に「現実に行っている」ことを研究対象にして議論される。つまり、現実の社会を分析し、どのようにすれば、望ましい社会へ先進できるかということに主眼が置かれる。そこで、本授業では国レベル（前半）と地方レベル（後半）に分けて各政治制度に関する概観とともに、それをめぐる政治過程の現状と課題について検討する。それに加えて政治過程の一つのアクターである市民に関して市民参加と協働を取り上げて最近の動向と議論を踏まえながらそれらの現状と課題について検討する。

〔第１回〕　ガイダンス及び現代国家への発展過程
〔第２回〕　議院内閣制
〔第３回〕　公務員制度と改革
〔第４回〕　官僚行動論
〔第５回〕　公共政策論
〔第６回〕　地方自治制度
〔第７回〕　地方分権改革の現状と課題
〔第８回〕　自治体の統治構造：二元代表制の現状と課題
〔第９回〕　自治体の行政改革：NPM（New Public Management）Ⅰ
〔第10回〕　自治体の行政改革：NPM（New Public Management）Ⅱ
〔第11回〕　市民参加と熟議民主主義への挑戦
〔第12回〕　総括及び試験

◆テキスト
プリントを適宜配布する。

◆参考文献
・真渕勝『行政学』（有斐閣、2009年）
・村上弘・佐藤満『よくわかる行政学〔第２版〕』（ミネルヴァ書房、2016年）
・金宗郁『地方分権時代の自治体官僚』（木鐸社、2009年）
・稲継裕昭『地方自治入門』（有斐閣コンパクト、2011年）
・篠原一編『討議デモクラシーの挑戦』（岩波書店、2012年）

◆成績評価方法
最終日の試験による。

科目 政治学特殊　２単位

担当 法学部教授 河野武司

本講義の目的は、現代政治学のみならず様々な学問領域で必須となっている計量分析の方法の基本について、パソコンを使った実習を通して学びます。卒論のテーマによっては、自分が主張したいことを実証するために、数値データを統計学的に処理しなければならない場合が多々あります。このような学生諸君の需要や希望にも応えられるようにしたいと考えています。なお、以下の講義計画は暫定的なものであり、順序や内容について若干の変更がある場合もあります。

〔第１回〕　計量的な分析の手順と信頼性・妥当性
リサーチプロセスの循環的８段階
①問題意識、②既存研究の確認、③仮説構築、④仮説中の概念の操作化、⑤研究のデザイン、⑥データの収集、⑦分析、⑧理論化
〔第２回〕　データの種類と統計的手法
名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比率尺度
〔第３回〕　データの視角化
ヒストグラムと散布図

〔第４回〕 データの数値要約
中心化傾向（平均・分散・歪度・尖度）
〔第５回〕 統計的仮説検定
帰無仮説、両側検定・片側検定、有意水準（危険率）
〔第６回〕 質的変数における２変数間の関連の分析
クロス表分析と独立性の検定
〔第７回〕 量的変数における２変数間の関連の分析①
相関分析→２変数間の連関の度合い
〔第８回〕 量的変数における２変数間の分析②
単回帰分析→原因（独立変数）が結果（従属変数）に及ぼす影響の度合い
〔第９回〕 多変数間の構造の分析と未来のコントロール
重回帰分析→複数の原因が結果にどのような影響を及ぼしているか
〔第10回〕 未来の予測
直線予測と曲線予測
〔第11回〕 従属変数が２値（ダミー変数）の場合の判別分析
２項ロジスティック回帰分析
〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト
・米谷学『７日間集中講義！　Excel統計学入門』（オーム社、2016年）

◆参考文献
・須藤康介・古市憲寿・本田由紀『文系でもわかる統計分析』（朝日新聞出版、2012年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
受講者は30人を上限とします。それを超える希望者がある場合には抽選を行います。実習形式の授業です。毎回の出席が欠かせません。また授業で使用するソフトはExcelを予定しています。Excelのことは知らなくても、パソコンの操作方法を熟知していることを受講の前提条件とします。統計学や数学の知識は必須ではありません。

◆成績評価方法
最終日の試験と私の問いかけに対する回答などの普段の授業に対する貢献を総合して評価します。

科目 日本政治史　２単位

担当 法学部教授 玉井 清

本授業は、日本政治史研究の現状と課題について、戦後のGHQによる占領統治下、我が国の中で醸成された歴史観に注目しながら考察を加え、現代の日本人が抱く歴史観、さらには政治社会観の淵源を探り、その特徴を浮き彫りにすることを目指している。

最初に、考察の前提として、歴史研究の意義と注意点を明らかにしたいと考えている。その上で、上記の問題意識に基づき近代の日本政治の実態を解き明かしていく。本授業は、明治から昭和戦前までの政治、軍事、社会、文化を対象とするが、とりわけ日中戦争から日米開戦を経て敗戦に至るまでの戦時下の政治あるいは社会現象に注目し、その内実の解説に重点を置く予定であり、それらの事象が戦後どのように封印、あるいは変容され語られるようになったかを検証する。

〔第１回〕 授業方針及び歴史研究の意義についての解説
〔第２回〕 歴史研究の基礎（１）現代から過去を照射する時の注意点
〔第３回〕 歴史研究の基礎（２）過去を内在的に理解することの重要性
〔第４回〕 資料（選挙ポスター）から読み解く日本政治史研究実践編（１）
〔第５回〕 資料（選挙ポスター）から読み解く日本政治史研究実践編（２）
〔第６回〕 近代日本と戦争
〔第７回〕 戦後日本の戦争観とその問題点
〔第８回〕 近代日本人の国家観と国際秩序観
〔第９回〕 占領統治下の言論空間
〔第10回〕 占領下封印された言論の内実について（１）―歌で読み解く日本精神史―
〔第11回〕 占領下封印された言論の内実について（２）―歌で読み解く日本精神史―
〔第12回〕 総括

◆テキスト
指定しない。関連資料のプリントを適宜配布。

◆参考文献
・玉井清『第一回普選と選挙ポスター』（慶應義塾大学出版会、2013年）
・江藤淳『閉された言語空間―占領軍の検閲と戦後日本』（文藝春秋、1994年）
・平野共余子『天皇と接吻』（草思社、1998年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件
授業中の飲食私語厳禁。

◆成績評価方法
最終日の試験による。

科目 日本政治論　２単位

担当 講師 小田義幸

日本の政治をめぐる様々な言動は日々、メディアやインターネットを通じて国民に伝えられますが、断片的な政治現象を批評するだけでは日本の政治を理解したことにはなりません。日本政治を体系的に学び、歴史的視点や理論的視点から日本政治を見つめ直すことが欠かせません。本講義では、立法・行政・選挙・地方政治・マスメディアに焦点を当て、かつ、政治学的要素や政治史的要素を織り交ぜながら現在に至る日本政治について学んでいただき、そのダイナミズムの一端を知った上で真の理解へと受講者を導いていくつもりです。

〔第１回〕 オリエンテーション・日本政治をめぐる見方について考える
〔第２回〕 日本国憲法の誕生・憲法改正をめぐる昨今の論議
〔第３回〕 日本の立法過程（国会の役割と機能・与党の事前審査など）
〔第４回〕 日本の政党①（五十五年体制の成立・派閥の政治的機能・派閥と戦後政治）
〔第５回〕 日本の政党②（五十五年体制崩壊後の派閥・後援会活動とその実態）
〔第６回〕 日本の選挙制度（選挙制度改革と日本政治・

小選挙区比例代表並立制の導入・一票の格差をめぐる問題）
〔第７回〕 投票行動と日本の選挙（無党派の動向と選挙結果・アナウンスメント効果）
〔第８回〕 日本の内閣制度とその機能強化
〔第９回〕 日本の官僚制・中央省庁再編とその成果
〔第10回〕 日本の地方政治（機関委任事務の廃止・三位一体改革の実施など）
〔第11回〕 マスメディアと日本政治（記者クラブ制度の功罪・テレビ報道のあり方など）
〔第12回〕 総括・試験
〔その他〕 課題・レポート、小テスト

◆テキスト
プリントを適宜配布する。

◆参考文献
・久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真渕勝『政治学（補訂版）』（有斐閣、2011年）
・新藤宗幸・阿部齊『現代日本政治入門』（東京大学出版会、2016年）
・真渕勝『行政学』（有斐閣、2009年）
・北岡伸一『自民党　政権党の38年』（中央公論新社、2008年）
・竹中治堅『首相支配　日本政治の変貌』（中央公論新社、2006年）
・竹中治堅『参議院とは何か　1947～2010』（中央公論新社、2010年）
・飯尾潤『日本の統治構造 官僚内閣制から議院内閣制へ』（中央公論新社、2007年）
・川人貞史『シリーズ日本の政治１　議院内閣制』（東京大学出版会、2015年）
・待鳥聡史『シリーズ日本の政治６　政党システムと政党組織』（東京大学出版会、2015年）
・増山幹高『シリーズ日本の政治７　立法と権力分立』（東京大学出版会、2015年）
・谷口将紀『シリーズ日本の政治10　政治とマスメディア』（東京大学出版会、2015年）
※その他の文献については授業中に適宜紹介します。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
初学者でも受講可能です。

◆成績評価方法
最終日の試験（70％）＋小テスト（30％）
※授業終了30分前、授業に関する設問に対して論述形式で解答してもらい、授業終了後に提出していただきます〔最終日を除く毎回の授業で実施予定〕。

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、法学部専門教育科目として卒業単位に含むことができる科目です。

科目 哲学（専門） 2単位
担当 講師 木下頌子 ／ 講師 石田隆太

文学部専門教育科目「哲学（専門）」（94頁）を参照してください。

科目 倫理学（専門） 2単位
担当 文学部助教 村上暁子

文学部専門教育科目「倫理学」（95頁）を参照してください。

科目 社会学（専門） 2単位
担当 文学部教授 岡原正幸 ／ 講師 澤田唯人

文学部専門教育科目「社会学（専門）」（96頁）を参照してください。

科目 心理学（専門） 2単位
担当 文学部准教授 伊澤栄一

文学部専門教育科目「心理学（専門）」（98頁）を参照してください。

科目 図書館・情報学 2単位
担当 文学部教授 根本 彰

文学部専門教育科目「図書館・情報学」（99頁）を参照してください。

科目 経済原論（ミクロ経済学） 2単位
担当 経済学部教授 穂刈 享

経済学部専門教育科目「経済原論（ミクロ経済学）」（108頁）を参照してください。

科目 経済原論（マクロ経済学） 2単位
担当 講師 西　孝

経済学部専門教育科目「経済原論（マクロ経済学）」（108頁）を参照してください。

科目 ゲーム理論 2単位
担当 経済学部教授 穂刈 享

経済学部専門教育科目「ゲーム理論」（108頁）を参照してください。

科目 経済史　2単位

担当 講師 ドルネッティ，フィリッポ

経済学部専門教育科目「経済史」（109頁）を参照してください。

科目 日本経済史　2単位

担当 講師 青木 健

経済学部専門教育科目「日本経済史」（109頁）を参照してください。

科目 社会政策　2単位

担当 講師 齋藤香里

経済学部専門教育科目「社会政策」（110頁）を参照してください。

科目 社会福祉論　2単位

担当 講師 永井攻治

経済学部専門教育科目「社会福祉論」（110頁）を参照してください。

科目 経済政策　2単位

担当 経済学部教授 藤田康範 ／ 講師 鄭 雨宗

経済学部専門教育科目「経済政策」（111頁）を参照してください。

科目 財政論　2単位

担当 講師 島村玲雄

経済学部専門教育科目「財政論」（111頁）を参照してください。

科目 金融論　2単位

担当 講師 溝口哲郎

経済学部専門教育科目「金融論」（112頁）を参照してください。

科目 公共経済学　2単位

担当 講師 金子 憲 ／ 講師 金子 光

経済学部専門教育科目「公共経済学」（112頁）を参照してください。

科目 国際経済学　2単位

担当 講師 久野 新

経済学部専門教育科目「国際経済学」（113頁）を参照してください。

科目 国際金融論　2単位

担当 講師 田中 巌

経済学部専門教育科目「国際金融論」（114頁）を参照してください。

科目 国際貿易論　2単位

担当 講師 田中 巌

経済学部専門教育科目「国際貿易論」（114頁）を参照してください。

科目 世界経済論　2単位

担当 講師 久野 新

経済学部専門教育科目「世界経済論」（114頁）を参照してください。

科目 会計学　2単位

担当 講師 高瀬 央

経済学部専門教育科目「会計学」（115頁）を参照してください。

科目 保険学　2単位

担当 講師 神田恵未

経済学部専門教育科目「保険学」（116頁）を参照してください。

5　教養研究センター設置講座

科目　身体知―創造的コミュニケーションと言語―　2単位

担当　法学部教授 横山千晶

本講座は、参加型・体験型の授業を通して、知力と身体感覚を相互的に磨き、言語力と非言語的コミュニケーション力の双方を育む、新しいタイプの授業です。

通学生と通信教育課程の学生がともに学ぶことも大きな特徴です。今年は「自分と他者」というテーマに着目して、作品と他者とのコミュニケーションから得た着想を、自らの創作につなげ、さまざまな表現媒体を使ったグループ創作を行います。最終的な作品は公開の形で発表します。

最近は声に出して読むこと自体が少なくなってきましたが、このクラスではまず朗読を通して自らの声、そして自分の身体表現を発見し、続いて「聞く」ことを経て、さまざまなメディアや発表形態を使った創作へとつなげていきます。クラスでは以下のプロセスを踏んでいきます。

１．自分の言葉と解釈を見つける
テーマに基づいた作品を読みます。グループワークを通して議論することで、異なる意見に出会います。

２．声に出す
続いて朗読することで、自らの声をみつける作業を行います。うまく読む必要はありません。むしろ、自分らしい「声」を見出してください。どの文章を読んでいるときに一番声が出やすいか、どの文章を読むことが好きか、読むことで解釈は変わってくるか。そして同じ文章でも他人が読むとどう解釈できるのか、を意識してみます。

３．さまざまな「身体感覚」と「表現法」を使ってみる
声の次は自分の体と表現法に注目します。違う場所で朗読すると言葉がどう異なって解釈できるか。言葉を絵にしてみるとどうか、体を使って表現してみるとどうか。パロディにしてみるとどうか。さまざまな表現の可能性を身体を通じて模索してみます。

４．聞く、そして創作する
その次は「聞く」作業に入ります。他者の話を聞くことから、その話の新たな解釈へとつなげ、そこからグループで創作活動を行います。１～３で踏んできたプロセスを活かしてください。

５．発表する
最終作品は創作発表会として一般に公開します。発表のあとで聴衆との意見交換を行います。発表の形態については授業の中で皆で話し合っていきます。

本授業は、参加・体験型授業で最大限の効果を挙げるために、夏休みに集中講座として実施します。１日に２コマ分の授業（90分×２）を４日行った後、３コマ分の授業（90分×３）を２ 日行い、最終日の３コマ中、最後の２コマを成果発表会にあてます。

授業は８月12日（月）～17日（土）の６日間を予定しています。開始時間は13時とし、３限（13時～14時30分）、４限（14時45分～16時15分）を用い、それに加えて、16日と17日は５限（16時30分～18時）も用います。

授業計画は以下の通りです。

（８月12日）
〔第１回〕　身体ワークショップ１
〔第２回〕　作品１を読む
（８月13日）
〔第３回〕　作品１の朗読とディスカッション
〔第４回〕　身体ワークショップ２
（８月14日）
〔第５回〕　作品２を読む
〔第６回〕　他者の朗読を聞いて、話し合う
（８月15日）
〔第７回〕　表現ワークショップ１
〔第８回〕　他者の話を聞く
（８月16日）
〔第９回〕　表現ワークショップ２
〔第10回〕　他者の話を基に話し合う
〔第11回〕　創作の準備をする１
（８月17日）
〔第12回〕　創作の準備をする２
〔第13回〕　プレゼンテーション
〔第14回〕　プレゼンテーション・観客との対話とクラスでの振り返り
〔その他〕　振り返り

◆テキスト
プリントを用意します。

◆参考文献
随時紹介します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件
演劇などの身体表現の経験のあるなしや朗読の得意・不得意はまったく問いません。むしろ、人前で何かを表現したことのない人、そのような勇気が今までなかった人を歓迎します。授業では日本語を使って作品を読みます。

グループ・ワークが主体の授業ですので、無断欠席と遅刻は厳禁です。

◆成績評価方法
平常点（授業への積極的な参加、課題）：50％
最終成果発表会：50％

◆分類
総合教育科目　３分野科目（人文科学分野）となります。

◆募集人員
募集人数は通信教育課程生　10名（受講者総数は20名で通学課程生10名との合同授業となります。）

◆履修手続について
この授業を履修するためには別途申し込みが必要です。詳細は本書14頁を参照してください。

◆履修者の選抜について
応募者の申込理由などで審査し、教養研究センターが10名選抜します。受講を許可された学生には６月中に通知します。

◆質問・相談
chacky@keio.jpまでメイルでどうぞ。

6 教職課程専門教育科目

教職に関する専門教育科目

科目 現代教師論　2単位

担当 教職課程センター教授 佐久間亜紀

〔授業の到達目標及びテーマ〕
日本における教職の実際や果たす役割の意義を理解し、自らの教職への適性について考える。
〔授業の概要〕
日本の教職の現状や社会的意義の特徴を、各種データや映像分析を用いた国際比較によって具体的に理解するとともに、期待される教員像や働き方について多角的に検討する。
〔第1回〕 オリエンテーション
〔第2回〕 教師をめざす
〔第3回〕 日本の教職の特徴－国際比較から
〔第4回〕 日本の教職の特徴－他の専門職との比較から
〔第5回〕 教師像の変遷－教員と教師の違い
〔第6回〕 教師像の変遷－専門家としての教師像
〔第7回〕 学校現場の実際－公立学校の事例
〔第8回〕 学校現場の実際－私立学校の事例
〔第9回〕 子どもの実際－いじめの観点から
〔第10回〕 子どもの実際－セクシャル・マイノリティの観点から
〔第11回〕 専門家としての教師－リフレクションとは
〔第12回〕 教職の職務と責任－チーム学校への対応
〔その他〕 課題・レポート、小テスト、その他kcc-channel等で通知する事前課題を行った上で出席すること

◆テキスト
・佐久間亜紀編著『現代の教師論』（ミネルヴァ書房、2019年）
◆参考文献
・油布佐和子編『現代日本の教師』（放送大学教育振興会、2015年）
◆成績評価方法
毎回の授業で出すアクティビティ成果物・小レポート（50%）、試験（50%）

科目 国語科教育法　3単位

担当 講師 中地譲治

「読む」「書く」「話す」「聞く」の実践を通して、言葉の適切な表現と正確な理解とを目指します。「よむ」は「かぞえよみあげる」ことであり、「はなす」は「てばなす」、「きく」は「からだでうけとめる」、さらには「ききかえす=とう」ことです。そこに「あとをのこす」ことである「かく」が加わると、「読む」「書く」「話す」「聞く」の言語活動が総合的に展開します。この言語活動を通して言葉に対する認識が更新され、言葉を大切にする気持ちが自ずと表情に現れます。

教科教育法の授業では、履修者が教員になってみて、生徒にもなってみて、実際の教室と同じ体験をすることが求められます。そのためには授業は参画的でなければなりません。履修者それぞれが18回にわたる授業の参画者となって、「国語」の成り立ち、教材研究、指導方法、評価の問題等々を協働して考え、実践しましょう。話題にしたいことを挙げておきます。
（1）「国語」とは?
（2）学習指導要領の動向―アクティブ・ラーニングへの注目
（3）実践に生かせる指導案づくり
（4）言語活動としての「読む・書く・話す／聞く」
（5）「考える」ことと「見る」こと―PISA型学力とは?
教育実習を前提にした模擬授業を行うこともこの授業に求められています。履修者の人数によって時間配分は変わりますが、計画―実践―反省というサイクルを二回は経験できるようにしたいと思います。模擬授業を行うために考えるべきことを挙げておきます。
（1）「教材選択」と「教材研究」
（2）生徒が主体になるための「言語活動」
（3）「質問」と「発問」―問うことの意味
（4）「形成的評価」のためのテスト問題
（5）学びの継続性と「自己啓発」
授業計画を次に示します。講義とラベルワーク（複写式のラベルを用いたアクティブ・ラーニング）と模擬授業とが一体になって進みます。
〔1日目〕 言語行為の成り立ち―国語教育の基盤を考える
1時間目 「話す・聞く」と「読む・書く」―ラベルとラベルトーク
2時間目 発問の意味と方法―自己形成的な国語力とは
3時間目 知識創造と参画教育―ゲストを招いて
〔2日目〕 国語教育の現在―今を生きるための言葉を求める
4時間目 「生きる力」と「PISA型学力」
5時間目 「見る」ことの学力観―映像テキストに即して
6時間目 私の授業実践①―ゲストを招いて
〔3日目〕 現代文テキストに即して―論理と共感とを取り結ぶ
7時間目 現代文テキストでの模擬授業①
8時間目 現代文テキストでの模擬授業②
9時間目 現代文テキストでの模擬授業③
〔4日目〕 言語活動―“言葉を生きる”ための身体技法
10時間目 言語活動の実践①
11時間目 言語活動の実践②
12時間目 私の授業実践②―ゲストを招いて
〔5日目〕 古典テキストに即して―この風土に生かさ

れる
13時間目　古典テキストでの模擬授業①
14時間目　古典テキストでの模擬授業②
15時間目　古典テキストでの模擬授業③
〔６日目〕 まとめと課題―“経験知”を形にする
16時間目　この授業の自己評価項目をつくる―「ラベル図考」の共同作製
17時間目　“私の変容”を形にする―「学びのプロセス図解」の作製
18時間目　図解を論述する―「学びのプロセスレポート」「自己評価レポート」の作製

※以上は昨年度の展開ですが、本年度はゲストの都合などにより若干の変更があります。

◆テキスト

・オリジナルテキストを準備します。
・『中学校学習指導要領解説「国語編」（平成29年）』と『高等学校学習指導要領解説「国語編」（平成30年）』文部科学省（文部科学省のホームページからもダウンロードできる）を準備してください。

◆参考文献

・町田守弘編『実践国語科教育法「楽しく、力のつく」授業の創造〔第三版〕』（学文社、2019年）（市販書採用科目「国語科教育法Ⅰ」指定テキスト）
・林義樹編『ラベルワークで進める参画型教育―学び手の発想を活かすアクティブ・ラーニングの理論・方法・実践 』（ナカニシヤ出版、2015年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

教科教育法という科目は、知識の蓄積・整理という側面と、授業実践という側面とがバランスよく配列・展開されなければなりません。したがって個々人ではなく教室全体で学んでいくことになります。教室に居合わせること（スクーリング）を、豊かな協同経験=言語経験に高めることが大切です。そのためには、授業への主体的な参画意欲がなければなりません。また、週一回の授業であれば宿題は翌週までにこなせばよいのですが、６日連続１日105分×３時間の授業では、毎晩課題をこなさなくてはなりません。体調を整え、集中して取り組んでください。また、授業参画のために「ラベルワーク」を用います。双方向的、多方向的な授業になるので、活動的に楽しく取り組めます。

◆成績評価方法

平常点（毎回の「ラベルワーク」への取り組み）と模擬授業（教案作成も含む）の内容、および課題（「学びのプロセス図解」「学びのプロセスレポート」「自己評価レポート」の作成）を総合して評価します。教員からの一方的な評価ではなく、相互評価を通して自己評価を行えるような授業ができるように、履修者自身もその方法を経験していきます。

科目 国語科教育法特論Ⅲ　２単位

担当 講師 鈴木 彩

次期学習指導要領においては「主体的・対話的で深い学び」を実現すべく「アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善」が推進されるなど、授業において求められる方法論は常に変わりつつあります。その一方で「基礎的・基本的な知識及び技能」の確実な習得も重視される以上、実際の教育現場では、従来の講義型の学習と、協働学習・発見学習を主体としたアクティブ・ラーニングを組み合わせながら、試行錯誤が行われているのが現状であろうと考えられます。

本科目では、模擬授業の実施、実際に行われている授業実践の検討、定番教材を中心とした教材研究などを通して、実践的な視点から「これまでの国語」の授業、そして「これからの国語」の授業について、皆様と共に考えたいと思っています。

まず、中心となるのは模擬授業です。下記の「受講上の要望または受講上の前提条件」にも書きました通り、授業が始まる前に、任意の教材を選び、学習指導案の作成に取り組んでください。３日目以降に模擬授業を実施し、その後、内容に応じたいくつかのトピック（例えば「現代文の教え方」「古典の教え方」「単元・授業の構成」「効果的な発問・板書」「グループ学習」「表現活動」など）を取り上げ、フィードバックを行います。

また、それに先立って実際の授業実践を紹介したり、教材研究の方法・試験問題の作成方法について検討したりなど、具体的な話題に即しつつ、各自で思考を巡らせ、時にはグループでの共有や意見の発表をしながら、国語教育の可能性や課題について考察を深めます。

なお、下記のスケジュールは、受講者の人数などに応じて、順番や回数が変更される可能性がありますので、ご了承ください。詳細は第１回目の授業にてお話しします。

〔第１回〕 ガイダンス――国語教育の意義――
〔第２回〕 学習指導要領と学習指導案
〔第３回〕 授業研究Ⅰ――教育実践論文の検討――
〔第４回〕 授業研究Ⅱ――教育実践論文の検討――
〔第５回〕 模擬授業と相互評価・教員からのフィードバックⅠ
〔第６回〕 模擬授業と相互評価・教員からのフィードバックⅡ
〔第７回〕 模擬授業と相互評価・教員からのフィードバックⅢ
〔第８回〕 模擬授業と相互評価・教員からのフィードバックⅣ
〔第９回〕 教材研究Ⅰ――定番教材をどう教えるか――
〔第10回〕 教材研究Ⅱ――定番教材をどう教えるか――
〔第11回〕 試験問題研究・作成
〔第12回〕 総括
〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

高校または中学校の国語教科書を手元に用意してください。また、その中から任意の教材（目安として授業が４～５時間で完結するもの）を選んで学習指導案を作成し、初日の授業に持参してください。学習指導案は、３日目以降の模擬授業実施日までに修正をしても構いません。

なお、次期学習指導要領は文部科学省のウェブサイトで公開されています。現行の指導要領と合わせて、

受講前に目を通しておくと、授業がより理解しやすくなることと思います。

◆成績う評価方法

模擬授業（学習指導案を含む）、平常点（参加態度、コメントペーパーの提出など）、レポート課題（受講者が多い場合は試験）を総合して評価します。

科目 社会科・地理歴史科教育法特論Ⅲ　2単位

担当 講師 中間和洋

これから皆さんが社会科・地理歴史科の教育実習を行っていく上で、必要な教科指導に関する知識や実践的な技能を身につけていくことが本講座の狙いです。「社会科･公民科教育法特論Ⅲ」同様、教材研究の方法、授業案の作成、それに基づく模擬授業の実施、学生・担当教員を交えた意見交換と相互評価などを行います。また、受講者の人数によっては、学習指導案の作成事例、体験的な学習活動を生かした授業の在り方を探求する視点から、「社会科・公民科教育法特論Ⅲ」と合同で、大学キャンパス内や、周辺地域の見学なども実施する予定です。

〔第１回〕ガイダンスⅠ〔社会科・地理歴史科の授業について〕
〔第２回〕ガイダンスⅡ〔模擬授業のテーマについて〕
〔第３回〕社会科・地理歴史科の内容構成
〔第４回〕年間指導計画と学習指導案の作成指針
〔第５回〕学習指導案の作成Ⅰ
〔第６回〕模擬授業・学習指導案についての意見交換、相互評価Ⅰ
〔第７回〕模擬授業・学習指導案についての意見交換、相互評価Ⅱ
〔第８回〕模擬授業・学習指導案についての意見交換、相互評価Ⅲ
〔第９回〕模擬授業・学習指導案についての意見交換、相互評価Ⅳ
〔第10回〕模擬授業・学習指導案についての意見交換、相互評価Ⅴ
〔第11回〕模擬授業・学習指導案についての意見交換、相互評価Ⅵ
〔第12回〕大学キャンパス内及び周辺地域のフィールドワーク、振り返り
〔その他〕課題・レポート

◆テキスト

・文部科学省『中学校学習指導要領解説　社会編』（日本文教出版、2014年）
　各自PDFをダウンロードすること
・文部科学省『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』（教育出版、2014年）
　各自PDFをダウンロードすること
・「文部科学省検定済教科書　中学校社会科または高等学校地理歴史科」分野・科目・出版社不問。

ただし、模擬授業を実施する科目・分野の教科書を用意してください。新規購入する場合は、教科書販売専門店で購入してください。東京では、「第一教科書」〔新宿区百人町１-22-20、中央線大久保駅南口徒歩１分、03-3363-2764〕で購入してください。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

「社会科・公民科教育法特論Ⅲ」同様、模擬授業等の演習中心の授業となるため、欠席や遅刻はしないでください。開講時の「ガイダンス」を通じて受講生に各自が担当する模擬授業のテーマを決めていただきます。教材研究、学習指導案の作成を進めていくために、実習予定科目､専攻分野等も考慮して､いくつかのテーマをあらかじめ考えておいてください。また、扱う科目・分野の教科書や副教材等は事前に用意してください。

◆成績評価方法

最終レポートと平常点（出席状況を含む）により評価します。平常点は、模擬授業に対する取り組み姿勢、学習指導案の内容、指導案に基づく授業展開、相互評価の観点、毎時間提出する小レポートなどによります。

科目 社会科・公民科教育法特論Ⅲ　2単位

担当 講師 太田正行

教育実習に必要な教科指導に関する知識や技能を実践的に学ぶことを目的とする。教材研究の方法や授業案の作成、それに基づく模擬授業の実施、受講生同士の相互評価などを行う。また、学外の地域巡検や資料館見学なども実施する予定。

〔第１回〕ガイダンス
〔第２回〕社会科・公民科の内容構成
〔第３回〕年間指導計画と学習指導案の作成
〔第４回〕学習指導と評価
〔第５回〕模擬授業（１）
〔第６回〕模擬授業（２）
〔第７回〕模擬授業（３）
〔第８回〕模擬授業（４）
〔第９回〕模擬授業（５）
〔第10回〕模擬授業（６）
〔第11回〕模擬授業（７）
〔第12回〕模擬授業のまとめ
〔その他〕課題・レポート

◆テキスト

・文部科学省『高等学校学習指導要領解説　公民編』改訂版（教育出版、2015年）
・文部科学省『中学校学習指導要領解説　社会編』改訂版（日本文教出版、2015年）

※各「学習指導要領解説」は、各自で購入すること。
　なお、PDFをダウンロードすることもできる。

◆参考文献

・日本公民教育学会『テキストブック公民教育』（第一学習社、2013年）
・日本公民教育学会『公民教育事典』（第一学習社、2009年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

中学校または高等学校で使用している文部科学省検定済教科書を用意してください。三田の大学図書館にもあります。科目や分野は、自分が模擬授業を行うものがよいでしょう。

◆成績評価方法

平常点(指導案の作成や模擬授業への取り組みなど)と小レポート、最終レポートで評価する。

科目 英語科教育法　3単位

担当 講師 渋谷和郎

〔目的・目標〕
将来、英語教育に携わろうと考えている者を対象に、日本の中学校・高等学校の英語教師として最低限必要と思われる理論・技術/実践について学ぶ。
〔学習項目〕
（1）カリキュラム　・目的論
　・カリキュラム　・学習指導要領　・目的論
（2）学習対象言語論
　・教材　・教科書
（3）学習者論
　・普遍的要因　・個人的要因
（4）教師論
　・教授法
（5）評価論
　・評価論（授業評価・学習者評価）　・テスト論
（6）各論
　・Speaking　・Listening　・Writing
　・Reading　・Grammar
（7）実践論
　・指導案　・模擬授業　・授業分析
（8）これからの英語教師・英語教育
〔授業予定（計18コマ）〕
・スクーリングの前半は、講義を通して英語科教育法の理論的側面を、後半は、模擬授業を通じて実践的な側面を学ぶ。
・授業では、参加者主体のディスカッション・アクティビティなども行う。
・模擬授業は各自1 回（20分）を担当する。それぞれの模擬授業の後に、10分のフィードバック・セッションを行い、主観的・客観的に授業を振り返る。模擬授業では、参加者は自ら模擬授業を実践するだけでなく、他の人の授業評価も行う。

授業	内容	教科書該当箇所
〔第1回〕	Introduction・目的論	〔第1・2章〕
〔第2回〕	学習指導要領（1）	〔第3章〕
〔第3回〕	学習指導要領（2）	〔第6・9章〕
〔第4回〕	学習者論	〔第4・8章〕
〔第5回〕	方法論（1）	〔第5章〕
〔第6回〕	方法論（2）	〔第7・14章〕
〔第7回〕	教材論	〔第16・17章〕
〔第8回〕	評価論	〔第15・20章〕
〔第9回〕	模擬授業準備	〔第12・18・20章・教案例〕
〔第10回〕	模擬授業（1）（3名）	
〔第11回〕	模擬授業（2）（3名）	
〔第12回〕	模擬授業（3）（3名）	
〔第13回〕	模擬授業（4）（3名）	
〔第14回〕	模擬授業（5）（3名）	
〔第15回〕	模擬授業（6）（3名）	
〔第16回〕	模擬授業（7）（3名）	
〔第17回〕	模擬授業（8）（3名）	
〔第18回〕	総括・筆記試験	

◆テキスト
・望月昭彦編、久保田章・盤崎弘貞・卯城祐司著『新学習指導要領にもとづく英語科教育法〔第3版〕』(大修館書店、2018年)
◆参考文献
・高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』（金星堂、2011年）
・バトラー後藤裕子『日本の小学校英語を考える』(三省堂、2005年)
・バトラー後藤裕子『英語学習は早いほど良いのか』(岩波新書、2015年)
・白井泰弘『英語教師のための第二言語習得論入門』(大修館書店、2012年)
＊その他、必要に応じて、授業の中で関連する参考文献を紹介します。
◆受講上の要望または受講上の前提条件
予定表の講義項目に沿って、教科書該当箇所を事前に読んで授業に出席すること。
◆成績評価方法
（1）出席15%　（2）授業内活動10%　（3）模擬授業（教案作成も含む）25%　（4）筆記試験50%

科目 英語科教育法特論Ⅲ　2単位

担当 文学部教授 中村優治

将来、英語教育に携わることを希望する者を対象としており、英語科教育法の理論の更なる理解と共に、言語テストの理論と実践をも生かした授業実践方法を研究します。授業は指導と評価の融合を念頭におきつつ、特に、言語テスト理論の説明とテスト問題作成実践を中心に展開します。受講者はお互いが提供したテスト問題例をテスト理論と実践の両面から分析し、よりよい評価、授業に向けて、アイデア、問題点の共有、問題の解決をめざして活発な討論をしてほしいと考えています。
〔第1回〕 イントロダクション
〔第2回〕 リスニングテスト理論講義
〔第3回〕 リスニングテスト問題作成、討論
〔第4回〕 スピーキングテスト理論講義
〔第5回〕 スピーキングテスト問題作成、討論
〔第6回〕 リーディングテスト理論講義
〔第7回〕 リーディングテスト問題作成、討論
〔第8回〕 ライティングテスト理論講義
〔第9回〕 ライティングテスト問題作成、討論
〔第10回〕 統合的テスト理論講義（CLIL、EMIも含む）
〔第11回〕 統合的テスト問題作成、討論
〔第12回〕 総括
◆テキスト
プリントを適宜配布する。
◆参考文献
・Brown, H. D. & Abeywifkrama, P.『Language Assessment: Principles and Classroom Practices, 2nd Edition』(Pearson Longman、2010年)
◆受講上の要望、または受講上の前提条件
授業では毎回テスト問題を作成し、提示してもらいますが、あらかじめ4技能のテスト問題を準備しておいてほしいと思います。テスト問題はPCなどで授業時間外に作成、印刷しておいてください。PCが手元

にない場合は、塾内ネットワークアカウント（有料）を取得しておいてください。

◆成績評価方法

最終レポートと平常点（出席状況を含む）により評価します。平常点は授業・討論に対する取り組み、毎回提出するテスト問題およびその内容などが含まれます。

科目 教職実践演習（中・高） 2単位

担当 教職課程センター准教授 安藤真聡

〔授業の到達目標及びテーマ〕

「教職課程の総仕上げ」をテーマとして、大学に入学してから〈教員としての必要な知識・見識・実行力〉をどのように形成してきたかを振り返り、教員としての適性を自らが判断できる。教員をめざす他の学生との相互評価を通して、自己の課題を的確に把握し、それを克服する方途を具体的に考えることができる。

〔授業の概要〕

〈教職ログブック〉のポートフォリオ機能及びコメント機能を活用し、本授業開始前に、これまでの教職課程における学びについて振り返りを行っておく。授業前半は、履修履歴の相互確認、教育実習の振り返りを通して、学生間の相互評価、自己評価を促し、学生は現時点における教員としての自己の力量（到達点）を的確に把握する。授業後半は、自己の課題の明確化と、その克服の具体的方途を探究することを目的に、講義と演習を複数のテーマについて行う。学生自身が教職課程における学びのすべてを統合し、また、その成果を表現すること（プレゼンテーション）で、「教職課程の総仕上げ」を行う。

〔各回の講義内容〕

〔第１回〕 事前課題で整理した履修履歴と成果物を相互に確認する。（個別発表後、総括的討論）

〔第２回〕 資料を利用し、大学の理念とそこで養成される教員像についての講義・グループディスカッション

〔第３回〕 教育実習を振り返る：その１　教科教育を中心に

〔第４回〕 教育実習を振り返る：その２　学級経営を中心に

〔第５回〕 教育実習（介護等体験を含む）を振り返る：その３　児童・生徒理解を中心に

〔第６回〕 教員をめぐる状況（教員の使命感・責任感）についての講義・グループディスカッション

〔第７回〕 新しい教育方法の探求（グループワークによる教科間の交流）

〔第８回〕 生活指導に関わる事例研究

〔第９回〕 ゲスト・スピーカーによる講演と質疑

〔第10回〕 「教職課程の総仕上げ」として自己の到達点と課題についてのプレゼンテーション①（個別発表）

〔第11回〕 同上②（総括的討論）

〔第12回〕 まとめ

〔その他〕 kcc-channel等で通知する事前課題を行った上で出席すること

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・山住正己編『福沢諭吉教育論集』岩波文庫、1991年

・西川俊作・山内慶太編『福沢諭吉著作集　第５巻』慶應義塾大学出版会、2002年

◆受講上の要望または受講上の前提条件

スクーリング開始前に、kcc-channelや〈教職ログブック〉において、事前課題等の詳細について指示を行う。kcc-channel や<教職ログブック>を定期的に確認し、事前課題に取り組んだ上でスクーリングに参加すること。

◆成績評価方法

授業でのプレゼンテーション、グループワークへの参加、レポート課題の提出のほか、〈教職ログブック〉上に提出されたこれまでの成果物も含めて総合的に評価を行う。

科目 国語科教育法Ⅱ 2単位

担当 講師 中地譲治

この授業の到達目標及びテーマは次のように示される。

（１）国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を指導案の作成と模擬授業に生かすことができる。

（２）学習指導要領に示された国語科の学習内容をもとに学問領域と関連させた授業を構想できる。

（３）様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した模擬授業を行うことができる。

そのために本授業においては、求め深めている自身の国語教育観のもとで、テキスト科目で習得している知識や熟読している学習材を、実際の授業を想定しながら教材として生かすための身体的な感覚を涵養する。まず、国語教員としての知識である国語に関する知識および国語の授業を展開するための知識を、対面授業に居合わす学習者同士で検討し合い、本授業を担い合う関係作りを目指す。その上で、お互いに国語教育観の修正を試みながら、教授者として模擬授業を行ってみて、また学習者の側にもなってみて、知識・理論に実践的な深みを与える。最後に、それまでの学びのプロセスをリフレクションとして図解化し、またそれをレポートとしてまとめる。学習者を評価するには教授者自身が自己評価できなければならないということを体験を通して実感する。

したがって、教科教育法のスクーリング授業では、学習者が「先生」になってみて、「生徒」にもなってみて、実際の教室と同じ体験をすることが求めらる。そのために授業は、お互いが授業作りに責任をもって取り組むために参画的でなければならない。お互いがその参画者となって、「国語」の成り立ち、教材研究、指導方法、評価の問題等々を協働して考え、実践する。また、教育実習を前提にした模擬授業を行うこともこの授業に求められている。履修者の人数によって時間配分は変わるが、計画―実践―リフレクションというサイクルを二回は経験できるようにする。模擬授業を

行うために考えるべきことは、次のようになろう。
①「教材選択」と「教材研究」のありかたを考え、
②生徒が主体になるための「言語活動」を構想し、
③「質問」と「発問」の違いを明確に見極め 、
④「自己形成的評価」のためのテスト問題の作り方を体得し 、
⑤学びの継続性と「自己啓発」につながる学びのあり方を常に目指していく。

〔１日目〕 国語教育の基盤としての言語行為の成り立ちを協働して考える
第１回：「話す・聞く」と「読む・書く」を展開させるラベルとラベルトークを体験する
第２回：自己形成的な国語力育成のための発問ありかたを検討する
〔２日目〕 今を生きるための言葉はどうあるべきかについて共同的に検討する
第３回：「生きる力」と「PISA型学力」という話題の言葉について検討する
第４回：高大連携の時代における国語力について検討する
〔３日目〕 現代文テキストに即して論理と共感とを取り結ぶための方法論を実践する
第５回：文学的な文章を学習材とした模擬授業を行う
第６回：論理的な文章を学習材とした模擬授業を行う
〔４日目〕「話す・聞く」の授業をICTを生かせるように構想し実践する
第７回：「インタビュー」と「スピーチ」の模擬授業を行う
第８回：「ポスターセッション」と「説明」の模擬授業を行う
〔５日目〕 古典テキストへの共感をもとに風土に生かされているという認識を共有する
第９回：散文的な古典テキストでの模擬授業を行う
第10回：韻文的な古典テキストでの模擬授業を行う
〔６日目〕 授業を通して得られた“経験知”を形にする
第11回：「ラベル図考」を共同作製しながらこの授業の自己評価項目をつくる
第12回：「学びのプロセス図解」と「自己評価レポート」を作成し、“私の変容”を形にする
その他：kcc-channel等で通知する事前課題を行った上で出席すること

◆テキスト
・林義樹（編）『ラベルワークで進める参画型教育―学び手の発想を活かすアクティブ・ラーニングの理論・方法・実践 』（ナカニシヤ出版、2015年）
※本書は出版社での在庫がないため、大学を通じての販売は行いません。受講を許可された人は、書店・Webや図書館等で事前に入手してください。入手が難しい場合、事務局分室「夏期スクーリングテキスト係」（TEL03-3454-0776）まで連絡してください。

◆参考文献
・町田守弘（編）『実践国語科教育法　第三版「楽しく、力のつく」授業の創造』（学文社、2019年）（市販書採用科目「国語科教育法Ⅰ」指定テキスト）
・『中学校学習指導要領解説「国語編」』および『高等学校学習指導要領解説「国語編」』文部科学省（文部科学省のホームページからもダウンロードできる）
・文部科学省検定済教科書「中学校国語」「高等学校国語総合」（出版社は問わない）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
教科教育法という科目は、知識の蓄積・整理という側面と、授業実践という側面とがバランスよく配列・展開されなければならない。したがって個々人ではなく教室全体で学んでいくことになる。教室に居合わせること（スクーリング）を、豊かな協同経験=言語経験に高めることが大切である。そのためには、授業への主体的な参画意欲がなければならない。また、週一回の授業であれば宿題は翌週までにこなせばよいのだが、６日連続１日105分×２時間の授業では、毎晩課題をこなさなくてはならない。体調を整え、集中して取り組んでほしい。また、授業参画のために「ラベルワーク」を用いる。双方向的、多方向的な授業になるので、活動的に楽しく取り組める。

◆成績評価方法
毎回の「ラベルワーク」への取り組みと模擬授業（教案作成も含む）の内容、および課題（「学びのプロセス図解」「自己評価レポート」の作成）を総合して評価する。

科目 国語科教育法特殊Ⅱ　２単位

担当 講師 那波克哉

〔授業の概要〕
新しい学習指導要領にも当然取り入れられる深い学び・主体的・対話的な学びを実践していくにあたり、「デザイン思考」を意識した授業作りを考えたいと思います。具体的には「学習者中心」で「対話を重視」して「問題（テスト）を作成」し、「解答について吟味」し合うことになります。この作業が学習者本人も予期していない潜在的なものを発見することにつながります。それは複数人が集まる学校という場でしか体験できない学び合いの重要な部分であると考えます。「その小説を」教えるのではなく「その小説で」何が分かり、どんな学習活動が行われれば効果的か、学習者をもう一度中心に据えて学習者の内部から起こる疑問や意欲を中心に据えた授業作りを検討したいと思います。
講義序盤は上記を意識した実践の紹介と体験の時間とし、これを踏まえて受講者各自が用意した小説を元にデザイン思考的アプローチを取り入れた模擬授業とその振り返りをしたいと思います。様々な学び合いの技法を取り入れつつ現場の雰囲気をご紹介しながら実践方法を試行錯誤したいと思います。最終的には自分の選定した小説についてをテスト形式にしたレポートを提出してほしいと思います。

〔授業の到達目標及びテーマ〕
学習指導要領を意識しながら学び合いを取り入れた授業作りができる。
模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

〔授業計画〕
〔第１回〕 対話的・主体的な学びとデザイン思考について
〔第２回〕 情報機器活用とファシリテーションについ

て
〔第３回〕 デザイン思考的アプローチに関わる実践体験（書くこと・読むこと）
〔第４回〕 デザイン思考的アプローチに関わる実践体験（話すこと・聞くこと）
〔第５回〕 デザイン思考的アプローチに関わる実践体験（書くこと・読むことの評価）
〔第６回〕 デザイン思考的アプローチに関わる実践体験（話すこと・聞くことの評価）
〔第７回〕 デザイン思考的アプローチに関わる模擬授業（中学生対象の小説：個人作業）
〔第８回〕 デザイン思考的アプローチに関わる模擬授業（中学生対象の小説：グループ作業）
〔第９回〕 デザイン思考的アプローチに関わる模擬授業（中学生対象の小説：まとめ）
〔第10回〕 デザイン思考的アプローチに関わる模擬授業（高校生対象の小説：個人作業）
〔第11回〕 デザイン思考的アプローチに関わる模擬授業（高校生対象の小説：グループ作業）
〔第12回〕 デザイン思考的アプローチに関わる模擬授業（高校生対象の小説：まとめ）
〔その他〕 kcc-channel等で通知する事前課題を行った上で出席すること。ICT機器活用についてはG SuiteのGoogleドキュメントやGoogleスプレッドシート、Googleフォームについても触れます。どのようなものか事前に把握しておいてください。

◆テキスト
プリントを適宜配布する

◆参考文献
・中原國明、大熊徹編『国語科授業用語の手引き　第二版』（教育出版、2009年）
・堀裕嗣『教室ファシリテーション10のアイテム100のステップ』（学事出版、2012年）
・堀裕嗣『国語科授業づくり10の原理 100の言語技術』（明治図書出版、2016年）
・本谷宇一『子どもが「発問」する学びの教室―「学習材」で変わる国語の授業』（一光社、2011年）
・町田守弘『実践国語科教育法――「楽しく、力のつく」授業の創造〔第三版〕』（学文社、2019年）（市販書採用科目「国語科教育法Ⅰ」指定テキスト）
・新学習指導要領（平成29年３月公示）　※文部科学省のホームページよりダウンロードできる
・「文部科学省検定済教科書　中学校国語　または高等学校国語」出版社不問

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
参考文献に目を通し、学び合いの方法については内容を把握しておくことが望ましい。

◆成績評価方法
授業内コメント等の平常点70%、レポート30%で評価します。

科目 社会科・地理歴史科教育法Ⅱ　２単位

担当 講師 吉村日出東

〔授業の到達目標及びテーマ〕
社会科という教科は、時代の変遷の中で、特に歴史認識の問題を中心に変質してきた。これに関する理解の上に、国土認識と歴史認識をより深められる授業を構想できるようになる。
① 社会科教育における代表的社会科観及び歴史認識について理解する。
② 学習指導要領の社会科学習内容を理解し、多様な教材を活用できるようになる。
③ 学習指導案を作成し、模擬授業を行えるようになる。

〔授業の概要〕
高等学校社会科は、1989年版学習指導要領から廃止され、地理歴史科と公民科に再編成された。この時の経緯を見ていくと歴史科目の専門性・系統性という課題が主要論点であった。このことは、地理歴史科において求められる国土認識と歴史認識の問題は特に時代の変化に翻弄されやすいものであると理解したうえで、空間的把握としての地理学習と時系列的把握の歴史学習の関係性について深めた学習づくりを目指していく。
〔第１回〕 社会科における歴史教育について
〔第２回〕 戦前期日本の歴史教育
〔第３回〕 日本神話の歴史教育の場での取り扱いについて
〔第４回〕 戦前期の教科書の内容と現代との相違について
〔第５回〕 家永三郎の社会科観
〔第６回〕 現代史の扱いについて
〔第７回〕 学習指導要領に示された学習内容と評価について
〔第８回〕 国土認識と地誌について
〔第９回〕 教材の活用法　グラフと地図について（ICTの活用を含む）
〔第10回〕 学習指導案の作成と評価
〔第11回〕 模擬授業　地理編
〔第12回〕 模擬授業　歴史編
〔その他〕 地歴学習における地域巡回方法について大学周辺で実施する場合がある。

◆テキスト
プリントを適宜配布する。

◆参考文献
・『中学校学習指導要領解説　社会』文部科学省、東洋館出版、平成30年３月31日
・『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』文部科学省、近刊
・家永三郎『一歴史学者の歩み』岩波現代文庫
・日本社会科教育学会編『社会科教育事典』ぎょうせい、2012年

◆学生に対する受講上の要望、または受講上の前提条件
kcc-channel等で通知する事前課題を行った上で出席すること

◆成績評価方法
Ａ各回に行う確認テスト又はリアクションペーパー、レポート及びＢ模擬授業又は学習指導案で評価する。

科目 社会科・公民科教育法Ⅱ　2単位

担当 講師 山田規雄

〔授業の到達目標及びテーマ〕
　中学校社会科・高等学校公民科の基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
〔授業の概要〕
　教育実習を行う上で必要な教科指導等に関する知識や実践的技能を身につけるため、最新の研究動向もふまえながら、教材研究、授業案の作成、それに基づく模擬授業の実施、担当者および受講生同士の相互評価などをおこなう。
〔第１回〕 ガイダンス
〔第２回〕 社会科・公民科の内容構成と全体構造
〔第３回〕 学習指導と学習評価
〔第４回〕 年間指導計画と学習指導案の作成
〔第５回〕 模擬授業と相互評価（中学校１，２年生の実態を視野に入れた授業設計）
〔第６回〕 模擬授業と相互評価（中学校３年生、高校１年生の実態を視野に入れた授業設計）
〔第７回〕 模擬授業と相互評価（高校２，３年生の実態を視野に入れた授業設計）
〔第８回〕 模擬授業と相互評価（中等社会科教育における情報機器と教材の効果的な活用法）
〔第９回〕 模擬授業と相互評価（中学校における情報機器と教材の効果的な活用法）
〔第10回〕 模擬授業と相互評価（高等学校における情報機器と教材の効果的な活用法）
〔第11回〕 社会科・公民科の実践研究の動向
〔第12回〕 試験と総括
〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト
・文部科学省『中学校学習指導要領解説　社会編』
・文部科学省『高等学校学習指導要領解説　公民編』
（最新版の「学習指導要領解説」は文部科学省のホームページからダウンロード可能）
・文部科学省検定済教科書　中学校社会または高等学校公民分野
（科目、出版社不問。ただし模擬授業実施予定の科目、分野の教科書を用意すること。各地の「教科書取次店」で入手可能）

◆参考文献
・日本公民教育学会『公民教育事典』（第一学習社、2009年）
・日本社会科教育学会『新版　社会科教育事典』（ぎょうせい、2012年）

◆成績評価方法
　最終レポート及び平常点による。

科目 英語科教育法Ⅱ　2単位

担当 講師 渋谷和郎

〔授業の到達目標及びテーマ〕
　将来、英語教育に携わろうと思うものを対象に、中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導の基礎を身に付けさせることを授業目標とする。大枠としては、受講者が、カリキュラム・シラバスに関するもの、生徒の資質・能力を高める指導に関するもの、授業づくりに関するものを学習し、理解し、そして実際の授業指導に生かすことができるような力を養うことが本授業の到達目標である。
〔授業の概要〕
　内容的には、英語科教育法の理論的側面（目的論、カリキュラム論、教材論、学習者論、教授法論、評価方法論など）に基盤を置いたうえで、本授業においては、特に、英語科教育法の実践的側面（教育実習への準備を目的として、学生による模擬授業も含めて、学習指導案の書き方、４技能（スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング）・文法、語彙、実践的コミュニケーション能力の指導法、ICTの活用）について学び、理解し、実践する。これらの内容を学習する過程において、授業は教員の講義にとどまることなく、授業観察、授業体験、模擬授業などを盛り込んで行う。
〔授業計画〕 ※［　］は教科書該当箇所
〔第１回〕 学習到達目標に基づく授業の組み立て方及び学習指導案の作成［第13章］
〔第２回〕 リスニング指導［第７章］
〔第３回〕 スピーキング指導［第８章］
〔第４回〕 リーディング指導［第９章］
〔第５回〕 ライティング指導［第10章］
〔第６回〕 ４技能を統合した言語指導、教材及びICTを活用した指導［第11・12章］
〔第７回〕 音声、文字、語彙・表現及び文法指導、学習者の特性や習熟度に応じた指導［第３・11章］
〔第８回〕 異文化理解に関する指導、ティーム・ティーチング及び英語でのインタラクション［第４章］
〔第９回〕 模擬授業（１）―中学生を対象として―［第15・16章］
〔第10回〕 模擬授業（２）―中学生・高校生を対象として―［第15・16章］
〔第11回〕 模擬授業（３）―高校生を対象として―［第15・16章］
〔第12回〕 総括・試験
〔その他〕 kcc-channel 等で通知する事前課題を行った上で出席すること。

◆テキスト
・岡田圭子他（編著）『基礎から学ぶ英語科教育法』（松柏社、2015年）（市販書採用科目「英語科教育法Ⅰ」指定テキスト）

◆参考文献
・望月昭彦（編著）『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店、2010年）
・馬場今日子・新多了『はじめての第二言語習得論講義』（大修館書店、2016年）
・バトラー後藤裕子『日本の小学校英語を考える』（三省堂、2005年）
・パッツィ・M.ライトバウン、ニーナ・スパダ『言語はどのように学ばれるか』（岩波書店、2014年）
・文部科学省『小学校学習指導要領』（2017年）

・文部科学省『中学校学習指導要領』(2017年)
・文部科学省『高等学校学習指導要領』(2009年)

◆成績評価方法

授業内活動、模擬授業及び筆記試験をもとに総合的に評価します。

科目 英語科教育法特殊Ⅱ　2単位

担当 文学部教授 中村優治

〔授業の到達目標及びテーマ〕

将来、英語教育に携わることを希望する者を対象としており、英語科教育法の理論の更なる理解と共に、言語テストの理論と実践をも生かした授業実践方法を研究します。授業は指導と評価の融合を念頭におきつつ、特に、言語テスト理論の説明とテスト問題作成実践を中心に展開します。テストのための指導ではなく、学習の質を高め、生徒の能力を高めることを目標とする指導ができる教員を育てるためのテスティング指導を行いたいと思います。

〔授業の概要〕

受講者はお互いが提供したテスト問題例をテスト理論と実践の両面から分析し、よりよい評価、授業に向けて、アイデア、問題点の共有、問題の解決をめざして活発な討論をしてほしいと考えています。授業では毎回テスト問題を作成し、提示してもらいますが、あらかじめ４技能のテスト問題を準備しておいてほしいと思います。テスト問題はＰＣなどで授業時間外に作成、印刷しておいてください。ＰＣが手元にない場合は、塾内ネットワークアカウント（有料）を取得しておいてください。各回の進行内容と指定教科書の構成対応は以下の通りである。

〔授業計画〕

〔第１回〕 テスト作成の原則１（２章１）：テストの種類、テストの作り方
〔第２回〕 テスト作成の原則２（２章２）：観点別評価・CAN-DOリストとの関係、テストに必要な３要素　（妥当性、信頼性、実用性）
〔第３回〕 テスト作成の原則３（２章３）：定期テストと小テスト
〔第４回〕 テストの作成・実施時の注意点１（２章４）：スピーキング、ライティング
〔第５回〕 テストの作成・実施時の注意点２（２章５）：リスニング、リーディング
〔第６回〕 テストの作成・実施時の注意点３（２章６）：技能統合型テスト　（スピーキング、ライティング）
〔第７回〕 テスト作成演習１（３章１）：スピーキングテスト
〔第８回〕 テスト作成演習２（３章２）：ライティングテスト
〔第９回〕 テスト作成演習３（３章３）：リスニングテスト
〔第10回〕 テスト作成演習４（３章４）：リーディングテスト
〔第11回〕 テスト作成演習５（３章５）：技能統合型スピーキングテスト
〔第12回（３章６）〕 テスト作成演習６：技能統合型ライティングテスト
〔その他〕 kcc-channel 等で通知する事前課題を行った上で出席すること

◆テキスト

・小泉利恵他（編著）(2017)『実例でわかる英語テスト作成ガイド』大修館書店

◆参考書・参考資料等

・文部科学省（2017）.『小学校学習指導要領』
・文部科学省（2017）.『中学校学習指導要領』
・文部科学省（2009）.『高等学校学習指導要領』

◆学生に対する評価

最終レポートと平常点により評価します。平常点は授業・討論に対する取り組み、毎回提出するテスト問題およびその内容などが含まれます。

科目 道徳教育論　2単位

担当 講師 山本剛史

〔授業の到達目標及びテーマ〕

古来より哲学・倫理学が問うてきた道徳教育に関するいくつもの問題は，解消される類の問題ではない。道徳教育を実施するに当たっては，そのような問いに対して各教師が自覚的になったうえで教育目標や方法を設定する必要があると考えられる。各受講生が、その必要性を理解したうえで道徳教育に関する自分なりの具体像を描き出すきっかけづくりを目指す。

〔授業の概要〕

中学校教育職員免許状取得を念頭に，「特別の教科道徳」が中学校でも実施されることを踏まえて、学校の教育活動全体を通じて行うものとされる道徳教育について、理論的考察と授業内での実践を往復しながら、とにかく批判的多面的に道徳教育を構想する能力の重要性の認識と当該能力の育成を目指す。

〔第１回〕 授業の概要説明＋倫理学的考察（１）‐道徳教育における理性と感情，道徳の教授可能性
〔第２回〕 倫理学的考察（２）‐「自律」と「啓蒙」
〔第３回〕 倫理学的考察（３）‐「隣人愛」なら教え込みO.K?
〔第４回〕 道徳性の発達をめぐる議論 ‐ ルソーからピアジェへ
〔第５回〕 コールバーグ理論及び「価値の明確化」理論の実践および批判
〔第６回〕 日本道徳教育史（１）‐ 教育勅語と戦前の修身教育
〔第７回〕 日本道徳教育史（２）‐ 全面主義道徳教育の概要と指導記録の検討
〔第８回〕 いのちと人権の教育について ‐ DVD鑑賞とグループワーク
〔第９回〕「課題研究」‐ 読み物資料をいかに活用すべきか、模擬授業を通して考える
〔第10回〕 道徳教育の課題：宗教教育およびICTの活用
〔第11回〕「道徳」学習指導要領史と教科「道徳」における評価の問題
〔第12回〕 授業内容の総括並びに筆記試験
〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト
プリントを適宜配布する。
◆参考文献
・宇佐美寛『「道徳」授業に何ができるか』（明治図書、1989年）
・松下良平『道徳教育はホントに道徳的か？』（日本図書センター、2011年）（市販書採用科目「新・道徳教育論」指定テキスト）
・パオロ・マッツァリーノ『みんなの道徳解体新書』（ちくまプリマー新書、2016年）
以上三冊を「課題研究」のために前もって読んでおくこと。宇佐美寛については三田及び日吉図書館のリザーブブックに指定してあるので、そちらを利用し、第１部１～５章までと、第２部２章を読んでおくこと。松下良平については第１章並びに第２章を読んでおく。マッツァリーノは開講前に一冊丸ごと読んでおくこと。
その他、発展的学習のための参考文献を以下に記す。
・越野章史『市民のための道徳教育 － 民主主義を支える道徳の探求 － 』（部落問題研究所、2016年）
・藤川大祐『道徳教育は「いじめ」をなくせるのか―教師が明日からできること』（NHK出版、2018年）
・藤川大祐『道徳授業の迷宮―ゲーミフィケーションで脱出せよ』（学事出版、2018年）
・宮澤弘道、池田賢市『「特別の教科　道徳」ってなんだ？－子どもの内面に介入しない授業・評価の実践例』（現代書館、2018年）
・木野正一郎『新発想！道徳のアクティブ・ラーニング型授業はこれだ』（みくに出版、2016年）
・堀越英美『不道徳お母さん講座：私たちはなぜ母性と自己犠牲に感動するのか』（河出書房新社、2018年）
・プラトン『ラケス』（三島輝夫訳）（講談社学術文庫、1997年）
・浪本勝年ほか編『史料　道徳教育を考える（４改訂版）』（北樹出版、2017年）他多数。
◆成績評価方法
最終日に行う筆記試験と、課題研究における模擬授業指導に関する小レポートを総合して評価する。

教科に関する専門教育科目

科目 英会話　1単位

担当 講師 ヤング,ジェローム

◆Course Description
The aim of this class is to help students improve their ability to communicate naturally in English. This course uses contemporary English lyric poetry, songs, as a way to deepen students' understanding of the natural rhythm of spoken English. Using songs from around the world will expose students to a variety of English dialects, cultural norms, political debates, and will also given them an opportunity to learn about and understand the historical circumstances that gave rise to various musical styles, genres.
Students will be encouraged to engage actively in learning songs--though no singing talent is required in this class. Students will be coached on how best to use lyric poetry to improve their spoken English. The goal of these oral exercises is to build student confidence in speaking English by improving students' pronunciation and intonation, and by improving their understanding of the natural flow of spoken English.
In addition to these practical aspects of spoken English, there will be various writing, reading, and research assignments throughout the semester, designed to get students engaged with various topics related to popular music, culture, and history, and to deepen their understanding of the English language itself.
During the first half of the semester there will be listening and comprehension exercises, as well as worksheets and writing assignments. Toward the end of the semester, students will give presentations on their research of popular music and culture. These presentations will be about 15 minutes each, will involve the use of PowerPoint, and will be followed by questions from the audience. Active and enthusiastic participation and regular attendance in this class are essential, and are guaranteed to help students become better speakers of English.
◆Course Plan
Week 1　The Music of English
Week 2　Genres of Popular Music
Week 3　A Music Survey Worksheet
Week 4　Finding the Beat: Rock 'n' Roll
Week 5　Lyric Analysis: Five Points of View
Week 6　Lyrics Analysis Worksheet
Week 7　Cultural Influences on Music: The Blues
Week 8　Thesis Worksheet
Week 9　Facts, Turning Point, Luck: The Business of Music
Week 10　Oral exam 1
Week 11　Student Presentations
Week 12　Student Presentations
Week 13　Student Presentations
Week 14　Review

◆Method of Evaluation

There will be continuous evaluation of a student's performance and progress in this class. Final grades will be based on attendance, active class participation, timely completion of all homework assignments, worksheets, final presentations, and oral examinations.

◆Textbook

There is no textbook for this class. Instead, the instructor will provide readings and worksheets, as well as relevant websites, for each lesson.

◆Lecturer's Comments to Students

Regular on-time attendance, preparation of weekly homework assignments and worksheets, and active participation in class (using English at all times).

◆Questions/Comments

When students have questions, they can ask me before, during, or after class, or via email (hayamajay@yahoo.com).